

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア考古学	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	2年	問い合わせ先は E-mail「sizuka@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	アジアの遺跡や考古学研究について紹介する。広くアジア地域の考古学と南島考古学を比較研究するための基礎知識の習得を目標とする。	【実務経験】遺跡の保存整備などの実務経験を活かし、沖縄の遺跡との比較を中心に、アジアの遺跡や遺物について解説します。
到達目標	考古学のモノの見方、考え方を理解し、自分で発問し調べ報告することができる。 広い地域、長期の時間的変遷という広い視点で、琉球列島の文化事象について遺跡・遺物から考える事ができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人類と道具	シラバスをよく読むこと
	2	旧石器文化概観	テキスト、配布資料をよく読むこと
	3	新石器文化概観	テキスト、配布資料をよく読むこと
	4	アジアの新石器文化	テキスト、配布資料をよく読むこと
	5	アジアの先史時代住居	テキスト、配布資料をよく読むこと
	6	韓国の住居建築（1）	テキスト、配布資料をよく読むこと
	7	中国の住居建築（2）	テキスト、配布資料をよく読むこと
	8	東南アジアの住居建築（3）	テキスト、配布資料をよく読むこと
	9	アジアの墳墓	テキスト、配布資料をよく読むこと
	10	アジアの瓦窯生産	テキスト、配布資料をよく読むこと
	11	東南アジアと石造文化	テキスト、配布資料をよく読むこと
	12	アジア地域の城郭	テキスト、配布資料をよく読むこと
	13	アジアの信仰遺跡	テキスト、配布資料をよく読むこと
14	仏教文化遺産	テキスト、配布資料をよく読むこと	
15	世界遺産	テキスト、配布資料をよく読むこと	
16	テスト・レポート提出	各自課題に取り組むこと	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：飯島武次2015年『中国考古学のでびき』同成社。四日市康博（編著）2008年『モノから見た海域アジア史（九大アジア叢書11）』九州大学出版会。江上波夫（編著）1976年『考古学ゼミナール』山川出版。</p> <p>参考文献：宮本一夫2005年『中国の歴史01 神話から歴史へ 神話時代夏王朝』講談社。坂井隆、新田栄治（編著）1998年『東南アジアの考古学（世界の考古学⑧）』同成社。西谷正2016年『北東アジアの中の弥生文化 私の考古学講義上』梓書院。西谷正2016年『北東アジアの中の古墳文化 私の考古学講義下』梓書院。</p> <p>基本的に講義形式で行い、関連資料を配付する。</p>		
学びの手立て	<p>履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。</li> <li>・提出するレポートと課題は、厳守の上必ず取り組むこと。</li> <li>・「考古学概論」「沖縄の考古学」を事前に受講しているとより理解が早い。</li> </ul>		
評価	レポート（80%）、テーマは東アジアの遺跡や遺物、文化等に関するテーマについて1題を課す。平常点（20%）。提出レポートと平常点によって総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>アジアの考古学研究によって得られた研究成果を広く教養として身につけ、南島考古学をアジアの視点で理解する。</p> <p>関連科目としては「アジア史」「アジア文化概論」「沖縄の考古学」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア史	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前田 勇樹	2年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では主にアヘン戦争以降、近代への大きな転換期を迎える19世紀末の東アジアの歴史や文化を通して、世界的な大きな流れを掴み、その中で地域社会にどのような変化が生じたのか受講者と共に考えていきます。アヘン戦争や欧米列強の進出、日本帝国の誕生、伝染病などいくつかのトピックを通して東アジア社会の変化を捉え、最終的には現代社会の問題に繋げて考えることが目標です。	高校までの「歴史＝暗記」とは異なり、本講義では歴史事象を通して「考える」ことを受講者に求めます。一つ一つの出来事にはどのような意味があり、どのような繋がりがあるのか、担当教員も含めて受講者全員で考えていきましょう。
到達目標	19世紀末から始まるアジアの近代化について学ぶことで、単純な一国史(例えば日本史や中国史など)を超えた広い視野で歴史を捉える能力の獲得を目指します。何がどのように影響し合っている歴史が動いてきたのか、アジアへの欧米列強の進出と「近代」の流入を通して学んでいきます。その一方で、この大きな歴史の流れが地域社会にどのような影響を与えたのか、講義の後半では琉球(沖縄)の事例を中心に学びます。マクロとミクロ双方の視点を関連させて歴史を考える事は、今後皆さんが各自の研究を進める上でも重要な能力と言えます。また、今私たちが生きている近代国家は、アジアでは本講義で扱う19世紀末から形成されていきます。本講義を通して、自分が生きている現在を考える視点を養うことができるでしょう。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの熟読
	2	「アジア」とは何か?	配布資料を使った予習・復習
	3	アジア史とは①	配布資料を使った予習・復習
	4	アジア史とは②	配布資料を使った予習・復習
	5	アジア史とは③	配布資料を使った予習・復習
	6	アジア史とは④	配布資料を使った予習・復習
	7	アジア史とは⑤	配布資料を使った予習・復習
8	中間テスト	2～7の授業資料の見直し	
9	欧米列強のアジア進出①	配布資料を使った予習・復習	
10	欧米列強のアジア進出②	配布資料を使った予習・復習	
11	欧米列強のアジア進出③	配布資料を使った予習・復習	
12	琉球処分とその時代①	配布資料を使った予習・復習	
13	琉球処分とその時代②	配布資料を使った予習・復習	
14	伝染病と東アジアの近代①	配布資料を使った予習・復習	
15	伝染病と東アジアの近代②	配布資料を使った予習・復習	
16	期末テスト	9以降を中心に全配布資料の熟読	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	講義は配布資料とパワーポイントを中心に、資料は毎回担当教員から配布します。参考文献や読んでおいてほしい文献については、適宜授業中に紹介します。		
	学びの手立て		
	講義は基本的に配布資料やパワーポイントを用いた座学形式で行います。授業内容で重要だと思った内容に関しては適宜メモをとり、不明な点や疑問的についてはそのまませず、リアクションペーパーに書くか、担当教員に直接質問してください。授業の内容を聞いて特に興味深いと思ったことについて、受講者自ら文献や論文を探して読んでおくことを推奨します。また、出席の確認も兼ねて受講者に意見や考えを聞くことがあります。		
	評価		
	中間考査30%(穴埋め問題と論述問題)、期末考査40%(穴埋め問題と授業内容に関する論述問題)、平常点30%(毎回の授業態度と授業後のリアクションペーパーの内容) 無断欠席5回以上は不可とします。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	このアジア史の講義を通して歴史をみる時に重要なマクロ(アジア)とミクロ(各地域社会の変化)両方の視点が身に付くと思います。これは歴史研究のみに限らず、現代社会が抱える多くの問題を考える上でも重要な能力と言えます。受講者各自の今後の研究や日々の実践の中で生かしてもらいたいです。

※ポリシーとの関連性

本講義は「沖縄をとりまく世界の社会や文化」を知るためのものである。「アジアのなかの沖縄」を考える際の必須知識を提供する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア社会文化論 I	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	2年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「アジアの時代」が叫ばれて久しい。しかし、私たちの「アジア」理解は極めて限られたものである。沖縄・日本の社会・文化的特徴を考察し、その未来を構想する上でも、周辺アジア地域との比較は欠かせない。本講義では、東アジア、東南アジア、オセアニアの諸社会・文化に関する基本的な知識の習得を基礎としながら、そこにみられる差異と共通点について講義する。</p>	<p>「沖縄を知る」ことは重要である。周辺アジア地域の社会・文化を理解することは、自社会・自文化の理解を深めることにつながる。ぜひ、「アジアのなかの沖縄」を考え、沖縄・日本の未来を切り拓く人材を目指して欲しい。</p>
到達目標	<p>周辺アジア地域の文化に関する基礎的な知識を身に付け、比較という視点からこれらの諸地域ならびに沖縄・日本の文化を考察することができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス ——なぜいま「アジア」を学ぶのか？	アジア関連の情報を調べる。
	2	「アジア」とは何か？	アジア概念の変遷を調べる。
	3	中国の社会と文化（1）——概要／歴史／民族	中国に関する情報を調べる。
	4	中国の社会と文化（2）——親族関係	沖縄の親族関係と比較する。
	5	朝鮮半島の社会と文化（1）——概要／歴史	朝鮮に関する情報を調べる。
	6	朝鮮半島の社会と文化（2）——親族・社会関係と宗教	沖縄の親族・宗教と比較する。
	7	日本の社会と文化——文明の生態史観／タテ社会論／民族性論	日本人論を読んでみる。
	8	台湾の社会と文化（1）——概要／歴史／民族	台湾に関する情報を調べる。
	9	台湾の社会と文化（2）——映像鑑賞	台湾映画を鑑賞する。
	10	台湾の社会と文化（3）——原住民族の歴史と現在	原住民族文化について調べる。
	11	東南アジアの社会と文化（1）——概要／歴史／宗教	東南亜に関する情報を調べる。
	12	東南アジアの社会と文化（2）——インドネシア・バリ島	沖縄の観光文化と比較する。
	13	オセアニアの社会と文化（1）——太平洋島嶼世界の基層文化	オセアニアの歴史を調べる。
14	オセアニアの社会と文化（2）——ハワイの歴史・文化・現在	ハワイの文化について調べる。	
15	まとめ—— アジア・太平洋的視座の重要性	アジア世界の概要を復習する。	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特になし。（毎回の講義ではレジュメおよび資料を配布する） 参考文献については、毎回の講義の際に適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺アジア地域の諸文化について関心を持ち、沖縄・日本の文化をそれらとの比較において考察することを心掛けてほしい。</li> <li>・毎回講義の際に出席確認をかねて受講生にレスポンス・ペーパーの提出を求めらるので、毎回の講義の要点を自分なりに整理する癖をつけること。</li> <li>・他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意すること。</li> </ul>		
評価	<p>平常点（30％）、テスト（70％）          授業への出席および積極的な授業態度を重視する。その上で、学期末テストの成績・内容を加味し、総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目          アジア社会文化論 I・II・III、比較民俗学、文化人類学理論、etc.</p>
-------	----------------------------------------------------------------------

※ポリシーとの関連性

本科目は、「フィールドワーク」・「比較文化的観点」を強調する  
本学科の教育目標の実現において不可欠なものである。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア社会文化論Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-神谷 智昭	2年	授業終了後教室にて受付	

学びの準備	ねらい 近くて遠い国といわれる隣国、韓国の社会と文化について理解することを目指す。	メッセージ 一見、奇妙に思える異文化の慣習・制度でも、その文化なりの論理や価値観の上に成り立っています。「なぜ異文化の人々はそう考えるのか、自分達の場合はどうなのか」という疑問を常に持ち、受講して下さい。
	到達目標 ①韓国の社会・文化を理解するための基礎的知識を身につけることができる。 ②ある文化の中で、歴史・家族親族・村落・民俗・宗教などが相互に関連しあっていることを理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義全体の説明	
	2	韓国の歴史（1）	韓国の古代史について調べる
	3	韓国の歴史（2）	韓国の中世史について調べる
	4	韓国の歴史（3）	韓国の近世史について調べる
	5	韓国の言語	韓国（朝鮮）語について調べる
	6	韓国の家族・親族（1）	韓国の家族・親族について調べる
	7	韓国の家族・親族（2）	韓国の家族・親族について調べる
	8	韓国の祖先祭祀	韓国の祖先祭祀について調べる
	9	韓国の村落（1）	韓国の村落について調べる
	10	韓国の村落（2）	韓国の村落について調べる
	11	韓国の村落祭祀	韓国の村落祭祀・年中行事を調べる
	12	韓国のシャーマニズム	シャーマニズムについて調べる
	13	変貌する韓国社会（1）	現代韓国の社会・文化を調べる
	14	変貌する韓国社会（2）	現代韓国の社会・文化を調べる
	15	変貌する韓国社会（3）	現代韓国の社会・文化を調べる
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 特定の教科書は用いず、毎回配布するレジュメと資料、映像資料などを使用します。		
	学びの手立て 履修に際しては、通常の出席確認だけでなく、リアクション・ペーパー（感想・質問・意見）の提出を求める場合がある。他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意すること。		
	評価 期末試験（論述式）80%、授業態度（リアクションペーパーの内容）20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習Ⅰ 演習Ⅱ アジア社会文化論Ⅲ 比較民俗学
-------	----------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア社会文化論Ⅲ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	一ダグラス トライスタッフ	2年	https://bee.okiu.ac.jp/mod/page/view.php?id=7062 / ptt1127@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	In this course students are introduced to Asian culture through the eyes of a particular ethnic group. The social and cultural characteristics are brought into focus through interaction with other cultures. This course is conducted in Japanese, but English text materials are utilized.	Don't be afraid of English. The lecture is conducted in Japanese.

到達目標	このコースは、ラオスとタイ北部に住んでいるモン族中に焦点を合わせ、そのレンズを通して、アジアの文化と社会を論じる。下記の内容について検討する：
------	-------------------------------------------------------------------------

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、講義概要、LMSの登録、Wikiの書き込み方	LMSの登録
	2	タイ北部の六つの民族	Wikiの書き込み、次の章の翻訳
	3	モン族の歴史	Wikiの書き込み、次の章の翻訳
	4	神話と伝説	Wikiの書き込み、次の章の翻訳
	5	モン族の族民族衣装	Wikiの書き込み、次の章の翻訳
	6	氏族と親族関係	Wikiの書き込み、次の章の翻訳
	7	村落組織	Wikiの書き込み、次の章の翻訳
	8	年中行事	Wikiの書き込み、次の章の翻訳
	9	伝統工芸	Wikiの書き込み、次の章の翻訳
	10	宗教と信仰：シャーマン、アニミズム、先祖崇拜	Wikiの書き込み、次の章の翻訳
	11	農業と経済	Wikiの書き込み、次の章の翻訳
	12	伝統的治療法	Wikiの書き込み、次の章の翻訳
	13	秘密の戦争	Wikiの書き込み、次の章の翻訳
	14	モン族の離散	Wikiの書き込み、次の章の翻訳
	15	移民：異文化接触と文化の変化	Wikiの書き込み、次の章の翻訳
16	期末テスト	self reflection	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト: Lewis, Paul and Elaine. Peoples of the Golden Triangle 参考文献: ・鈴木正嵩. ミャオ族の歴史と文化の動態. 風響社. 2012 ・Fadiman, Anne. The Spirit Catches You and You Fall Down. 1997. Farrar, Straus, and Giroux ・Symonds, Patricia V. Calling in the Soul. 2004. University of Washington Press

学びの手立て	Keep up with the class readings!
--------	----------------------------------

評価	発表・参加度 - 60% テスト・レポート - 40%
----	--------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 アジア社会文化論I、アジア社会文化論II、アジア社会文化論IV、卒論 外国語で書かれている専門分野の資料・論文を読んで、理解し、発見した問題の分析する力を養成する。
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア社会論	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-河村 雅美(7回)・坪井 美恵(8回)	2年	メールは河村ptt503@okiu.ac.jp 坪井kokintoi@yahoo.co.jp。相談あれば授業後に。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	アジア、特に東南アジア（主にタイとベトナム）の社会を理解するための授業です。前半は他地域を理解するとはどのようなことか、異文化を理解するとは何かを考える時に、必要な知識、視点を養っていきます。後半は主にベトナムの言語や食文化などの身近なテーマからベトナム社会を、またベトナムと沖縄の関係について学びます。	担当講師2人のオムニバス授業となります。講師はそれぞれタイとベトナムを専門としているので、東南アジアのトピックが多くなります。東南アジアのことはあまりなじみがないかもしれませんが、とても面白い地域なので、皆さんに興味をもってもらえるように身近な物を取りあげたり視覚的に楽しみながら学べるようにしていきます。
到達目標	(1)アジア社会についての基本的な知識を学ぶ (2)アジアと日本・沖縄の関係についての知識を学ぶ (3)他者や異文化を理解するとはどのようなことが必要かについての視点を持つ	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 前半 オリエンテーション・ガイダンス 時事問題（コロナ禍の東南アジア等）	シラバスや授業の流れの理解
	2	(特) セッション1 アジア社会を理解するとは？(1)背景知識としての東南アジア	補助配布資料の理解
	3	(特) セッション1 アジア社会を理解するとは？(2)「地図」「地名」からみるアジア	リアクションペーパー執筆
	4	(特) セッション1 アジア社会を理解するとは？(3) 知っておいてほしい理論の紹介①	補助配布資料の理解
	5	(特) セッション2 異文化を理解するとは？(1)“文化”が違うとは何か？を考える	補助配布資料の理解
	6	(特) セッション2 異文化を理解するとは？(2)“文化”が違うとは何か？を考える	リアクションペーパー執筆
	7	(特) セッション2 異文化を理解するとは？知っておいてほしい理論の紹介②	レポート準備
	8	(特) 後半 ベトナムの基礎知識と地理	補助配布資料の理解
	9	(特) ベトナムの言語 (1) 基本構造と基本のあいさつ	補助配布資料の理解
	10	(特) ベトナムの言語 (2) ベトナム語を聞いてみよう	リアクションペーパー執筆
	11	(特) ベトナムの言語 (3) 語族と漢文化圏、クオック・グー（国語）成立史	補助配布資料の理解
	12	(特) ベトナムの食をめぐる地理 (1) ベトナムの食材と料理を見てみよう	補助配布資料の理解
	13	(特) ベトナムの食をめぐる地理 (2) 「食文化」を考える	リアクションペーパー執筆
14	(特) 沖縄・ベトナム関係史 (1)	レポート準備	
15	(特) 沖縄・ベトナム関係史 (2)	レポート準備	
16	(特) レポート提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは指定しません。講師の作成した資料を使います。</li> <li>・説明資料をオンラインで配布します。</li> <li>・参考文献等も各講師から提示します。</li> <li>・河村担当は沖縄googleサイトで使用資料・配布資料を配布します。 <a href="https://sites.google.com/view/2020okiu-asiashakairon/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0">https://sites.google.com/view/2020okiu-asiashakairon/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0</a></li> </ul>		
	学びの手立て		
	<p>[履修の心構え] アジア社会の細かい知識を覚えることは、要求しません。「他者」「他地域」「異文化」を知るとはどのようなことなのか、アジアと私達の関係を具体的な例を通じて考えることを重視します。</p> <p>[学びの手立て] 積極的にアジアのニュースに接したり、映画や書籍に触れることを心がけてほしいと思います。</p>		
	評価		
	<p>河村（前半、50点）：授業への参加姿勢・平常点（20点）+中間レポート（30点）、坪井（後半、50点）：授業への参加姿勢・平常点（20点）+期末レポート（30点）で評価します。詳細は講義の中で提示します。</p> <p>[授業への参加姿勢]授業に対するリアクションペーパーや小課題の提出により評価します。</p> <p>[中間：期末レポート]各担当分終わりにレポートを課します。レポートの提出のみでは単位取得は不可です。リアクションペーパーが規定提出数の2/3に達していない場合は不可となります。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語資料講読演習Ⅰ・Ⅱ、社会・平和領域の選択科目
-------	------------------------------------------

※ポリシーとの関連性

本講義は「沖縄をとりまく世界の社会や文化」を知るためのものである。「アジアのなかの沖縄」を考える際の必須知識を提供する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア文化概論	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	2年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「アジアの時代」が叫ばれて久しい。しかし、私たちの「アジア」理解は極めて限られたものである。沖縄・日本の社会・文化的特徴を考察し、その未来を構想する上でも、周辺アジア地域との比較は欠かせない。本講義では、東アジア、東南アジア、オセアニアの諸社会・文化に関する基本的な知識の習得を基礎としながら、そこにみられる差異と共通点について講義する。</p>	<p>「沖縄を知る」ことは重要である。周辺アジア地域の社会・文化を理解することは、自社会・自文化の理解を深めることにつながる。ぜひ、「アジアのなかの沖縄」を考え、沖縄・日本の未来を切り拓く人材を目指して欲しい。</p>
到達目標	<p>周辺アジア地域の文化に関する基礎的な知識を身に付け、比較という視点からこれらの諸地域ならびに沖縄・日本の文化を考察することができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス ―なぜいま「アジア」を学ぶのか？	アジア関連の情報を調べる。
	2	「アジア」とは何か？	アジア概念の変遷を調べる。
	3	中国の社会と文化（1） ―概要／歴史／民族	中国に関する情報を調べる。
	4	中国の社会と文化（2） ―親族関係	沖縄の親族関係と比較する。
	5	朝鮮半島の社会と文化（1） ―概要／歴史	朝鮮に関する情報を調べる。
	6	朝鮮半島の社会と文化（2） ―親族・社会関係と宗教	沖縄の親族・宗教と比較する。
	7	日本の社会と文化 ―文明の生態史観／タテ社会論／民族性論	日本人論を読んでみる。
8	台湾の社会と文化（1） ―概要／歴史／民族	台湾に関する情報を調べる。	
9	台湾の社会と文化（2） ―映像鑑賞	台湾映画を鑑賞する。	
10	台湾の社会と文化（3） ―原住民族の歴史と現在	原住民族文化について調べる。	
11	東南アジアの社会と文化（1） ―概要／歴史／宗教	東南亜に関する情報を調べる。	
12	東南アジアの社会と文化（2） ―インドネシア・バリ島	沖縄の観光文化と比較する。	
13	オセアニアの社会と文化（1） ―太平洋島嶼世界の基層文化	太平洋に関する情報を調べる。	
14	オセアニアの社会と文化（2） ―ハワイの歴史・文化・現在	ハワイの文化について調べる。	
15	まとめ ― アジア・太平洋的視座の重要性	アジアの中の沖縄を考える。	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特になし。 （毎回の講義ではレジュメおよび資料を配布する） 参考文献については、毎回の講義の際に適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺アジア地域の諸文化について関心を持ち、沖縄・日本の文化をそれらとの比較において考察することを心掛けてほしい。</li> <li>・毎回講義の際に出席確認をかねて受講生にレスポンス・ペーパーの提出を求めるので、毎回の講義の要点を自分なりに整理する癖をつけること。</li> <li>・他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意すること。</li> </ul>		
評価	<p>毎週の小課題（40%）、期末課題（60%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、文化人類学理論、etc.</p>
-------	---------------------------------------------------------

※ポリシーとの関連性

学科のカリキュラムおよびディプロマ・ポリシーに謳われる「地域理解能力」や「社会的コミュニケーション能力」と関わる。

[ / ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターンシップ I	その他	その他	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	LC 教員 1	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。</p>	<p>事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。</p>
到達目標	<p>①社会人としてのマナーを修得する。                  ②職業観を養い、自らの適性を見定める。                  ③組織の構造と機能を理解する。                  ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。                  ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	ガイダンスの振り返り
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル	実習先業界の情報収集（新聞）
	8	事前ガイダンス5 インターンシップ体験談発表	ガイダンスの振り返り
	9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
	11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学（業種、業界研究）
	12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験（接客、事務）
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ（実習振り返り）
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備	
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など

実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。  
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て

【応募資格】①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）  
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者  
 【注意事項】①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価

【出席について】出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。【評価方法・割合】①実習先による学生評価調査20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認）20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。  
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。



※ポリシーとの関連性

学科のカリキュラムおよびディプロマ・ポリシーに謳われる「地域理解能力」や「社会的コミュニケーション能力」と関わる。

[ / ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターンシップⅡ	その他	その他	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	LC 教員1	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。</p>	<p>事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。</p>
到達目標	<p>①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	ガイダンスの振り返り
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル	実習先業界の情報収集（新聞）
	8	事前ガイダンス5 インターンシップ体験談発表	ガイダンスの振り返り
	9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
	11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学（業種、業界研究）
	12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験（接客、事務）
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ（実習振り返り）
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備	
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など

実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。  
また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て

【応募資格】  
①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること） ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者  
【注意事項】①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価

【出席について】出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。【評価方法・割合】①実習先による学生評価調査20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認）20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。  
また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	秋山 道宏	3年	オフィスアワーおよび学内メールで随時対応する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は、2年次の領域演習で学んだ内容を踏まえながら、フィールドでの調査研究を通して、平和学の視点と調査方法を習得する。また、4年次の演習Ⅱ（卒業論文作成）にもつながるよう、テーマ設定の手法（問いの立て方）についても学んでいく。	フィールドでの調査や報告書のまとめを通して、自身の問題関心の幅を広げ、卒業論文で取り組むテーマを掘り下げ、探っていくほしい。

学びの準備	到達目標
	演習を通じた到達目標は以下の3つとなる。 (1) 自らでテーマを設定し、必要とされる調査方法を実践・習得できるようになる。 (2) 調査で得られた結果についての確にまとめ、資料作成や報告を行うことができるようになる。 (3) 上のような作業に取り組むことを通して、卒業論文で扱うテーマを絞り込むことができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習の年間スケジュールと課題についてのガイダンス	配布資料の精読
	2	調査実習のテーマ案に関するディスカッション①（ブレインストーミング）	調査実習のテーマ案の検討
	3	調査実習のテーマ案に関する報告①	報告の準備
	4	調査実習のテーマ案に関する報告②	報告の準備
	5	調査実習のテーマ案に関する報告③	報告の準備
	6	調査実習のテーマに関するディスカッション②（テーマ案の報告を受けたディスカッション）	報告資料の精読とテーマ案の検討
	7	調査実習のテーマに関する文献・資料報告①	文献・資料調査と報告の準備
	8	調査実習のテーマに関する文献・資料報告②	文献・資料調査と報告の準備
	9	調査実習のテーマに関する文献・資料報告③	文献・資料調査と報告の準備
	10	調査計画案の報告とディスカッション①	関連情報の収集と報告の準備
	11	調査計画案の報告とディスカッション②	関連情報の収集と報告の準備
	12	調査計画案の報告とディスカッション③	関連情報の収集と報告の準備
	13	調査実習に向けた準備①（事前調査の内容やアポイントの実施状況などを確認）	調査実習に向けた準備
	14	調査実習に向けた準備②（事前調査の内容やアポイントの実施状況などを確認）	調査実習に向けた準備
	15	調査実習の実施に向けた諸確認	配布資料の精読
	16	調査実習の概要報告と報告書作成に向けた検討①（対）	調査実習のまとめと報告の準備
	17	調査実習の概要報告と報告書作成に向けた検討②（対）	調査実習のまとめと報告の準備
	18	調査実習の概要報告と報告書作成に向けた検討③（対）	調査実習のまとめと報告の準備
	19	報告書の構成案の報告とディスカッション①（対）	報告書の作成と進捗報告の準備
	20	報告書の構成案の報告とディスカッション②（対）	報告書の作成と進捗報告の準備
	21	報告書の構成案の報告とディスカッション③（対）	報告書の作成と進捗報告の準備
	22	報告書作成の進捗報告（対）	報告書の作成と進捗報告の準備
	23	報告書作成の進捗報告と統一事項などの確認（対）	報告書の作成と配布資料の精読
	24	卒論に向けたテーマ案の報告とディスカッション①（対）	卒論のテーマ案の検討と報告の準備
	25	卒論に向けたテーマ案の報告とディスカッション②（対）	卒論のテーマ案の検討と報告の準備
	26	卒論に向けたテーマ案の報告とディスカッション③（対）	卒論のテーマ案の検討と報告の準備
	27	卒論のテーマ案に関連する文献・資料の概要報告①（対）	文献・資料調査と報告の準備
	28	卒論のテーマ案に関連する文献・資料の概要報告②（対）	文献・資料調査と報告の準備
29	卒論のテーマ案に関連する文献・資料の概要報告③（対）	文献・資料調査と報告の準備	
30	卒論執筆の注意事項やスケジュールの確認（対）	配布資料の精読	
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など          テキストは特に指定しない。          調査実習のテーマに応じて、その都度必要な文献や資料について紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て          演習では、講義と異なり、調査テーマの設定から調査の実施、そして、報告書のまとめまで主体的に取り組む姿勢が必要となる。グループやゼミでのディスカッションの場を大切に、課題について協力して取り組んでほしい。</p>
	<p>評価          参加態度30%、報告・課題の内容70%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目          4年次の演習Ⅱにつながる。</p>

※ポリシーとの関連性 社会文化学科における沖縄を中心にした学びで、とくに文字の存在しない時代を対象とする考古先史領域である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	3年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 遺跡の発掘調査に参加し、調査技術のマスターに努めるとともに、前年発掘した遺跡の調査報告書を作成し、発掘調査の学術的意義について認識を深める。報告書の作成に際し、琉球諸島の先史文化を熟知する必要がある、そのため分担して県内各地の先史文化を調査研究し、それに基づいて各自が調査成果を発表、参加者全員で討論、先史文化に関する知識を深める。	メッセージ 大学生活で最も本を読むことになり、また、次のステップになる一番大事な年度になります。
	到達目標 まず、南西諸島の各島嶼群（トカラ列島、奄美諸島、沖縄諸島、宮古・八重山諸島）における詳細な考古学の調査研究状況を知ることができる。物言わぬ遺物や遺構をどの様に整理して、歴史や文化を語らすのかという方法を学ぶことができる。次年度の卒業論文の素材を得る機会になることと、その基本的な構成を学ぶことになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 全員が遺物の整理（図表等の作成）を行う。遺跡の概況、調査経過等のほかの遺物の記述を行う。 上記を通して報告書の作成を実地に学ぶ。各自分担して県内各地の先史文化を調査研究し、発表を行う。 時間外学習としては、テキスト、参考文献を精読してもらう。
	テキスト・参考文献・資料など 1、宮城栄昌・高宮廣衛『沖縄歴史地図（考古編）』柏書房 1983年 2、富元政秀・安里嗣淳『日本の古代遺跡（沖縄）』保育社 1993年 3、ほか基礎文献および沖縄・九州関係の発掘報告書は随時紹介する。
	学びの手立て 授業の殆どがグループによる調査、検討、発表になるため、常に互いに連絡をとり、コミュニケーションをはかること。数人で勉強会を立ち上げるのもいい。
評価	試験・レポート（90%）、平常点（遅刻、出席状況、受講姿勢等）（10%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「南島先史学」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「考古学特講Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」「考古学概論2」がある。 先史古代の環境と社会文化の関わりについて、多様な視点でみる必要から社会文化学科提供科目を広く受講する。
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は3年次を対象とし、近現代史研究を専攻とするゼミである。前期には南島地域に関する近現代史の専門知識の修得を前提として、夏期休業期間に実施する実習の準備をおこなう。実習を通じて史料収集と読解の技能を学んだうえで、後期には収集した資料の翻刻を基軸とする報告書を作成する一方で、卒業論文作成に向けた各自の調査テーマの設定をおこなう。</p>	<p>歴史研究は、史料の読解が中心となるため、地道な作業が多くなります。そうした作業に集中して取り組む根気強さが必要となります。その一方で、歴史的事象が発生した現場へのフィールドワークも、積極的に取り組んで、五感をフル活用して歴史理解を深めましょう。なお、後期は原則、対面形式で実施します。</p>
到達目標	<p>(1) 南島地域に関する近現代史の専門的な知識を修得することができる。                  (2) 近現代史に関する史料の読解に、積極的に取り組むことができる。                  (3) 自らの研究課題に関する先行研究を調査し、まとめることができる。                  (4) 自らの卒業論文作成に向けて、研究課題を設定し、研究計画を作成することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	特) 04/09 ガイダンス①	シラバス内容の理解
	2	特) 04/16 実習調査の概要確認、要旨報告の準備	配付資料精読/課題提出
	3	対) フィールドワーク① (7月に実施)	報告書原稿の提出
	4	対) フィールドワーク② (7月に実施)	報告書原稿の提出
	5	特) 05/07 史料読解演習①	配付資料精読/課題提出
	6	特) 05/14 史料読解演習②	配付資料精読/課題提出
	7	特) 05/21 史料読解演習③	配付資料精読/課題提出
	8	対) 05/28 ガイダンス②	対面授業の確認、報告準備
	9	対) 06/04 文献の要旨報告①	テキスト精読/報告準備
	10	対) 06/11 文献の要旨報告②	テキスト精読/報告準備
	11	対) 06/18 文献の要旨報告③	テキスト精読/報告準備
	12	対) 06/25 文献の要旨報告④	テキスト精読/報告準備
	13	対) 07/02 文献の要旨報告⑤	テキスト精読/報告準備
	14	対) 07/09 文献の要旨報告⑥	テキスト精読/報告準備
	15	対) 07/16 前期振り返り、実習の確認	実習の準備
	16	対) 10/01 後期ガイダンス、卒論仮テーマの設定	仮テーマの選定
	17	対) 10/08 予備調査：先行研究の調査、収集、文献リストの作成	先行研究の収集、読み込み
	18	対) 10/22 第1回報告：先行研究について①	報告準備/先行研究調査
	19	対) 10/29 第1回報告：先行研究について②	報告準備/先行研究調査
	20	対) 11/05 第1回報告：先行研究について③	報告準備/先行研究調査
	21	対) 11/12 第1回報告：先行研究について④	報告準備/先行研究調査
	22	対) 11/19 第1回報告：先行研究について⑤	報告準備/先行研究調査
	23	対) 11/26 第2回報告：研究史の整理と研究課題について①	報告準備/先行研究調査
	24	対) 12/03 第2回報告：研究史の整理と研究課題について②	報告準備/先行研究調査
	25	対) 12/17 第2回報告：研究史の整理と研究課題について③	報告準備/先行研究調査
	26	対) 12/24 第2回報告：研究史の整理と研究課題について④	報告準備/先行研究調査
	27	対) 01/07 研究課題の確定	研究課題の確定
	28	対) 01/14 調査計画書の作成①	調査計画書の検討
	29	対) 01/21 調査計画書の作成②	調査計画書の検討
	30	対) 01/28 まとめ、春季休業の過ごし方	調査計画書の提出
	31	対) 卒業論文発表会への参加 (日程未定)	発表会の準備・運営

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストは使用しない。 要旨報告に用いる文献については、講義の最初に提示する。 読解する史料は、複写して配布する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>① 2年次対象の領域演習の単位を修得済みで、演習Ⅰの振り分けで近現代史ゼミに配属されていること。 ② 夏期休業中に実施する実習の計画、準備、実習後の報告書作成も併行して実施する。 ③ 南島地域の近現代史に関する文献を、積極的に読み込むこと。 ④ 日本、中国、台湾といった周辺地域の歴史にも、関心をもって学ぶこと。 ⑤ 対面授業を基本とするが、状況に応じてteamsによる遠隔授業とする。</p>
	<p>評価</p> <p>到達目標（1）の評価：レポート課題、文献の要旨報告（30%） 到達目標（2）の評価：史料読解に関する課題（20%） 到達目標（3）の評価：予備調査および報告（40%） 到達目標（4）の評価：調査計画書の作成（10%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>演習Ⅰおよび実習の成果を踏まえて、演習Ⅱで卒業研究に取り組んでもらう。 また、歴史領域の発展科目はもちろんのこと、社会・平和領域、民俗・人類学領域の発展科目や異文化理解科目のなかで、自らの研究課題に隣接するものは、積極的に履修することを勧める。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	3年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の目的は、実際に現地調査を通じて収集した資料を整理・検討し、個別テーマに関する報告書を完成させることにある。前期には、調査予定する地域の社会・文化ならびに具体的な調査テーマに関する文献を輪読し、調査に備える。後期には、夏休み行った調査実習の成果を整理し、報告書の完成を目指す。</p>	<p>①テーマ設定→②関連情報の収集・検討→③フィールドワーク→④調査データの整理・分析・発表（他者への説明・説得）。このプロセスを大学時代に経験することは、学生たちが本学卒業後の分野に進もうとも、必ず役に立つはずである。社会文化学科の真骨頂であるフィールドワークから、ぜひ多くのことを学んで欲しい。</p>
到達目標	<p>沖縄文化の諸トピックに関する知識を文献研究ならびにフィールドワークを通じて学び、それを説得的な形で整理・発表する作法を身に着ける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	調査実習の重要性を学ぶ。
	2	レポート／調査報告／学術論文作法（1）	興味あるテーマを献索する。
	3	レポート／調査報告／学術論文作法（2）	関心あるテーマの論文を探す。
	4	班分け／調査テーマ設定	調査テーマを準備する。
	5	調査計画の策定	調査計画について討議する。
	6	沖縄文化関連文献の輪読（1）	関連文献を読み要約する。
	7	沖縄文化関連文献の輪読（2）	関連文献を読み要約する。
	8	沖縄文化関連文献の輪読（3）	関連文献を読み要約する。
	9	沖縄文化関連文献の輪読（4）	関連文献を読み要約する。
	10	沖縄文化関連文献の輪読（5）	関連文献を読み要約する。
	11	アジア・人類学関連文献の輪読（1）	関連文献を読み要約する。
	12	アジア・人類学関連文献の輪読（2）	関連文献を読み要約する。
	13	アジア・人類学関連文献の輪読（3）	関連文献を読み要約する。
	14	調査項目の設定（1）	調査項目を考える。
	15	調査項目の設定（2）	調査項目を考える。
	16	（予備日）	
	17	班毎の調査成果発表（1）	班発表を準備する。
	18	班毎の調査成果発表（2）	班発表を準備する。
	19	班毎の調査成果発表（3）	班発表を準備する。
	20	班毎の調査成果発表（4）	班発表を準備する。
	21	補足関連文献の検討（1）	関連文献を読み要約する。
	22	補足関連文献の検討（2）	関連文献を読み要約する。
	23	補足関連文献の検討（3）	関連文献を読み要約する。
	24	調査報告書の作成（1）	班で集まって作業を進める。
	25	調査報告書の作成（2）	班で集まって作業を進める。
	26	調査報告書の作成（3）	班で集まって作業を進める。
	27	調査報告書の作成（4）	班で集まって作業を進める。
	28	調査報告書の印刷・製本（1）	ゼミ生全員で印刷作業をする。
	29	調査報告書の印刷・製本（2）	ゼミ生全員で印刷作業をする。
30	調査報告発表・検討会	発表・検討会の準備をする。	
31	（予備日）		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 演習の中で適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 各自の身の回りあるいは沖縄各地で行われている祭りや行事などに関心を持ち、その内容を自身で調べてみよう。またその際、こうした祭りや習俗がどのような歴史の中ではぐくまれてきたのか、そして周辺地域と比較した場合の特徴とは何なのかを考えてみよう。</p>
	<p>評価 毎回の小課題（30％）、授業への参加姿勢（20％）、報告書の内容・成果（50％）。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 本演習で学んだ内容は、4年次の演習Ⅱ（卒論演習）でさらに活かされることになる。なお、フィールドワークで調査する項目に関連した科目、ならびに調査スキルやライティング・スキルの向上に関連した科目の履修も推奨する。</p>



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	3年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文を構成し執筆する力を養うことを目的とする。前期には卒業論文に向けた先行研究のレビューを、後期には研究報告を行う。各回に報告者を立て、自分で作成したレジュメに基づいてプレゼンを実施し、出席者との討論を行う。後期の研究報告はそれに基づいた事例報告を行い、文献調査から自分自身によるデータの収集へと結び付けていく。	メッセージ 卒業論文を書くことを前提に、フィールドワーク方法論、情報の収集と論点の整理、ゼミ論文までの作業を高い密度で行う。よく準備すること。
	到達目標 自分の調査データを整理し、読者に伝わるように表現できるようになる。また自分の議論のためにはどのようなデータをどのように提示する必要があるのかを考えることが出来るようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス このゼミの進め方・到達目標	配付する論文を読んてくる
	2	論文レビュー (1)	論文のレジュメを作成
	3	論文レビュー (2)	論文のレジュメを作成
	4	論文レビュー (3)	論文のレジュメを作成
	5	論文レビュー (4)	調査計画 (案) を作成
	6	調査計画の検討 (1)	調査計画 (案) をバージョンアップ
	7	調査計画の検討 (2)	調査計画 (案) をバージョンアップ
	8	調査計画の検討 (3)	予備調査を実施 (予定)
	9	調査項目の作成 (1)	調査項目案のバージョンアップ
	10	調査項目の作成 (2)	調査項目案のバージョンアップ
	11	調査項目の作成 (3)	調査地図素案の作成
	12	地図の作成 (1)	調査地図素案のバージョンアップ
	13	地図の作成 (2)	卒論計画書の作成
	14	卒論構想 (1)	卒論計画書の作成
	15	卒論構想 (2)	実習準備
	16	(予備日)	
	17	(対) 後期ガイダンス 後期の進め方	報告書の執筆と提出
	18	(対) 報告書の作成 (1)	報告書原稿のバージョンアップ
	19	(対) 報告書の作成 (2)	報告書原稿のバージョンアップ
	20	(対) 報告書の作成 (3)	報告書原稿のバージョンアップ
	21	(対) 報告書の校正	卒論の文献リスト作成
	22	(対) 卒論構想 先行研究のレビュー (1)	卒論計画書のバージョンアップ
	23	(対) 卒論構想 先行研究のレビュー (2)	卒論計画書のバージョンアップ
	24	(対) 卒論構想 先行研究のレビュー (3)	卒論に着手
	25	(対) 卒論構想 先行研究のレビュー (4)	卒論の「問い」を文章化する
	26	(対) 卒論構想 リサーチクエッションの文章化 (1)	卒論序章を執筆・バージョンアップ
	27	(対) 卒論構想 リサーチクエッションの文章化 (2)	卒論序章を執筆・バージョンアップ
	28	(対) 卒論構想 リサーチクエッションの文章化 (3)	卒論序章を執筆・バージョンアップ
	29	(対) 卒論構想 リサーチクエッションの文章化 (4)	卒論の序章を完成
30	(対) 卒論序章の完成とレビュー	レビューのフィードバック	
31	(対) 後期まとめ		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レジュメ及び論文のコピーを用いる</li> <li>・上野和男・高桑守史・福田アジオ・宮田登（編）1987『新版 民俗調査ハンドブック』吉川弘文館</li> </ul>
	<p>学びの手立て</p> <p>ある程度の長さのある意味の通る文章を書けることが前提となる。甘く考えずに、機会をみて文章を書くトレーニングを積むこと。文章力に関しては一般の啓発書にも教わる場所があるので利用すること。</p>
	<p>評価</p> <p>①議論への参加（30%）、②生産的な問題提起・批判および応答能力（20%）、③資料およびプレゼンの準備と内容（30%）、④報告書およびゼミ論文（20%）を勘案し、総合的に評価する。積極的な議論への参加（①）と丁寧な事前準備（③）を特に求める。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>実習 演習Ⅱ</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	3年	水曜日 2限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習のねらいは、琉球・沖縄の前近代史の先行研究（文献）を把握し、引用史料を丁寧に確認しながら、卒業論文の課題を設定するところにあります。前期は『沖縄県史』各論編第3・4巻の文献を読み、先行研究・引用史料・論点に関する報告をしてもらいます。後期は、卒業論文のテーマを決め、先行研究を踏まえ、当該史料を用いる意味を理解のうえ卒業論文の課題を文章化してもらいます。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球・沖縄の前近代史をめぐる先行研究（文献）と引用史料を把握することができるようになる。</li> <li>・卒業論文のテーマを決定し、先行研究を踏まえ、関連史料を確認したうえで、卒業論文の課題を的確に設定できるようになる。</li> </ul>	<p>学内外の研究会やシンポジウムに参加して雰囲気や議論に触れてください。県内の博物館や発掘調査現地説明会に足を運んで琉球・沖縄の前近代史をめぐるモノに接してください。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、前期の授業計画の確認	到達目標を理解する
	2	『沖縄県史』各論編第3巻・第4巻の担当文献の割り当て	担当文献を確認する
	3	同書各論編第4巻「近世編を読むにあたって」を読む	第4巻の特徴を理解する
	4	同書各論編第4巻「総論」（以下「総論」）を読む	「総論」を読み込む
	5	「総論」の脚注の分類（史料と研究）①	「総論」を読み込む
	6	同上（史料）②	「総論」を読み込む
	7	同上（研究）③	「総論」を読み込む
	8	前期の授業計画の再確認	到達目標を確認する
	9	レジュメの作成要領の確認	報告のポイントを理解する
	10	「総論」の読み合わせ	「総論」を読み込む
	11	問題の所在と論点に関する報告と質疑応答①	報告の準備をする
	12	同上②	報告の準備をする
	13	同上③	報告の準備をする
	14	同上④	報告の準備をする
	15	「実習」の内容・計画の確認	「実習」の内容を理解する
	16	（対）後期の授業計画の確認、卒業論文のテーマに関する説明など	到達目標を再確認する
	17	（対）「卒業論文の課題」設定に向けた準備報告レジュメの作成要領の確認など	報告のポイントを理解する
	18	（対）先行研究の論点と引用史料について	研究の成果と史料の関係を理解する
	19	（対）先行研究の引用史料に関する報告と質疑応答①	報告の準備をする
	20	（対）同上②	報告の準備をする
	21	（対）同上③	報告の準備をする
	22	（対）同上④	報告の準備をする
	23	（対）先行研究の論点に関する報告と質疑応答①	報告の準備をする
	24	（対）同上②	報告の準備をする
	25	（対）同上③	報告の準備をする
	26	（対）同上④	報告の準備をする
	27	（対）「卒業論文の課題」に関する報告と質疑応答①	報告の準備をする
	28	（対）同上②	報告の準備をする
29	（対）同上③	報告の準備をする	
30	（対）同上④	報告の準備をする	
31	（対）「卒業論文の課題」の提出	報告を文章化する	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】教科書は使用しません。レジュメと図表などの参考資料を必要に応じて配布します。『沖縄県史』各論編第3・4巻の「総論」は2回目の講義で配布します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『沖縄県史』各論編第3巻 古琉球（沖縄県教育委員会、2010年）</li> <li>・『沖縄県史』各論編第4巻 近世（沖縄県教育委員会、2005年）</li> </ul>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『沖縄県史』各論編第3・4巻の担当する文献や各自が決めた卒業論文のテーマに関わる先行研究をあきらめずに最後まで読み切ってください。</li> <li>・先行研究（文献）と史料の区別がつかなければ理解できるまで質問してください。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>報告・質疑応答・卒業論文の課題設定に取り組む姿勢（60%）、「卒業論文の課題」の的確性と完成度（40%）によって総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【重要】「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」を確実に履修してください。「実習」（集中）での役割や責任と直接関係します。当科目を履修しないと「実習」での取り組みに影響が生じます。</li> <li>・4年次の「演習Ⅱ」では卒業論文の作成に取り組みますが、「演習Ⅰ」にどのような姿勢で取り組んだかが学生生活の集大成である卒業論文のスタートラインにつながることを自覚してください。</li> </ul>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習では、社会現象としてのグローバル化をめぐる現代的課題を中心テーマに、現代社会が直面する様々な課題を発見し、社会階層・エスニシティ・移民といった分析軸からその課題を実証的・論理的に分析、広い視野と多角的視点にたち解決策を考察していきます。</p> <p>到達目標</p> <p>①社会科学的思考を身につけながら、社会学の各領域についての見識を深める。                  ②社会調査の基礎をふまえ、ゼミで共有する研究テーマを、データに基づいて追究することができる。                  ③現代世界のさまざまな社会的課題・社会現象に関心を広くもつことができる。                  ④個人の研究テーマを探求・設定することができる。</p>	<p>会科学の考え方（ものの見方）と方法を学びながら、ゼミで共有する調査テーマを追究していきます。</p> <p>同時に、4年次の卒業研究に向けて、個人の研究テーマも探求していきましょう。フィールドで見たり考えたりしたこと、本や資料を見て考えたことを、ゼミの仲間とじっくり議論し、新しい知性を生みだす、そんなゼミのあり方目指します。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業内で指示する
	2	ゼミで共有する研究テーマの選定	授業内で指示する
	3	ゼミで共有する研究テーマの展開	授業内で指示する
	4	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
	5	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
	6	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
	7	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
	8	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
	9	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
	10	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
	11	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
	12	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
	13	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
	14	調査実習の準備	授業内で指示する
	15	調査実習の準備	授業内で指示する
	16	後期ガイダンス	授業内で指示する
	17	受講生による報告と討論（実習中間報告）	授業内で指示する
	18	受講生による報告と討論（実習中間報告）	授業内で指示する
	19	受講生による報告と討論（実習中間報告）	授業内で指示する
	20	受講生による報告と討論（実習中間報告）	授業内で指示する
	21	受講生による報告と討論（実習中間報告）	授業内で指示する
	22	調査報告書草稿の提出	授業内で指示する
	23	調査報告書の校正・推敲	授業内で指示する
	24	調査報告書の校正・推敲	授業内で指示する
	25	受講生による報告と討論（個人の研究テーマ発表）	授業内で指示する
	26	受講生による報告と討論（個人の研究テーマ発表）	授業内で指示する
	27	受講生による報告と討論（個人の研究テーマ発表）	授業内で指示する
	28	受講生による報告と討論（個人の研究テーマ発表）	授業内で指示する
	29	受講生による報告と討論（個人の研究テーマ発表）	授業内で指示する
30	調査報告書の完成・提出	授業内で指示する	
31	1年間のふりかえり	授業内で指示する	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 授業で適宜紹介します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>①共通の研究テーマに関する知識・情報を増やし理解・思考を深めるために、文献調査や読解、事前調査を授業に合わせて主体的に行うこと。 ②本演習で共有するテーマとは一見関係ないと思われる、沖縄や世界の社会的課題について、各自で主体的に知識を得ること。 ③調査実習はグループワークを軸とする。受講生は、調査の企画設計から実査、報告書作成までの社会調査の全過程に主体的・協力的に取り組むこと。他のゼミ生との共同作業であることを自覚し、協同性を磨くこと。調査倫理に則った節度のある行動を行うこと。</p>
	<p>評価</p> <p>平常点および報告・討論への参加姿勢（30%）、グループでの調査と報告（実習）および実習報告書（ゼミレポート）（40%）、個人研究レポートの内容（30%）に基づいて総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(次のステージ) 演習Ⅱ (関連する科目) 領域演習・社会平和領域、ジェンダー論、国際社会学、社会学理論、マスコミ論、家族社会学、都市社会学、南島社会学、アジア社会論、社会調査法Ⅰ・Ⅱ、社会統計学Ⅰ・Ⅱ</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	秋山 道宏	4年	オフィスアワーおよび学内メール等で随時対応する。	

学びの準備	ねらい 各自が選択したテーマに沿って考察と調査を進め、その成果を卒業論文としてまとめることができるように、継続的に作業を進める。そのために必要とされる研究方法の修得・資料の収集・調査の実践について、ゼミの場で報告・議論しながら進めていく。	メッセージ 学部4年間の集大成として、自身の設定したテーマにこだわり、大いに知的好奇心を発揮して論文の完成まで取り組んでほしい。
	到達目標 卒業論文を作成するために必要とされる情報収集を自分自身の判断に基づいて行い、その成果を論文としてまとめ上げる思考力を身に着ける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	課題とスケジュールの確認	配布資料の精読
	2	卒論テーマ案の報告とディスカッション①	報告の準備
	3	卒論テーマ案の報告とディスカッション②	報告の準備
	4	卒論テーマ案の報告とディスカッション③	報告の準備
	5	卒論テーマに関する文献調査の報告①	文献調査と報告の準備
	6	卒論テーマに関する文献調査の報告②	文献調査と報告の準備
	7	卒論テーマに関する文献調査の報告③	文献調査と報告の準備
	8	卒論テーマに関する調査内容の報告とディスカッション①	文献調査と報告の準備
	9	卒論テーマに関する調査内容の報告とディスカッション②	文献調査と報告の準備
	10	卒論テーマに関する調査内容の報告とディスカッション③	文献調査と報告の準備
	11	卒論テーマに関する調査内容の報告とディスカッション④	文献調査と報告の準備
	12	卒論テーマに関する調査計画の報告とディスカッション①	調査計画の検討と報告の準備
	13	卒論テーマに関する調査計画の報告とディスカッション②	調査計画の検討と報告の準備
	14	卒論テーマに関する調査計画の報告とディスカッション③	調査計画の検討と報告の準備
	15	卒論テーマに関する調査計画の報告とディスカッション④	調査計画の検討と報告の準備
	16	後期のスケジュール確認と夏季休暇中の調査内容の概要報告 (対)	夏季休暇中の調査内容のまとめ
	17	夏季休暇中の調査内容についてのディスカッション① (対)	夏季休暇中の調査内容のまとめ
	18	夏季休暇中の調査内容についてのディスカッション② (対)	夏季休暇中の調査内容のまとめ
	19	夏季休暇中の調査内容についてのディスカッション③ (対)	夏季休暇中の調査内容のまとめ
	20	夏季休暇中の調査内容についてのディスカッション④ (対)	夏季休暇中の調査内容のまとめ
	21	卒論の構成案の報告とディスカッション① (対)	卒論の構成案の作成と報告の準備
	22	卒論の構成案の報告とディスカッション② (対)	卒論の構成案の作成と報告の準備
	23	卒論の構成案の報告とディスカッション③ (対)	卒論の構成案の作成と報告の準備
	24	卒論の執筆状況についての進捗報告とディスカッション① (対)	報告の準備
	25	卒論の執筆状況についての進捗報告とディスカッション② (対)	報告の準備
	26	卒論の執筆状況についての進捗報告とディスカッション③ (対)	報告の準備
	27	卒論の執筆状況についての進捗報告とディスカッション④および卒論提出に向けた課題確認 (対)	報告の準備
	28	卒論概要の報告① (対)	報告の準備
29	卒論概要の報告② (対)	報告の準備	
30	卒論概要の報告③ (対)	報告の準備	
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 指定しない。(各自で積極的に資料・文献を集めること)</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 関連する文献や資料を主体的に調査・収集しながら卒論の方向性を定めていく作業が最も重要である。</p>
	<p>評価 参加姿勢30%、卒論作成の取り組みと報告内容70%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	月1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	4年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 各自、関心のあるテーマを設定する。遺跡の報告書をもって卒業論文にかえることもある。	メッセージ 大学で学問をした証しであり、専門の集大成です。
	到達目標 自ら考古学資料を分析をし、報告書や論文化を書くことができる。 先史原史時代の文化を復元することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  関心のあるテーマについて、学史を調べレポートを作成する。 夏期休暇までに、卒論の骨子をまとめ、簡単な肉付けをする。 後期に不備な点を補い、本格的な執筆にはいる。  時間外にはテキスト、参考文献を精読してもらう。
	テキスト・参考文献・資料など 個別テーマに応じて随時推薦する。

学びの実践	学びの手立て 論文の書き方に関する図書を読む。 資料は具体的なものに接し、先輩、同輩と積極的に情報交換をする。
	評価 課題の提出資料・レポート（90%）、平常点（遅刻、出席状況、受講姿勢等）（10%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 提出論文のテーマを弱い部分を補完し、発展させてほしい。
-------	--------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	水1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	4年	研究室 (5434) 、もしくはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は4年次を対象とした、近現代史研究を専攻とするゼミである。演習Ⅰで修得した知識、技能を前提として、卒業論文作成に向けた調査と報告を中心とし、後期には実際に卒業論文の執筆活動をおこなう。	卒業論文作成の道のりは、とても大変です。また、就職活動や各種実習もあり、大変忙しい1年になります。計画的に取り組み、早めに作業を進めるようにしてください。なお、後期は原則として対面形式で実施します。

到達目標
(1) 自らの卒論テーマに関する専門的な知識を十分修得することができる。 (2) 自らの卒論テーマに関する歴史資料を収集し、正確に読解できる。 (3) 自らの卒論テーマに関する調査を行い、その内容について論理的に報告できる。 (4) 他者の報告に対して、建設的な意見を述べるすることができる。 (5) 歴史学の作法に基づき、論理的かつ実証的な卒業論文を作成できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	特) 04/08 ガイダンス①	シラバスの精読
	2	特) 04/15 調査計画書の提出・修正	調査計画書の作成、修正対応
	3	特) 04/22 史料調査と精読	卒論研究の進捗状況報告
	4	特) 05/13 卒業研究進捗状況報告①	報告準備
	5	特) 05/20 卒業研究進捗状況報告②	報告準備
	6	特) 05/27 卒業研究進捗状況報告③	報告準備
	7	対) 06/03 ガイダンス②	対面授業に関する諸連絡
	8	対) 06/10 史料内容に関する1次報告①	報告準備/史料の内容把握
	9	対) 06/17 史料内容に関する1次報告②	報告準備/史料の内容把握
	10	対) 06/24 史料内容に関する1次報告③	報告準備/史料の内容把握
	11	対) 07/01 史料内容に関する1次報告④	報告準備/史料の内容把握
	12	対) 07/08 史料内容に関する2次報告①	報告準備/史料の内容把握
	13	対) 07/15 史料内容に関する2次報告②	報告準備/史料の内容把握
	14	特) 07/22 史料内容に関する2次報告③	報告準備/史料の内容把握
	15	対) 07/29 史料内容に関する2次報告④	報告準備/史料の内容把握
	16	対) 09/30 後期ガイダンス	報告準備
	17	対) 10/07 報告準備	報告準備/補充調査
	18	対) 10/14 卒論中間報告①	報告準備/補充調査
	19	対) 10/21 卒論中間報告②	報告準備/補充調査
	20	対) 10/28 卒論中間報告③	報告準備/補充調査
	21	対) 11/04 卒論中間報告④	報告準備/補充調査
	22	対) 11/11 卒論中間報告⑤	報告準備/補充調査
	23	対) 11/18 卒論最終報告①	報告準備/補充調査
	24	対) 11/25 卒論最終報告②	報告準備/卒論の執筆
	25	対) 12/02 卒論最終報告③	報告準備/卒論の執筆
	26	対) 12/09 卒論最終報告④	報告準備/卒論の執筆
	27	対) 12/16 卒論最終報告⑤	報告準備/卒論の執筆
	28	対) 01/06 卒業論文の執筆と添削①	卒論の執筆
	29	対) 01/13 卒業論文の執筆と添削②	卒論の執筆
30	対) 01/20 卒業論文の最終確認	卒論の執筆/最終点検	
31	対) 卒業論文発表会への参加(日程未定)	卒業論文集の作成	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しません。 参考文献については、個別に紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>① 特別の場合を除いて、藤波担当の演習Ⅰの単位を修得済みの者が履修できる。  ② 卒論テーマに応じた史料の収集を自ら積極的におこなうこと。  ③ 史料の精読は地道で時間のかかる作業なので、早めに取り組むこと。  ④ 報告が中心となるので、準備をきちんと整えた上でゼミに参加すること。  ⑤ 対面授業を基本とするが、状況に応じてteams等を利用した遠隔授業とする。</p>
	<p>評価</p> <p>到達目標（1）の評価：卒論中間報告の内容（20%）  到達目標（2）の評価：史料内容に関する2回の報告（20%）  到達目標（3）の評価：卒論最終報告の内容（20%）  到達目標（4）の評価：ゼミでの発言内容（10%）  到達目標（5）の評価：卒業論文の提出（30%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文作成を目指すこのゼミは、社会文化学科での4年間の学びの最終段階です。ゼミにしっかり取り組んだことを自信として、社会に羽ばたいてください。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	4年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の目的は、領域演習（2年生）と演習&amp;実習（3年生）で学んできた成果を踏まえ、各ゼミ生自らが設定する研究テーマにそって、文献収集・研究、調査計画の策定、実地調査、調査・研究成果の整理・分析をへて、卒業論文を作成することにある。夏休みなどを利用して各自で現地調査を実施し、後期には調査・研究成果の発表・議論をへて卒業論文の作成・編集を目指す。</p>	<p>本学科の核心は、「沖縄」の社会・文化を幅広く理解することであり、フィールドワークを踏まえて作成される卒業論文は、その集大成である。ぜひ、沖縄の社会・文化をミクロな視点で学ぶ姿勢とともに、他地域との比較を通じて鳥瞰的かつマクロな視点から「沖縄」を理解する視座を身に着けてほしい。</p>
到達目標	沖縄の社会・文化に対する基礎的な学びを深めると同時に、周辺アジア地域との比較という視点から沖縄の歴史と現在を理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	卒論を構想し、文献を探す。
	2	アジア・人類学関連文献の輪読（1）	関連文献を要約する。
	3	アジア・人類学関連文献の輪読（2）	関連文献を要約する。
	4	アジア・人類学関連文献の輪読（3）	関連文献を要約する。
	5	学術論文作法	論文作法を調べる。
	6	テーマ設定（1）	卒論のテーマを考える。
	7	テーマ設定（2）	卒論のテーマを考える。
	8	文献研究（1）	関連文献を要約し発表する。
	9	文献研究（2）	関連文献を要約し発表する。
	10	文献研究（3）	関連文献を要約し発表する。
	11	文献研究（4）	関連文献を要約し発表する。
	12	文献研究（5）	関連文献を要約し発表する。
	13	文献研究（6）	関連文献を要約し発表する。
	14	調査計画、質問事項等の作成（1）	研究計画&質問事項を考える。
	15	調査計画、質問事項等の作成（2）	研究計画&質問事項を考える。
	16	（予備日）	
	17	ガイダンス	調査成果をまとめる。
	18	調査成果発表と質疑応答（1）	調査成果の発表準備をする。
	19	調査成果発表と質疑応答（2）	調査成果の発表準備をする。
	20	調査成果発表と質疑応答（3）	調査成果の発表準備をする。
	21	調査成果発表と質疑応答（4）	調査成果の発表準備をする。
	22	中間発表会（1）	中間発表会の準備をする。
	23	中間発表会（2）	中間発表会の準備をする。
	24	論文作成・指導（1）	卒論を執筆する。
	25	論文作成・指導（2）	卒論を執筆する。
	26	卒業論文仮提出	卒論草稿を作成する。
	27	論文作成・指導（3）	卒論を執筆・推敲する。
	28	論文作成・指導（4）	卒論を執筆・推敲する。
	29	論文作成・指導（5）	卒論を執筆・推敲する。
30	論文作成・指導（6）	卒論を執筆・推敲する。	
31	卒業論文発表会	卒論発表の準備をする。	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 演習のなかで適宜紹介。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 日本の他府県はもちろんのこと、周辺アジア地域の情報に関心をもち、常に沖縄を内側と外側という視点から考える習慣をつけよう。それを繰り返すことが「沖縄の再発見」につながるはずである。多様な情報をゲットするために欠かせないのが語学能力である (e. g. 英語、中国語、韓国語、etc.)</p>
	<p>評価 出席・授業への参加姿勢 (40%)、調査成果・論文評価 (60%)。 卒業論文の内容はもとより、各ゼミ生の出席および演習への参加姿勢を重視して総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 卒業後、どの分野に進むにしても、①テーマを設定し、②それに関連する情報を調べ、③実際に現場を取材・理解し、④その成果をまとめて発表し、⑤他者に説明・説得するするという作業を重要である。その意味で、本ゼミで学んだ知識や経験は、必ずやあなたが社会に出たときに生きてくるはずである。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	水1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	4年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 各自が定めた卒論のテーマ、フィールド、方法、資料に基づいて卒業論文の構想と執筆を進める。前期と後期に1回ずつ中間報告を行い、より高い水準での論文の完成を目指す。	メッセージ 民俗学の論文はその議論の内容のみならず、そこに記された民俗誌自体が後世へのかけがえのない記録となる。丁寧に取り組むこと。
	到達目標 論文の完成を目標とする。そのためには、先行研究を踏まえた適切な問題設定、十分な資料の収集と整理・記述、論理的な分析と明晰な表現、の実現が求められる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション このゼミの進め方と評価の仕方	文献リストおよびレビューの作成
	2	卒論構想報告① 文献リストの検討と先行研究レビュー	文献リスト・レビューの修正
	3	卒論構想報告② 文献リストの検討と先行研究レビュー	文献リスト・レビューの修正
	4	卒論構想報告③ 文献リストの検討と先行研究レビュー	文献リスト・レビューの修正
	5	卒論構想報告④ 先行研究レビュー・フィードバック	文献リスト・レビューの完成
	6	卒論構想報告⑤ 先行研究レビュー・フィードバック	文献リスト・レビューの完成
	7	卒論構想報告⑥ 先行研究レビュー・フィードバック	調査項目の作成
	8	卒論構想報告⑦ 調査項目の検討	調査項目の作成
	9	卒論構想報告⑧ 調査項目の検討	調査項目の作成
	10	卒論構想報告⑨ 調査項目の検討	調査項目の修正
	11	卒論構想報告⑩ 調査項目のフィードバック	調査項目の修正
	12	卒論構想報告⑪ 調査項目のフィードバック	調査項目の修正
	13	卒論構想報告⑫ 調査項目のフィードバック	調査項目の修正
	14	全体進捗確認	調査計画書の作成
	15	全体進捗確認 後期まとめ	卒論に向けた各自の調査
	16	予備日	
	17	(対) 後期ガイダンス	民族誌を提出する
	18	(対) 卒論進捗報告① 民族誌のチェック	民族誌叙述のフィードバック
	19	(対) 卒論進捗報告② 民族誌のチェック	民族誌叙述のフィードバック
	20	(対) 卒論進捗報告③ 民族誌のチェック	民族誌叙述のフィードバック
	21	(対) 卒論進捗報告④ 民族誌のチェック	考察パートを提出する
	22	(対) 卒論進捗報告⑤ 分析・論理のチェック	考察内容へのフィードバック
	23	(対) 卒論進捗報告⑥ 分析・論理のチェック	考察内容へのフィードバック
	24	(対) 卒論進捗報告⑦ 分析・論理のチェック	考察内容へのフィードバック
	25	(対) 卒論進捗報告⑧ 分析・論理のチェック	考察内容へのフィードバック
	26	(対) 卒論進捗報告⑨ 分析・論理のチェック 2	考察内容へのフィードバック
	27	(対) 卒論進捗報告⑩ 分析・論理のチェック 2	考察内容へのフィードバック
	28	(対) 卒論最終指導① 形式と倫理のチェック	記述を整えて論文を完成させる
29	(対) 卒論最終指導② 形式と倫理のチェック	記述を整えて論文を完成させる	
30	(対) 卒業研究のプレゼンテーション	報告会のプレゼンを作成する	
31	(対) 卒論報告会		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>卒業論文の先行研究にあたる文献等は各自で収集し、リストにまとめることが求められる。教員と相談しながら作業を進めること。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒業論文の進捗を定期的にチェックし、文章化したものの提出を求めていく。具体的には①文献リストの作成とレビュー、②調査項目案、③調査計画書、④民族誌パート、⑤考察パート、を学期中に提出してもらう。無為に時間を過ごすことのないように、少しずつでも確実に作業を進めること。ゼミの間ではこれらについて議論し、それらを各自でフィードバックして卒論のかたちに近づけていく。</p>
	<p>評価</p> <p>卒業論文への取り組みに対して評価を与える。具体的には、①適切な研究プログラムの構想と進行（20%）、②密度ある中間報告の作成とプレゼンテーション（30%）、③先行研究を踏まえた適切な問いの提示（10%）、④十分なリサーチに基づいたデータの収集と記述（30%）、⑤論理的かつ説得性をもった新規性ある結論の提示（10%）、の5点より評価する。先行研究の消化（③）と斬新な結論（⑤）に期待するが、まずはしっかり研究計画を立てて遂行し（①）、密度ある中間報告（②）と丁寧な調査データの収集（④）を求める。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>世界</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	水1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	4年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本演習のねらいは、大学生活の集大成である卒業論文を、先行研究を丁寧に踏まえ、関連史料を適切・効果的に用いたうえで説得力のある結論を導き出せるよう指導するところにあります。前期では関連史料の読解と解釈、先行研究の指摘の再検討、後期では卒業論文の論点について報告してもらいます。	メッセージ 卒業論文のテーマに関わる報告がある学内外の研究会やシンポジウムに積極的に参加してください。アンテナの感度を高めておけば、報告や議論からヒントをつかめることもありますよ。
	到達目標 先行研究を丁寧に踏まえ、関連史料を適切・効果的に用いた説得力のある卒業論文を作成できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、前期の授業計画の確認	到達目標を理解する
	2	卒業論文準備報告1)で扱う史料の選定①	先行研究にあたる
	3	同上②	先行研究にあたる
	4	同上③	典拠を確認する
	5	同上④	典拠を確認する
	6	卒業論文準備報告1)で扱う史料の決定	典拠を再確認する
	7	前期の授業計画の再確認、報告日程の決定、『回顧と展望』の紹介	到達目標を確認する
	8	報告レジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
	9	卒業論文準備報告1)と質疑応答—先行研究における引用史料の読解と解釈—①	報告の準備をする
	10	同上②	報告の準備をする
	11	同上③	報告の準備をする
	12	同上④	報告の準備をする
	13	同上⑤	報告の準備をする
	14	同上⑥	報告の準備をする
	15	章立てについて	章立てを考え始める
	16	(対) 報告レジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
	17	(対) 章立て案の発表	メンバーの章立てを参考にする
	18	(対) 卒業論文準備報告2)と質疑応答—史料に基づく指摘—①	報告の準備をする
	19	(対) 同上②	報告の準備をする
	20	(対) 同上③	報告の準備をする
	21	(対) 同上④	報告の準備をする
	22	(対) 同上⑤	報告の準備をする
	23	(対) 卒業論文様式と書式の説明	卒業論文の構成と様式を理解する
	24	(対) 報告レジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
	25	(対) 卒業論文準備報告3)と質疑応答—論点の提示と課題の再設定—①	報告の準備と卒論を執筆する
	26	(対) 同上②	報告の準備と卒論を執筆する
	27	(対) 同上③	報告の準備と卒論を執筆する
	28	(対) 同上④	報告の準備と卒論を執筆する
29	(対) 同上⑤	報告の準備と卒論を執筆する	
30	(対) まとめ	卒業論文の課題と結論を再確認する	
31	(対) 卒業論文発表会と『卒業論文集』刊行に向けて	卒論発表会での報告の準備をする	



学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】教科書は使用しません。参考資料は必要に応じて配布します。  【参考文献】各自のテーマに関する参考文献の紹介は個別に対応します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先行研究と関連史料の把握に寸暇を惜しまず励んでください。</li> <li>・「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」をまだ履修していなければ半期でも受講してください。</li> <li>・卒業論文の作成と提出だけでなく、卒論発表会での報告および『卒業論文集』の刊行までが「演習Ⅱ」だと心得てください。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>卒業論文準備報告および質疑応答に取り組む姿勢（60%）と報告レジュメの内容および完成度（40%）によって総合的に評価します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」および「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」の受講を求めます。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代	4年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、学生各自の関心にもとづいて研究テーマを設定し、主体的に調査・分析を行い、先行研究の知見にも目を配りながら、論理的・実証的記述により、卒業論文作成を行うことを目指します。	現代社会が直面するさまざまな課題を発見し、移民・エスニシティ・社会階層といった分析軸をすえながら、その課題を実証的・論理的に分析しましょう。フィールドで見たり考えたりしたこと、本や資料を見て考えたことを、ゼミの仲間とじっくり議論し、卒業研究につながる知性を生みだす、そんなゼミのあり方を目指します。
到達目標	①個人の研究テーマを設定し、主体的に調査研究を行うことができる。 ②自分の研究課題について、実証的・論理的に説明できる。 ③ゼミで研究報告を行い、学生同士で意見交換を行うことができる。 ④学術的ルールに則って、自分の研究課題を追究した卒業論文を書くことができる。 ⑤卒論発表会（口頭試問）における質疑に適切に応答できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業内で指示する
	2	講義:卒論作成までのプロセス	授業内で指示する
	3	講義:卒論の書き方	授業内で指示する
	4	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	5	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	6	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	7	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	8	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	9	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	10	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	11	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	12	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	13	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	14	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	15	前期のふりかえりと夏期休暇中の研究計画報告	授業内で指示する
	16	講義:卒論の形式と決まり	授業内で指示する
	17	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	18	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	19	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	20	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	21	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	22	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	23	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	24	卒業論文仮提出	授業内で指示する
	25	卒業論文校正・推敲(原稿指導)	授業内で指示する
	26	卒業論文校正・推敲(原稿指導)	授業内で指示する
	27	卒業論文校正・推敲(原稿指導)	授業内で指示する
	28	卒業論文校正・推敲(原稿指導)	授業内で指示する
	29	卒業論文提出	授業内で指示する
30	卒業論文発表会	授業内で指示する	
31	卒業論文集完成	授業内で指示する	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>①授業で配布する「卒論作成までのプロセス」「卒論の書き方」「卒論のしおり（改訂版）」および『社会学評論スタイルガイド』を共通テキストとする。</p> <p>②参考文献は、木下是雄『理科系の作文技術』（中央公論社, 1981）、榎木伸明『卒論を書こう（第2版）』（三修社, 2006）、早稲田大学出版部編『卒論・ゼミ論の書き方（第2版）』（早稲田大学出版部, 2002）など。</p> <p>③個人の研究テーマに関する参考文献は、授業で適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>①各自の研究テーマに関する知識・情報を増やし理解・思考を深めるために、指示された課題に積極的に対応し、文献精読および社会調査を、授業に合わせて主体的に行っていくこと。</p> <p>②他のゼミ生の研究テーマについて、自分の研究テーマや関心にひきつけて、意見が述べられるようにすること。</p> <p>③新聞と文献を継続してしっかり読むこと。</p>
	<p>評価</p> <p>平常点（30%）、研究報告の内容・討論への参加姿勢（30%）、卒業論文への取組みと内容（40%）で総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（関連する演習科目） 演習 I</p> <p>（関連する講義科目） ジェンダー論、国際社会学、社会学理論、マスコミ論、家族社会学、都市社会学、南島社会学、アジア社会論</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄近現代史 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-川島 淳	2年	リアクションペーパーに書くか、メールで連絡する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、現在の沖縄の政治社会がいかに形成されたのかという問題設定に基づいて、「琉球処分」から沖縄戦・米軍統治・「日本復帰」を経て現在に至るまでを時期区分のうえ、各時期の特質に由来事・事件の概要を位置づけながら解説する。その際に、沖縄近現代史全体に通底する差別構造や権力構造など、多種多様な構造的問題を関連づけつつ、現在の沖縄社会に関する理解を深める。	近年の研究動向と、文字資料や考古資料、民俗資料、写真資料、証言資料などの多種多様な史資料を紹介する。また、現在を生きる受講生は、多様なアイデンティティに触れる機会になるかもしれない。このような社会の多様性を理解しつつ、沖縄近現代史における由来事・事件・事象を学ぶことで、社会に貢献するにあたって自分自身の主義・主張・人生観を形成する一助にしてほしい。
到達目標	<p>①沖縄近現代史に関する基礎的知識・理解を深め、固定観念や偏見にとらわれずに、沖縄近現代史における事象・事件・出来事を分析するための問題意識・分析視角をもつことができるようにする。</p> <p>②沖縄近現代史は、現代社会を生きる我々にとっても無縁な「歴史」では決してない。現在の沖縄社会の形成過程についての理解を深めつつ、未来の理想像を思い描きながら、現実的な社会生活において歴史の知識を知恵に昇華できるようにする。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション_本授業のねらいと全体像の説明	シラバス・参考文献①②目次の精読
	2	沖縄近現代史の概観－多様な時期区分論と各時期の特質	第01週に配布のプリントを参照
	3	琉球処分－琉球王国（藩）・清国政府・明治政府の関係	第02週に配布のプリントを参照
	4	日清戦争前における沖縄の政治社会の変容－「旧慣温存」と琉球救国運動	第03週に配布のプリントを参照
	5	日清戦争後における沖縄の政治社会の変容－「ヤマト化」の受容と反抗	第04週に配布のプリントを参照
	6	大正期・昭和戦前期における沖縄の政治社会の変容	第05週に配布のプリントを参照
	7	「帝国」日本における人口移動－沖縄からの移民・出稼ぎを中心に	第06週に配布のプリントを参照
	8	近代沖縄の地域社会の変容－「やんばる」地域	第07週に配布のプリントを参照
	9	戦時体制下の沖縄－ジェンダー・少国民の動向	第08週に配布のプリントを参照
	10	沖縄戦－地域住民の視点からのアプローチ	第09週に配布のプリントを参照
	11	敗戦後の政治社会－琉球政府の設置まで	第10週に配布のプリントを参照
	12	沖縄の基地建設－銃剣とブルドーザー・「島ぐるみ」土地闘争	第11週に配布のプリントを参照
	13	「復帰」前後における政治社会の動向	第12週に配布のプリントを参照
	14	「日本復帰」とその後	第13週に配布のプリントを参照
15	沖縄近現代史のまとめ－構造的問題を中心として	第14週に配布のプリントを参照	
16	期末テスト	プリントを基に半期間の総復習	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】 パワーポイントで作成し、そのプリントを毎回配布します。</p> <p>【参考文献】</p> <p>①沖縄県文化振興会史料編集室『沖縄県史 各論編 第5巻』沖縄県教育委員会、2011年</p> <p>②那覇市歴史博物館編『戦後をたどる－「アメリカ世」から「ヤマトの世」へ』琉球新報社</p> <p>③金城正篤・上原兼善・秋山勝・仲地哲夫・大城将保『沖縄県の百年』山川出版社、2005年</p> <p>④その他、随時紹介する。</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの手立て	<p>①「履修の心構え」・自主性と主体性、積極性が必要である。講義に関する意見や感想、質問事項などをリアクションペーパーに記入して、講義終了後に教室内で提出する。また、適宜、講義の要点をまとめた小テスト、あるいはレポートを課すこともある。</p> <p>・私語は厳禁である。厳密に出席をとる。欠席の場合には「欠席届」を提出する。やむをえざる事情により遅刻した場合には講義終了後に、途中退出をせざるをえない場合には退席理由を申し出る。</p> <p>②「学びを深めるために」・講義で使用した配布資料などを見直して、沖縄近現代史における各時期の特質などを理解する。・各週の講義テーマに関する参考文献や参考資料を紹介する。これらに目を通して自らの問題意識を深め、知識の習得を図る。</p>
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価	<p>到達目標との関連で以下のように判定する。</p> <p>①沖縄近現代史に関する基礎的知識の習得：期末試験に換わる課題レポート60%</p> <p>②沖縄近現代史に関する理解力・思考力などの度合い：レポート30%、リアクションペーパー・平常点・小テスト10%</p>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目・琉球・沖縄史を専攻する場合には「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」・「アジア史」・「古文書講読」・沖縄近現代史の理解を深めるには「沖縄平和学」・「南島社会学」・「平和運動史」など(2) 次のステージ・日常生活のなかに潜む多様な権力構造・差別構造を意識し、問題解決や社会貢献の方法と理想像を描きつけてほしい。・本講義で学んだことを3年次以降の演習や卒業論文、社会的活動に反映させてほしい。</p>
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄近現代史Ⅱ	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-川島 淳	2年	①授業後に質問する、②リアクションペーパーに記入する、③メールで連絡する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、沖縄近現代史Ⅰで学んだ通史的理解の復習と応用を兼ねて、テーマ別・事件別に沖縄近現代史を把握する。その際に、主な史資料そのものもつ意義と位置づけについて紹介するとともに、沖縄近現代史を対象とした多種多様な問題意識と分析視角について解説する。</p>	<p>近年の研究動向と、文字資料や考古資料、民俗資料、写真資料、証言資料などの多種多様な史資料を紹介する。また、現在を生きる受講生は、多様なアイデンティティに触れる機会になるかもしれない。このような社会の多様性を理解しつつ、沖縄近現代史における出来事・事件・事象を学ぶことで、社会に貢献するにあたって自分自身の主義・主張・人生観を形成する一助にしてほしい。</p>
到達目標	<p>①沖縄近現代史に関する基礎的知識・理解を深め、固定観念や偏見にとらわれずに、沖縄近現代史における事象・事件・出来事を分析するための問題意識・分析視角をもつことができるようにする。 ②沖縄近現代史は、現代社会を生きる我々にとっても無縁な「歴史」では決してない。現在の沖縄社会の形成過程についての理解を深めつつ、未来の理想像を思い描きながら、現実的な社会生活において歴史の知識を知恵に昇華できるようにする。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) イントロダクション_本授業のねらいと全体像の説明	シラバスを事前に読んでくること
	2	(対) 近現代のアジア社会における沖縄①_近代日本との関係性を軸に	第01週に配布のプリントを参照
	3	(対) 近現代のアジア社会における沖縄②_戦後日本とアメリカとの関係性を軸に	第02週に配布のプリントを参照
	4	(対) 琉球処分と明治期沖縄県政①_明治政府の動向・沖縄県の政策遂行	第03週に配布のプリントを参照
	5	(対) 琉球処分と明治期沖縄県政②_首里王府の反応・琉球救国運動の展開	第04週に配布のプリントを参照
	6	(対) 近現代沖縄の教育史的展開	第05週に配布のプリントを参照
	7	(対) 埋蔵文化財でみる沖縄近代史	第06週に配布のプリントを参照
	8	(対) 近代日本と沖縄戦ー日本軍と地域住民との関係性を軸に	第07週に配布のプリントを参照
	9	(対) 沖縄現代史①_沖縄諮詢会・沖縄民政府・沖縄群島政府・琉球政府の時代	第08週に配布のプリントを参照
	10	(対) 沖縄現代史②_「復帰」をめぐる沖縄・日本・アメリカの関係性を軸に	第09週に配布のプリントを参照
	11	(対) 沖縄近現代女性史①_通史	第10週に配布のプリントを参照
	12	(対) 沖縄近現代女性史②_移民女性	第11週に配布のプリントを参照
	13	(対) 沖縄近現代史_アーカイブズ学・史料学からのアプローチ①	第12週に配布のプリントを参照
	14	(対) 沖縄近現代史_アーカイブズ学・史料学からのアプローチ②	第13週に配布のプリントを参照
15	(対) まとめー沖縄近現代史を対象とした史学史的考察	第14週に配布のプリントを参照	
16	期末テスト	プリントを基に半期間の総復習	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】 パワーポイントで作成し、そのプリントを毎回配布する。 【参考文献】 講義において、その都度、テーマ・事件に関する参考文献と史料を紹介する。次の講義の時間までに、それらを精読する。</p>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの手立て	<p>①「履修の心構え」・自主性と主体性、積極性が必要である。講義に関する意見や感想、質問事項などをリアクションペーパーに記入して、講義終了後に教室内で提出する。また、適宜、講義の要点をまとめた小テスト、あるいはレポートを課すこともある。・私語は厳禁である。厳密に出席をとる。欠席の場合には「欠席届」を提出する。やむをえざる事情により遅刻した場合には講義終了後に、途中退出をせざるをえない場合には退出理由を申し出る。②「学びを深めるために」・講義で使用した配布資料などを見直して、沖縄近現代史における各時期の特質などを理解する。・各週の講義テーマに関係する参考文献や参考資料を紹介する。これらに目を通して自らの問題意識を深め、知識の習得を図る。</p>
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価	<p>到達目標との関連で以下のように判定する。</p> <p>①沖縄近現代史に関する基礎的知識に基づく応用力：期末試験60% ②沖縄近現代史に関する理解力・思考力の度合い：レポート30%、リアクションペーパー・平常点・小テスト10%</p>
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目・琉球・沖縄史を専攻する場合には「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」・「アジア史」・「古文書講読」・沖縄近現代史の理解を深めるには「沖縄平和学」・「南島社会学」・「平和運動史」など (2) 次のステージ・日常生活のなかに潜む多様な権力構造・差別構造を意識し、問題解決や社会貢献の方法と理想像を描きつけてほしい。・本講義で学んだことを3年次以降の演習や卒業論文、社会的活動に反映させてほしい。</p>
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄社会入門	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代(8回)、秋山 道宏(7回)	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい この講義は、今日の沖縄社会が直面している様々な課題に目を向けて、その背景にある構造的な問題について考察することをテーマとする。前期の講義では、権力作用によって把握しにくくなっている、沖縄の様々な社会現象と問題群、その現代的課題を理解することを目的とする。	メッセージ 沖縄社会に関する知的関心が不可欠な講義である。
	到達目標 沖縄社会にかかわる問題について学術的に思考する方法を具体的に理解し、そこから多様なテーマについて考察するための手がかりを引き出すことができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス。前半のテーマと概要説明	授業内で指示する
	2	沖縄といえば？：沖縄イメージとアイデンティティ	授業内で指示する
	3	沖縄の家族：伝統、ジェンダー、子ども	授業内で指示する
	4	沖縄の開発・発展	授業内で指示する
	5	沖縄と地域社会	授業内で指示する
	6	沖縄県民の社会参加活動	授業内で指示する
	7	国際社会学から見た沖縄：移民、ウチナンチュ・ネットワーク	授業内で指示する
	8	レポート提出	授業内で指示する
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定しない。必要に応じて資料を配付する。各回の講義で必要に応じ参考文献を提示する。		
	学びの手立て 新聞等を通して、日々の出来事やそこに含まれている問題を発見しようと意識することが重要である。		
	評価 小レポート(40%)、学期末レポート(あるいはテスト)(60%)で総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年次後期の基礎科目(学科必修科目)である社会学概論と平和学概論につながる
-------	------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄ジャーナリズム論	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	與那原良彦、安里努、山城紀子、崎濱秀光、福元大輔、大野亨恭、具志堅学、下地広也、石川亮太、島袋晋作、黒島美奈子、與那覇里子、新垣綾子、城間陽介、阿部岳	1年	times-okikoku@okinawatimes.co.jp(講師共用)、098(860)3538	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄の現在社会を知る上で必須の時事問題を中心に、沖縄ジャーナリズムの歩み、米軍基地問題、沖縄戦などを現役のデスク、記者、論説委員が解説する。報道を通して、ニュースの読み方、現代沖縄の問題を多様な視点から考える姿勢を学ぶ。</p>	<p>沖縄タイムスの一線で活躍する記者、日々の紙面づくりに取り組むデスクが、米軍基地問題から社会福祉まで幅広い視点で現代沖縄を解説します。ニュース一般の読み解き方も紹介します。</p>
	到達目標	
	<p>報道の現場の一線で活躍する記者の解説を通して、現代沖縄の社会を知るため、ニュースがつくりだされる過程から、その情報の読み解き方までを学ぶ。多様な視点から考える態度を習得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容紹介と登録(与那原良彦)	新聞を毎日読むこと
	2	N I Eで学ぶ新聞の読み方(安里努)	新聞を毎日読むこと
	3	社説で読み解く沖縄問題(崎濱秀光)	新聞を毎日読むこと
	4	沖縄戦と戦争犠牲としての「福祉」(山城紀子)	新聞を毎日読むこと
	5	衆院3区補選と参院選の裏側(大野亨恭)	新聞を毎日読むこと
	6	基地問題の現在と県政の行方(福元大輔)	新聞を毎日読むこと
	7	好調沖縄経済の実態と沖縄企業の可能性(島袋晋作)	新聞を毎日読むこと
	8 事件から見える沖縄社会(城間陽介)	新聞を毎日読むこと	
	9 米軍基地問題と報道(阿部岳)	新聞を毎日読むこと	
	10 地方報道の醍醐味(石川亮太)	新聞を毎日読むこと	
	11 沖縄戦を伝え続ける(新垣綾子)	新聞を毎日読むこと	
	12 事件はいかに報道されるか(山城響)	新聞を毎日読むこと	
	13 シャッターチャンスをつかむ(下地広也)	新聞を毎日読むこと	
	14 心をつかむ整理術(具志堅学)	新聞を毎日読むこと	
	15 新聞社のマイノリティー(黒島美奈子)	新聞を毎日読むこと	
	16 学期末テスト	新聞を毎日読むこと	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメを配布する		
	学びの手立て		
	<p>講義では時事問題に毎回言及します。そのため事前の1週間の新聞を読んで講義に参加することが求められます。ネットニュースの形ではなく、紙の新聞を1面から社会面までを通して読む習慣を身につけて下さい。朝刊には新書1冊分の活字が記載されています。その中から必要なニュースを自在に読むことが出来る力を身につけることは、社会人としても必要なスキルです。特に地域紙は地域の話に密着し、政治、経済、社会と学生のみなさんが住んでいる地域の視点からニュースを発信します。地域紙と全国紙を読むことを、大学生のころから心掛けてほしいと思います。</p>		
	評価		
	参加態度50% 論文50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会・平和領域の選択科目
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄前近代史 I	前期	月 4	2
	担当者 深澤 秋人	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	水曜日 2限のオフィスアワーに研究室（5422）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球・沖縄の前近代史は先史時代、古琉球、近世琉球に区分されています。古琉球では琉球王国が成立する一方、近世琉球では薩摩藩による支配が固定化され、最終的には明治政府による琉球併合で終焉を迎えます。本講義では、日本史および琉球史研究の論点を踏まえ、それぞれの時期の日本との関係を意識しながら、琉球の国家のありかたを考えます。</p>	<p>本学図書館郷土資料室には沖縄県内の県史や市町村史が並んでいます。学外でも、沖縄前近代史に関わる博物館の常設展や企画展のほか、発掘調査現地説明会が催されることがあります。県史や身近な市町村史をめぐってみることで、博物館や説明会に足を運んでモノに接することをおすすめします。</p>
	到達目標	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>先史時代から近世琉球にわたるそれぞれの時期の琉球と日本の関係を理解できるようになる。</li> <li>古琉球と近世琉球における国家のありかたを理解できるようになる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、沖縄前近代史 I を始める前に	到達目標を理解する
	2	歴史学界の動向に触れる	歴史学研究会のHPを開いてみる
	3	『岩波講座 日本歴史』に接する	沖縄県立図書館のHPを開いてみる
	4	律令制国家と南島—奈良時代の南の「境界」—	レジュメの参考文献にあたる
	5	平安時代の南の「境界」—八郎の真人・キカイガシマ・落ち武者伝説—	レジュメの参考文献にあたる
	6	琉球の国家形成—グスク時代の沖縄島—	レジュメの参考文献にあたる
	7	第一尚氏政権と足利政権—室町時代の南の「境界」—	レジュメの参考文献にあたる
	8	第二尚氏政権と豊臣政権—尚寧の冊封と朝鮮出兵—	レジュメの参考文献にあたる
	9	島津氏の琉球侵攻—歴史の変動期のなかで—	レジュメの参考文献にあたる
	10	講義の折り返し地点を過ぎて	到達目標を確認する
	11	徳川政権と琉球王国—「鎖国」と琉球王権	レジュメの参考文献にあたる
	12	近世琉球の国家と社会—琉球支配と乾隆検地—	レジュメの参考文献にあたる
	13	異国船の琉球来航—アジアの近代との接点—	レジュメの参考文献にあたる
14	明治政府による琉球併合—東アジアのなかの「琉球処分」—	レジュメの参考文献にあたる	
15	沖縄前近代史 I をまとめる前に	到達目標を再確認する	
16	課題の提出	関心を持ったテーマを設定する	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>【テキスト】教科書は使用しません。毎回レジュメと図表などの参考資料を配布します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『沖縄県史』各論編第3巻 古琉球（沖縄県教育委員会、2010年）</li> <li>『沖縄県史』各論編第4巻 近世（沖縄県教育委員会、2005年）</li> <li>荒野泰典ほか「時期区分論」（『アジアのなかの日本史 I アジアと日本』東京大学出版会、1992年）</li> <li>桃木至朗編『海域アジア史研究入門』（岩波書店、2008年）</li> </ul>		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業計画に示した各回のテーマのなかで、関心がある、関心が持てそうなものをあらかじめいくつかピックアップすることをおすすめします。</li> </ul>		
	評価		
	<p>期末試験もしくはレポート（80%）、授業参加度（20%）によって総合的に評価します。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	「アジア史」「沖縄前近代史 II」の受講を希望します。



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄前近代史Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球王国にとって重要な港であった那覇港はアジアの歴史の変動がいち早く反映する場でした。本講義では、15世紀から19世紀にいたる那覇港の変遷、時期ごとの特徴を中国船と日本船に注目して考えます。また、琉球の王権や政権だけではなく、近世の琉球社会にとっての対外関係史を考えます。</p>	<p>本学の図書館は沖縄県内の市町村史を多く所蔵しています。学外でも、博物館では沖縄前近代史に関する常設展や企画展、また、県や市町村による発掘調査現地説明会が開催されることもあります。身近な市町村史をめぐってみることで、博物館や説明会に足を運んでモノに接することをおすすめします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・那覇港の変遷および時期ごとの特徴を理解できるようになる。</li> <li>・近世の琉球社会にとって対外関係史が持つ意味を理解できるようになる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) イントロダクション、沖縄前近代史Ⅱを始める前に	到達目標を理解する
	2	(対) 「琉球貿易図屏風」(滋賀大学経済学部附属史料館蔵)を歩く	レジユメの参考文献にあたる
	3	(特) 「大交易時代」の那覇港—中国船と日本船—	レジユメの参考文献にあたる
	4	(対) 16世紀末の那覇港—那覇の日本人町—	レジユメの参考文献にあたる
	5	(特) 「鎖国」と那覇港—17世紀前半の状況—	レジユメの参考文献にあたる
	6	(対) 講義の折り返し地点を前に	到達目標を確認する
	7	(特) 琉球史のなかの久米村—チャイナタウンから諮問機関へ—	レジユメの参考文献にあたる
	8	(対) 琉球社会と対外関係史①—黒砂糖・貿易銀・海産物・中国商品—	レジユメの参考文献にあたる
	9	(特) 琉球社会と対外関係史②—久米島の場合—	レジユメの参考文献にあたる
	10	(対) 琉球社会と対外関係史③—宜野湾間切我如古村の場合—	レジユメの参考文献にあたる
	11	(特) 琉球社会と対外関係史④—那覇港を抱えた地域の場合—	レジユメの参考文献にあたる
	12	(対) 異国船の琉球来航—1840～50年代の那覇—	レジユメの参考文献にあたる
	13	(特) 琉球王国最末期の那覇港—1870年代の状況—	レジユメの参考文献にあたる
14	(対) 沖縄前近代史Ⅱをまとめる前に	到達目標を再確認する	
15	(特) まとめ	関心を持ったテーマを設定する	
16	(対) 期末試験(レポートの場合あり)	到達目標を意識して解答する	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】教科書は使用しません。毎回レジユメと図表などの参考資料を配布します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『沖縄県史』各論編第3巻 古琉球(沖縄県教育委員会、2010年)</li> <li>・『沖縄県史』各論編第4巻 近世(沖縄県教育委員会、2005年)</li> <li>・豊見山和行編『日本の時代史18 琉球・沖縄史の世界』(吉川弘文館、2003年)</li> </ul>		
学びの手立て	<p>授業計画に示した各回のテーマのなかで、関心がある、関心が持てそうなものをあらかじめいくつかピックアップしておくことをおすすめします。</p>		
評価	<p>期末試験もしくはレポート(80%)、授業参加度(20%)によって総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「アジア史」「沖縄前近代史Ⅰ」「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」を受講することを希望します。</p>
-------	-------------------------------------------------------------------

※ポリシーとの関連性

社会文化学科の導入科目にあたる。以降の学びに向け、基礎となる知識を幅広く身につけることが目的である。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄文化入門	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高(8回)、石垣 直(7回)	1年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義の主眼は、沖縄の民俗文化に関する基礎的な理解を深めることにある。具体的には、地理・歴史、生業、衣・食・住、村落、家族・親族、誕生・成長儀礼、婚姻、葬送儀礼と墓、祭り・年中行事などの諸トピックを取り上げる。	メッセージ 沖縄文化に関する基本的な知識を身につけるための科目です。
	到達目標 琉球弧の島々で歴史的に作り上げられてきた文化の概要を理解し、空間的（周辺地域との交流）・時間的（文化の歴史的変化）広がりの中で「沖縄文化」を捉える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス この講義の進め方・成績評価の方法	課題とそのフィードバック
	2	沖縄のおまつり——エイサーと綱引き	課題とそのフィードバック
	3	農耕——米と芋、民族起源論、生業複合	課題とそのフィードバック
4	海——海人と交易、ニライカナイ	課題とそのフィードバック	
5	村の景観——建築・風水・石敢当	課題とそのフィードバック	
6	被服と装い——色彩、素材、形態	課題とそのフィードバック	
7	沖縄料理——肉食、沖縄そば、チャンプルー	課題とそのフィードバック	
8	都市と王権——那覇と首里	中間レポートの提出	
9	琉球弧の地理と歴史	沖縄の地理・歴史を調べる	
10	親族と人間関係——門中制度の成立と広がり	自家の親族関係を作図する	
11	祖先祭祀——「祖先」と「子孫」との関係性	自家の祖先祭祀を調べる	
12	年中行事——琉球弧の人々の宗教・世界観	地域の年中行事を調べる	
13	女性の霊的優位——オナリ信仰	オナリ神信仰について調べる	
14	誕生・成長・結婚・長寿儀礼	親族の成長儀礼を調べる	
15	まとめ——「沖縄文化」の歴史・現在と文化人類学的視点	講義内容の全体を復習する	
16	(予備日)		
	テキスト・参考文献・資料など 特になし。(毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する)授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 図書館で文献を読んだり、県内の諸文化関連施設などを実際に訪問することで、マスコミ報道などで取り上げられる「沖縄文化」の情報を掘り下げて学んでみよう。		
	評価 出席ならびに授業参加姿勢をもとに、総合的に評価する。(担当教員によってはレポートあるいは筆記試験を課す場合がある)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄の文化だけでなく、歴史や言語、さらには周辺諸地域に対する理解を深めることが望ましい。次の諸科目の履修を勧めたい。e.g. 民俗学概論、文化人類学概論、南島民俗学史Ⅰ・Ⅱ、比較民俗学、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、etc.
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄平和学	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-鳥山 淳	2年	講義時間終了後に対応する	

学びの準備	ねらい 沖縄で起こってきた出来事を通して、平和に関連する問いの立て方を学び、現在の問題について考える視点を身につける。	メッセージ もし自分がその状況に身を置いていたらどうしただろうか、という想像力を働かせながら受講してもらいたい。
	到達目標 講義で提示したテーマの要点を的確に理解し、そこから得られる視点を現在の問題にあてはめて思考できるようになる。	

学びの準備	到達目標 講義で提示したテーマの要点を的確に理解し、そこから得られる視点を現在の問題にあてはめて思考できるようになる。
-------	----------------------------------------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス： 講義内容と評価方法についての確認	シラバスとガイダンス内容の確認
	2	沖縄戦以前の軍隊と地域①	配布資料の精読
	3	沖縄戦以前の軍隊と地域②	配布資料の精読
	4	沖縄戦以前の軍隊と地域③	配布資料の精読
	5	沖縄戦における軍民関係①	配布資料の精読
	6	沖縄戦における軍民関係②	配布資料の精読
	7	沖縄戦における軍民関係③	配布資料の精読
	8	過去と向き合う取り組み①	新聞等での情報収集
	9	過去と向き合う取り組み②	新聞等での情報収集
	10	過去と向き合う取り組み③	新聞等での情報収集
	11	沖縄から視野を広げる①	配布資料の精読
	12	沖縄から視野を広げる②	配布資料の精読
	13	沖縄から視野を広げる③	配布資料の精読
	14	沖縄から視野を広げる④	配布資料の精読
15	沖縄から視野を広げる⑤	配布資料の精読	
16	学期末テスト		
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定しない。参考文献等を講義の中で紹介する。		
学びの実践	学びの手立て 新聞等のニュースに積極的に目を向け、現在の問題に関する知識・知見を増やしていくこと。		
学びの実践	評価 中間レポート30% 学期末テスト40% 参加姿勢30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会・平和領域の関連科目、演習Ⅰ・Ⅱにおける取り組み
-------	-------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	家族社会学	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	2年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①家族とは何かを考え、②どのようにして現在の家族が生成されたのかを考える。家族とは何かという問いは、家族という構造を明らかにすることである。どのようにして家族が生成されてきたのかをたどることは、家族を生成してきたものの構造を明らかにすることである。二つの構造を明らかにすることによって、これからの家族と社会の可能性を探る。	学生時代に、家族とは何か、家族するということはどういうことかを考察してみましょう。そのことによって、これからの家族と社会の可能性がみえてきます。
到達目標	近代・宗教・経済・ジェンダー・国民国家・アディクションなどの視点から家族と社会を読み解くことができるようになる。そのうえで、これからの社会と家族のありようをイメージすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、家族社会学の基礎用語	初回から講義します
	2	統計から家族を社会的に読む	配布資料を熟読すること
	3	家族の構造	配布資料を熟読すること
	4	多様な家族	配布資料を熟読すること
	5	社会史的に家族の変遷をみる	配布資料を熟読すること
	6	生と死と老い	配布資料を熟読すること
	7	子ども観の変遷	配布資料を熟読すること
	8	日本における近代家族の生成	配布資料を熟読すること
	9	戦後の日本の社会変動と家族	配布資料を熟読すること
	10	沖縄の家族①	配布資料を熟読すること
	11	沖縄の家族②	配布資料を熟読すること
	12	アディクションと家族	配布資料を熟読すること
	13	家族の再構築	配布資料を熟読すること
14	アニメの家族を読む	配布資料を熟読すること	
15	家族とは？	配布資料を熟読すること	
16	課題かテスト	半期間の総復習	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しない。講義に関連する文献は適宜講義内で紹介する。また、授業に関連する資料を配布するので、それを参考にすること。講義の理論となっている主な参考文献は次のとおり。①フィリップ・アリエス『「子供」の誕生』（1980年、みすず書房） ②グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』（2000年、新思泉社）		
学びの手立て	現代社会は「大きな物語」が終焉したという前提で講義をすすめていく。毎回の受講の積み重ねが力になる。		
評価	発見だったこと、感じたことなどをリアクション・ペーパー（授業参加度とする）に書いて提出。授業参加度（80%）と課題（20%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 多様な家族のあり方を支援する家族政策・社会政策へ提言できる。そのような活動・研究・臨床の場につながることをのぞむ。
-------	--------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境開発論	前期	土 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前田 一舟	2年	pptt219@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は環境と開発の対立による問題を対象として、主に民俗学的なアプローチで解説と議論を進めていく。それは参加者の思考とその行為により理論と実践を学んでいく。	私たちの暮らしのなかで、21世紀の恒久的持続可能な開発を進めるうえで鍵となる理論と政策、制度について「みる・かんがえる・はなす・さく」の姿勢より一緒に探そう。

到達目標	講義の内容は大きく3段階に分けている。ひとつは環境問題の発生となる根源を明確化し、その課題を整理したうえで解決策の措置について理論や制度を使いながら解説する。次の段階に環境と開発の対立の構造を現代社会の事例に基づきながら展開する。3番目の段階は双方の対立の構造について解決や克服の糸口として生物多様性、環境教育、環境影響の評価と土地利用、環境的負荷の関係、経済発展、環境の規制と企業の経済性などを取り上げ、恒久的持続可能な開発を進めていく理論と政策、制度を習得する。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	
	回	テーマ
	1	シラバスの説明と環境開発の体験談（特）
	2	学生からみた環境の印象とは？（特）
	3	学生からみた開発の印象とは？（特）
	4	恒久的持続可能な社会づくりにおける環境開発の使命（特）
	5	社会環境と自然環境の役割とその環境活動（特）
	6	気候変動における暮らしの政策（特）
	7	自然エネルギーを目指す社会の政策（特）
	8	水の問題と水ビジネスの社会（特）
	9	資源の枯渇における社会環境の変化（特）
	10	人口からみた飢餓と食糧の問題（特）
	11	大学生のファッションからみた社会の連鎖（特）
	12	交通渋滞と人の移動（特）
	13	災害と防災の民間伝承（特）
	14	村落風水と都市政策－景観保全と観光開発－（特）
15	マスタープランとアクションプランをつくる（特）	
16	総括：課題発表の討論（特）	
		時間外学習の内容
		自主学習①環境とは調べる
		自主学習②開発とは調べる
		環境法及びその関連法の把握
		自主学習③社会的課題を探る
		自主学習④環境的課題を探る
		自主学習⑤自然エネルギーを探る
		自主学習⑥水の問題を探る
		自主学習⑦生物多様性を探る
		自主学習⑧食糧の課題を探る
		自主学習⑨衣服を探る
		自主学習⑩車社会を探る
		自主学習⑪津波の事例を探る
		自主学習⑫兵庫県のまちづくり
		発表資料作成①
		発表資料作成②
		整理と新たな課題の発見

テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回プリントを配布する。</li> <li>・時間外の自主学習に役立つ参考文献として以下を推薦する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①鳥飼幸博、『開発と環境の経済学－人間開発論の視点から－』、東海大学出版会、1998年。</li> <li>②鬼頭秀一、『自然保護を問いなおす－環境倫理とネットワーク－』、筑摩書房、1996年。</li> <li>③宮本常一、『宮本常一著作集第18巻 旅と観光』、未来社、1975年。</li> </ul> </li> </ul>
----------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの手立て	<p>【学びの手立て】授業のなかで配布した資料や紹介した情報を復習し、次の自主学習へ取り組むよう心掛ける。また、授業では担当者による一方的な情報提供だけでなく、自主学習及び意見参加型の場を常に求める為、自発的な意見等も要する。</p> <p>【履修の心得え】授業の進行によっては環境開発に関する日本の最新報道や台風等による休講からトピックの順序を変えたり、一部変更することがある。授業を受講する上での最低限のマナー（携帯電話、遅刻、居眠り、退出、私語）は心得ておくこと。そして、課題等の提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けないので十分に留意すること。</p>
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の到達目標を達成する為、授業のなかでその都度記述課題や学習課題を求め、電子メールで提出とする。その評価を以下のとおり設定する。</li> <li>・記述課題（50%）、学習課題（40%）、平常点（質問や発言を適宜加点10%）より評価する。</li> <li>・出席状況については、できる限り遅刻並びに無断欠席はしないこと。欠席する場合は事前に欠席届を済ませておくこと。</li> </ul>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連科目としては、「ボランティア論」「NPO入門」「協働社会論」「環境教育論」「環境法」等があげられる。</li> <li>・次なるステージとしては受講終了後に独自で取り組みたい興味のあるテーマを設定し、その自主研究を通してCSR（企業社会的責任）とCSV（共通価値の創造）等へ結びつくきっかけを育んでほしい。</li> </ul>
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-末吉 重人	2年	学内LAN メールアドへ	

学びの準備	ねらい 社会学専攻の学生を対象とした本講義では、欧米の社会学理論史を英語で学ぶ。社会学の父コントから主要な社会学者の論点を、現代に至るまで触れる。学生が訳を発表し、それにコメントする形で授業を進行する。おおいにディスカッションを歓迎する。	メッセージ 基本的な社会学理論を理解する学生になって欲しい。
	到達目標 社会を見る際に、ある程度の社会的視点を持って分析出来るようになることを目指す。	

学びの準備	到達目標 社会を見る際に、ある程度の社会的視点を持って分析出来るようになることを目指す。
-------	-------------------------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明と発表順の決定	配布資料を熟読すること
	2	オーギュスト・コントとフランス革命について(末吉)	配布資料を熟読すること
	3	エミール・デュルケム「社会分業論」	『社会学講義』PP279-282
	4	「自殺論」	配布資料を熟読すること
	5	カール・マルクスの生涯と史的唯物論	『社会学の名著30』PP48-54
	6	資本論と疎外論	配布資料を熟読すること
	7	マックス・ウェーバー「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」	『社会学のあゆみ』PP20-38
	8	支配の社会学	配布資料を熟読すること
	9	ユダヤ・キリスト教史概略	配布資料を熟読すること
	10	タルコット・パーソンズの構造・機能分析	『社会学のあゆみ』PP157-167
	11	AGIL	配布資料を熟読すること
	12	マハトマ・ガンジーの生涯と非暴力主義	配布資料を熟読すること
	13	ロバート・マーソンの逆機能概念	『社会学のあゆみ』P150-156
	14	逸脱理論	配布資料を熟読すること
	15	ヨハン・ガルトウングの構造的暴力	配布資料を熟読すること
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 印刷物を配布し、テキストとする。参考文献は『社会学講義』富永健一・中公新書1999年6版、『社会学のあゆみ』新睦人他・有斐閣新書・1993年22版、『社会学の名著30』竹内均・ちくま新書2008年3刷	『社会学のあゆみ』
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------

学びの実践	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションを通じて学び合いたい。
-------	---------------------------------------------

学びの実践	評価 前期は個人発表の(40点)、期末テスト(40点)を行う。授業参加度を20点とし、合計で評価する。
-------	--------------------------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は、社会学理論史関連の科目。次のステージは、自分の好む社会学理論を模索すること。
-------	-------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習Ⅰ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	2年	r.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は、社会文化学科の2年次を対象とした必修科目であり、とくに民俗領域と人類領域の学生を対象としている。本演習では、民俗学・人類学に関する文献の基礎用語を学びながら、英文の読解能力を高めることを目的とする。最終的には、英文の専門資料を正確に読解する能力を獲得することを目指す。	メッセージ 英語専門資料の読解に必要な不可欠な英語文法を身につけましょう。
	到達目標 民俗学・人類学に関する基礎的な概念を理解し、英語と日本語で正確に翻訳・読解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション	授業の予習
	2	(特) 基礎テキストの講読 (1)	授業の予習・復習
	3	(特) 基礎テキストの講読 (2)	授業の予習・復習
	4	(特) 基礎テキストの講読 (3)	授業の予習・復習
	5	(特) 基礎テキストの講読 (4)	授業の予習・復習
	6	(特) 基礎テキストの講読 (5)	授業の予習・復習
	7	(特) 基礎テキストの講読 (6)	授業の予習・復習
8	(特) 復習	授業の予習・復習	
9	(特) 基礎テキストの講読 (1)	授業の予習・復習	
10	(特) 基礎テキストの講読 (2)	授業の予習・復習	
11	(特) 基礎テキストの講読 (3)	授業の予習・復習	
12	(特) 基礎テキストの講読 (4)	授業の予習・復習	
13	(特) 基礎テキストの講読 (5)	授業の予習・復習	
14	(特) 基礎テキストの講読 (6)	授業の予習・復習	
15	(特) 復習	授業の総合的な復習	
16	(特) 期末課題	授業の総合的な復習	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは、必要な部分を印刷して配布する。 関連する重要な文献は、適宜紹介する。		
	学びの手立て 研究領域に関わる英語論文や英字新聞を日常的に読む。		
	評価 原則として、授業参加度 (30%) と期末課題 (70%) を総合し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語資料講読演習Ⅱ
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代	2年	kayo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は、社会文化学科の2年次を対象とした必修科目であり、とくに歴史領域と考古・先史領域の学生を対象としている。本演習では、歴史と考古・先史に関する文献の基礎用語を学びながら、英文の読解能力を高めることを目的とする。最終的には、英文の専門資料を正確に読解する能力を獲得することを目指す。	メッセージ 英語専門資料の読解に必要な不可欠な英語文法を身につけましょう。
	到達目標 歴史と考古・先史に関する基礎的な概念を理解し、英語と日本語で正確に翻訳・読解できるようになったうえで、さらに専門的な英文テキストを正確に翻訳・読解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	授業の予習
	2	専門テキストの講読 (1)	授業の予習・復習
	3	専門テキストの講読 (2)	授業の予習・復習
	4	専門テキストの講読 (3)	授業の予習・復習
	5	専門テキストの講読 (4)	授業の予習・復習
	6	専門テキストの講読 (5)	授業の予習・復習
	7	専門テキストの講読 (6)	授業の予習・復習
8	復習	授業の予習・復習	
9	専門テキストの講読 (1)	授業の予習・復習	
10	専門テキストの講読 (2)	授業の予習・復習	
11	専門テキストの講読 (3)	授業の予習・復習	
12	専門テキストの講読 (4)	授業の予習・復習	
13	専門テキストの講読 (5)	授業の予習・復習	
14	専門テキストの講読 (6)	授業の予習・復習	
15	復習	授業の総合的な復習	
16	テスト	授業の総合的な復習	
	テキスト・参考文献・資料など “テキストは、必要な部分を印刷して配布する。関連する重要な文献は、適宜紹介する。”		
	学びの手立て 研究領域に関わる英語論文や英字新聞を日常的に読む。		
	評価 原則として、授業参加度 (30%) と試験 (70%) を総合し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語資料講読演習 I
-------	----------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-末吉 重人	2年	学内LAN メールアドへ	

学びの準備	ねらい 後期は、前期に学んだ社会学理論を前提として社会問題を学ぶ。アメリカの学部生がよく使うテキストを使用するが、日本とは異なる視点に注目し、米国の文化についても触れることを目的とする。このテキストは家庭問題から政府の問題まで数多くの社会問題を扱っている。それを学生が担当して翻訳発表し、コメントを混ぜながら授業を進める。	メッセージ 社会問題をなるべく冷静に見ることができることを目指したい。
	到達目標 様々な社会問題を四つの社会学的視点から分析する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	分担ページの決定	配布資料を熟読すること
	2	四つの社会学的視点（機能主義、ファミニズム、紛争主義、相互行為主義）の説明（末吉）	配布資料を熟読すること
	3	以下、担当者による発表と末吉によるコメント：例：家族の問題	配布資料を熟読すること
	4	教育の問題	配布資料を熟読すること
	5	政府の問題	配布資料を熟読すること
	6	貧困の問題	配布資料を熟読すること
	7	高齢者の問題	配布資料を熟読すること
	8	性行動に関する問題	配布資料を熟読すること
	9	ドラッグの問題	配布資料を熟読すること
	10	犯罪の問題	配布資料を熟読すること
	11	都市化の問題	配布資料を熟読すること
	12	人口問題	配布資料を熟読すること
	13	環境問題	配布資料を熟読すること
	14	格差社会	配布資料を熟読すること
15	戦争の問題	配布資料を熟読すること	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキストJames W Coleman & Haroid R. Kerbo, 'SOCIAL PROBLEMS' (New York, Harper & Roe, Publications, 2008)-を図書館に指定文献として置いておくので、自分の担当範囲を各自でコピーして使用すること。		
	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションしながらの授業を行いたい。		
	評価 発表（40点）、期末試験（40点）を課す。 授業参加度を20点とし、合計で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は理論社会学関連の科目。次のステージはとして、自分の好みの社会学者を探してもらいたい。
-------	----------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	2年	r.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は、社会文化学科の2年次を対象とした必修科目であり、とくに民俗領域と人類領域の学生を対象としている。本演習では、民俗学・人類学に関する文献の専門用語を学びながら、英文の読解能力を高めることを目的とする。最終的には、英文の専門資料を正確に読解する能力を獲得することを旨とする。	メッセージ 英語専門資料の読解に必要な不可欠な英語文法を身につけましょう。
	到達目標 民俗学・人類学に関する基礎的な概念を理解し、英語と日本語で正確に翻訳・読解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション	授業の予習
	2	(特) 専門テキストの講読 (1)	授業の予習・復習
	3	(特) 専門テキストの講読 (2)	授業の予習・復習
	4	(特) 専門テキストの講読 (3)	授業の予習・復習
	5	(特) 専門テキストの講読 (4)	授業の予習・復習
	6	(特) 専門テキストの講読 (5)	授業の予習・復習
	7	(特) 専門テキストの講読 (6)	授業の予習・復習
	8	(特) 復習	授業の予習
9	(特) 専門テキストの講読 (7)	授業の予習・復習	
10	(特) 専門テキストの講読 (8)	授業の予習・復習	
11	(特) 専門テキストの講読 (9)	授業の予習・復習	
12	(特) 専門テキストの講読 (10)	授業の予習・復習	
13	(特) 専門テキストの講読 (11)	授業の予習・復習	
14	(特) 専門テキストの講読 (12)	授業の予習・復習	
15	(特) 総括	授業の復習	
16	(特) 期末課題	授業の総合的な復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは、必要な部分を印刷して配布する。関連する重要な文献は、適宜紹介する。		
	学びの手立て 研究領域に関わる英語論文や英字新聞を日常的に読む。		
	評価 原則として、授業参加度 (30%) と期末課題 (70%) を総合し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語資料講読演習Ⅱ
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	月野 楓子	2年	授業後に受け付けます	

学びの準備	ねらい 本演習は、社会文化学科の2年次を対象とした必修科目であり、とくに歴史領域の学生を対象としている。本演習では、歴史に関する文献の基礎用語を学びながら、英文の読解能力を高めることを目的とする。最終的には、英文の専門資料を正確に読解する能力を獲得することを旨とする。	メッセージ 英語専門資料の読解に必要な不可欠な英語文法を身につけましょう。
	到達目標 歴史に関する基礎的な概念を理解し、英語と日本語で正確に翻訳・読解できるようになったうえで、さらに専門的な英文テキストを正確に翻訳・読解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション	授業の予習
	2	(特) 専門テキストの講読 (1)	授業の予習・復習
	3	(特) 専門テキストの講読 (2)	授業の予習・復習
	4	(特) 専門テキストの講読 (3)	授業の予習・復習
	5	(特) 専門テキストの講読 (4)	授業の予習・復習
	6	(特) 専門テキストの講読 (5)	授業の予習・復習
	7	(特) 専門テキストの講読 (6)	授業の予習・復習
	8	(特) 復習	授業の予習・復習
9	(特) 専門テキストの講読 (1)	授業の予習・復習	
10	(特) 専門テキストの講読 (2)	授業の予習・復習	
11	(特) 専門テキストの講読 (3)	授業の予習・復習	
12	(特) 専門テキストの講読 (4)	授業の予習・復習	
13	(特) 専門テキストの講読 (5)	授業の予習・復習	
14	(特) 専門テキストの講読 (6)	授業の予習・復習	
15	(特) 復習	授業の総合的な復習	
16	(特) 試験	授業の総合的な復習	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは、必要な部分を印刷して配布する。 関連する重要な文献は、適宜紹介する。		
	学びの手立て 研究領域に関わる英語論文や英字新聞を日常的に読む。		
	評価 平常点30%、課題提出40%、期末試験30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語資料講読演習Ⅰ
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学概論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	1年	講義には質問時間も設定しているため、臆することなく尋ねて欲しい。	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	考古学の基本的な概念や、考古学におけるモノの見方、考え方について理解してもらおう。また、実践されている考古学研究方法と、学会に認定されている基本的な成果を学び、新たな考古学的資料の解釈や課題を考え、見出しうる能力の習得を目標とする。	博物館、資料館などの施設巡りが、自然と楽しくなります。		
学びの準備	到達目標			
	①考古学の基本的な概念を理解する。 ②考古学のモノの見方、考え方を習得する。 ③考古学の周辺科学との関係を認識し、考古学が目指す過去の人間社会、文化の復元性を理解する。			
学びの実践	学びのヒント			
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)			
	授業計画 第1回：文化科学としての考古学 第2回：考古学とは 第3回：考古学の研究 第4回：環境考古学 第5回：民俗考古学 第6回：動物考古学 第7回：歴史考古学 第8回：戦争考古学 第9回：旧石器時代総論 第10回：年代別各論 日本の旧石器時代 第11回：年代別各論 琉球列島の旧石器時代 第12回：新石器時代総論 第13回：各論 日本の新石器時代① 起源、時期区分、土器 第14回：各論 琉球列島の新石器時代 第15回：弥生時代総論 第16回：定期試験			
	テキスト・参考文献・資料など			
学びの実践	テキスト：特に指定しない。 参考文献：鈴木公雄『考古学入門』東京大学出版会 1988年 資料：毎回、授業でパワーポイント資料を配付する。			
	学びの手立て	専門科目のため、当然専門用語の理解が不可欠である。復習を行い、関連する用語も事前調べること。内容が理解されているか、学生への問いかけがあります。学生の積極的な発言を期待する。		
学びの実践	評価	学期末テストの結果と、平常点を加えて総合的に評価します。		
	次のステージ・関連科目	南島先史学、南島考古学、南島考古学特講、アジア考古学		

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学特講 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	2年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	考古学はモノから歴史を復元する学問である。授業では、前半は、遺構、遺物からどのように歴史復元を行うかについて一緒に考える。後半は、遺跡調査に必要な技術と、行政の実際について紹介する。	【実務経験】 地方行政における実務経験を活かして、考古遺跡の調査方法や、文化財保護法などについて解説する。地域で遺跡を活かすことを一緒に考えましょう。
到達目標	報告書を読んで遺物や遺構が具体的にイメージできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス(考古学的発見と研究について)	シラバスをよく読むこと
	2	文化財保護行政と埋蔵文化財	関連資料を配付するので読むこと
	3	遺跡の発掘調査の実際	関連資料を配付するので読むこと
	4	遺構の理解と分析(建物跡の変遷)	関連資料を配付するので読むこと
	5	遺構の理解と分析(建物跡の配置)	関連資料を配付するので読むこと
	6	グスクと集落から読み解く社会①	課題に取り組むこと
	7	グスクと集落から読み解く社会②	課題に取り組むこと
	8	グスクと集落から読み解く社会③	関連資料を配付するので読むこと
	9	遺物の資料整理	課題に取り組むこと
	10	土器の分析方法と研究	関連資料を配付するので読むこと
	11	貿易陶磁の持仏資料の観察(青磁①)	関連資料を配付するので読むこと
	12	貿易陶磁の持仏資料の観察(青磁②)	課題に取り組むこと
	13	出土銭貨の分析方法と研究①	関連資料を配付するので読むこと
14	出土銭貨の分析方法と研究②	課題に取り組むこと	
15	まとめ	関連資料を配付するので読むこと	
16	レポート提出	課題に取り組むこと	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。出席確認を毎回厳格に行う。基本的に講義形式で行い、毎回資料を配付予定。		
学びの手立て	履修上の心構えとして、以下に注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 ・提出するレポートと課題は、切を厳守の上必ず取り組むこと。 ・各自関心のある考古資料について、博物館等へ出かけ実見するとともに、報告書を適宜読むこと。 ・考古学に関する報告書を事前に読んで、予習復習を怠らないようにすること。		
評価	小テスト(ワーク)50%、期末課題50%。 ※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 考古学研究の実践的授業として位置づける。関連科目としては「考古学特講Ⅱ」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島史学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	--------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学特講Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-後藤 雅彦	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球列島の先史文化の系譜や特徴はどこにあるか？福建・広東を中心とした東南中国、台湾、そして琉球列島を東アジア南方沿海地域と設定し、新石器文化文化を中心に、東アジア世界における先史文化の中で、その共通性と異質性を整理する。	琉球列島のすぐ南に台湾があり、その対岸には東南中国がある。これらの地域の考古学研究は、琉球列島の先史文化の形成を考える上で重要な地域である。最新の調査研究の動向をふまえながら、これらの地域の研究成果を紹介する。

到達目標	東アジア南方沿海地域と琉球列島を対象とし、主に先史時代を扱う考古学資料の分析や解釈の方法を理解し、本人の関心のある時代地域の研究に反映させる思考を養う。
------	------------------------------------------------------------------------------

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめにー東アジア南方沿海地域の先史文化	配付資料の整理
	2	新石器時代とは	配付資料の整理
	3	中国考古学の基礎知識	配付資料の整理
	4	中国の考古学史	配付資料の整理
	5	台湾の考古学史	配付資料の整理
	6	中国先史文化の概要	配付資料の整理
	7	東南中国先史文化の概要	配付資料の整理
	8	東アジア・琉球列島における土器文化の形成と展開	配付資料の整理
	9	東アジア・琉球列島における稲作文化の展開	配付資料の整理
	10	東アジア南方沿海地域の稲作文化の展開と貝塚	配付資料の整理
	11	中国新石器時代の交流	配付資料の整理
	12	東アジア南方沿海地域の交流	配付資料の整理
	13	東アジア南方沿海地域と琉球列島①	レポート作成
	14	東アジア南方沿海地域と琉球列島②	レポート作成
15	まとめ	レポート作成	
16	期末試験・レポート提出		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しない。授業時に参考文献などは紹介する。
-------	--------------------------------------------------

学びの手立て	琉球列島の先史文化に関する研究状況を十分、理解しておく。それによって、台湾や東南中国と比較してみる。
--------	----------------------------------------------------

評価	平常点20%、期末試験40%、レポート40%で評価します。
----	-------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては「沖縄の考古学」。類似科目としては「南島考古学Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	--------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際関係論	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-河村 雅美	2年	ptt503@okiu.ac.jpで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	国際関係を、環境問題という国境を越えるグローバルな問題を通して学びます。国連や国際環境機関のシステム、環境に関する国際条約などの枠組みや、環境問題のための国際的な運動を通じて、国際関係を理解していくことが目的です。また、環境問題が民主主義や人権の問題と深く関わることや、地域と国際社会との関係についても、沖縄からひきつけて考える機会を設けて学んでいきます。	担当講師は、地元沖縄の環境調査団体「インフォームド・パブリック・プロジェクト」で活動しているため、沖縄の環境問題のホットな実践の話をおりませながら、授業を展開していきます。現在は、沖縄の米軍基地の環境問題、汚染問題を中心とした活動をしており、そこから見える日本・米国・沖縄の関係の問題も考えていきたいと思っています。映像なども用いて理解を助ける予定です。
到達目標	(1) 国際的な環境関係の基礎知識（代表的な国際会議や国際機関、条約、枠組み）を身につけること。 (2) 環境問題と人権、民主主義などとの関係について理解し、論じることができるようにすること。 (3) 地域と国家、国際社会との関係について論じることができるようにすること。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	(特) オリエンテーション・ガイダンス	シラバスや授業の流れの理解	
	2	(特) 環境問題が持つ射程(1)環境問題の「国際化」の歴史的経緯	配布補助資料の理解	
	3	(特) 環境問題が持つ射程(2)環境問題と国際機関・会議・条約	配布補助資料の理解	
	4	(特) 問題が持つ射程(3)「公害」「環境」「地球環境」問題	配布補助資料の理解	
	5	(特) 問題が持つ射程(4)「人権」「民主主義」と環境	リアクション・ペーパー執筆	
	6	(特) 条約を読んでみる「生物多様性条約」とは？(今回時間的制約で割愛)	配布補助資料の理解	
	7	(特) 条約を理解する「生物多様性条約」：資源をめぐる南北問題(今回時間的制約で割愛)	リアクション・ペーパー執筆	
	8	(特) と国際社会：沖縄と国際環境運動 国際環境機関と沖縄 新石垣空港建設問題から国際社会へ	配布補助資料の理解	
	9	(特) と国際社会：沖縄と国際環境運動 国際環境機関と沖縄 基地問題の環境・国際問題化	配布補助資料の理解	
	10	(特) と国際社会：沖縄の国際環境運動 国際裁判という手段 ジュゴン訴訟(時間的制約で割愛)	配布補助資料の理解	
	11	(特) と国際社会：沖縄の国際環境運動 国際裁判という手段 ジュゴン訴訟(時間的制約で割愛)	リアクション・ペーパー執筆	
	12	(特) と国際社会：沖縄の国際環境運動 国際環境機関と沖縄 やんばるの世界自然遺産登録(1)	配布補助資料の理解	
	13	(特) と国際社会：沖縄の国際環境運動 国際環境機関と沖縄 やんばるの世界自然遺産登録(2)	配布補助資料の理解	
	14	(特) と国際社会：沖縄の国際環境運動 国際環境機関と沖縄 「自然保護」とは何か	リアクション・ペーパー執筆	
15	(特) 日：レポートの書き方指導	レポート準備		
16	(レポート提出)			
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>週一回のzoomの授業を実施し、講師のGooglesiteに授業資料をアップする。(沖縄のgoogleアカウントからでしかみられません) <a href="https://sites.google.com/okiu.ac.jp/2020ir/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0">https://sites.google.com/okiu.ac.jp/2020ir/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0</a></li> <li>テキストは指定しない。</li> <li>ポータルで随時連絡する。</li> </ul>		
学びの手立て	<p>オリエンテーションでの説明が最終的なシラバスになります。 [履修の心構え] 暗記で知識を詰め込むのではなく、自ら学んだことを一定量の文章に書いていくことを重視します。 [学びの手立て] 現在進行中の問題に触れながら講義を進めていくので、日常でも、積極的に新聞を読んだり、インターネット等で国際的な時事問題を追ってほしいと思います。</p>			
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への参加姿勢(平常点) 授業参加度を評価するリアクションペーパー等の提出 40点 40%</li> <li>レポート 60点 到達目標(1)(2)(3)を評価できるようにする。60% レポート提出のみでは採点対象とならない。リアクションペーパーの提出規定数2/3に達していない場合は不可とする。詳細は授業時に発表する。</li> </ul>			

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会・平和領域の選択科目
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際社会学	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-野入 直美	2年	knori@11.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代社会を人の移動とグローバリゼーションという視覚から、沖縄移民とアイデンティティ、人の移動、国際結婚、「ダブル」の子どもたちの教育、多文化主義とナショナリズムなどのトピックスを中心に学ぶ。	グループワークを行います。話しやすいテーマから始めますので、ディスカッションや発表が苦手な人も気を楽しんで参加してください。

学びの準備	到達目標
	現代社会における人の移動とグローバリゼーションの諸相を理解し、自分自身にひきつけて考察し、フィールドワークによって現場に根ざした新たな知見を獲得し、グループワークを通して議論と発信を行う。市民として、また職業人として、さまざまな文化・言語的背景をもった人びとと「共に生きる」ための資質を育む。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	授業に関連する予習と復習
	2	沖縄というとき、あなたの視野に八重山は入っているか？	授業に関連する予習と復習
	3	「アジアに開かれた沖縄」を離島から考える①八重山の台湾人	授業に関連する予習と復習
	4	「アジアに開かれた沖縄」を離島から考える②宮古・石垣のフィリピン女性	授業に関連する予習と復習
	5	チキンスープの沖縄ソパルペルーのウチナーンチュにみる移民と文化変容	授業に関連する予習と復習
	6	「ウチナーンチュ」って誰のこと？－沖縄移民とアイデンティティ	授業に関連する予習と復習
	7	海外の沖縄系移民子弟が沖縄で学ぶスタディー・ツアーの歴史と現在	授業に関連する予習と復習
	8	フィールドワーク①沖縄NGOセンターで国際交流の現場を学ぶ	授業に関連する予習と復習
	9	フィールドワーク②プラザハウスで米軍統治下の琉米文化を学ぶ	授業に関連する予習と復習
	10	多文化共生と琉米親善	授業に関連する予習と復習
	11	沖縄の内なる多様性－アメラジアン、「ダブル」であることの意味を考える	授業に関連する予習と復習
	12	ファストファッション－消費とグローバリゼーション	授業に関連する予習と復習
	13	フィールドワーク③大型ショッピングモールでファストファッションを調査する	授業に関連する予習と復習
	14	□口頭試問①プレゼンテーション	授業に関連する予習と復習
15	□口頭試問②プレゼンテーション	授業に関連する予習と復習	
16	□口頭試問③プレゼンテーション	授業に関連する予習と復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	参考文献として塩原良和『共に生きる－多民族・多文化社会における対話』（弘文堂、2012年、1200円＋税）を指定する。

学びの実践	学びの手立て
	遅刻3回で欠席1回とみなし、欠席4回で不合格とします。講義の後に少人数のグループで話し合い、発表するグループワークを行います。

学びの実践	評価
	グループワークへの参加と貢献：30点、フィールドワークへの参加とコミットメント20点、口頭試問50点で評価。口頭試問は学んだテーマのうち一つを選び、自分で問いを立てて考察し、発表する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目…「ジェンダー論」「家族社会学」「国際関係論」「都市社会学」など。 次のステージ…身の回りの人々の、様々な文化・言語的背景の違いに目を向け、「共に生きる」ことを考えるようにしてください。



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際平和論	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	一ダグラス トライスタット	2年	https://bee.okiu.ac.jp/mod/page/view.php?id=7062 / ptt1127@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 世界各国の様々な戦争や紛争は米ソの冷戦に密接に結びつけられていると思われていたが、冷戦が終わっても、新しい平和の時代は実現されなかった。かえって、戦争や民族紛争が増える傾向がある。この授業では海外の研究者が様々な観点から見た戦争や民族紛争を分析、主な学説、理論を検討する。	メッセージ レポートにはウィキペディアの引用は認めません。他のオン・オフライン情報源を活用すること。
	到達目標 ひとつの紛争地域に関してマッピング・プロジェクトを完成させること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、テーマを検討, LMSの登録	テーマを検討・設定する
	2	世界の民族紛争-分析のアプローチ、グループテーマの選定	基本概念：ディスカッションの準備
	3	紛争マッピングの概要	基本概念をまとめる
	4	民族紛争の事例	事例の分析、次のテーマを調べる
	5	地理的概要	フォーラムの書き込み
	6	歴史的概要	書き込み、次のテーマを調べる
	7	当事者の特定	書き込み、次のテーマを調べる
	8	当事者の動機・真意・立場・最終目標	書き込み、次のテーマを調べる
	9	原因と結果	書き込み、次のテーマを調べる
	10	ナショナリズムとエスニシティ	書き込み、次のテーマを調べる
	11	思想と信仰	書き込み、次のテーマを調べる
	12	目的と目標	書き込み、次のテーマを調べる
	13	最近の動き	書き込み、次のテーマを調べる
	14	争点と選択肢	書き込み、次のテーマを調べる
15	問題解決の可能性	フォーラムの書き込み	
16	Review	レポートの提出	
	テキスト・参考文献・資料など ・岡本三夫・横山正樹 編、平和学の現在、1999、法律文化社。 ・新聞、雑誌、インターネットから収集した資料。LMSコースページ参照のこと		
	学びの手立て このコースではグループの協働作業によって最大の結果を出すプロセスを学ぶ。それぞれがグループとメンバー貢献する姿勢を養う。		
	評価 レポート - 20% 発表と授業参加度 - 80%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 平和運動史、平和教育学、平和・社会学特殊講義 専門分野の資料・論文を読んで、理解し、発見した問題の分析する力を養成する。
-------	--------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古文書講読Ⅰ	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>文献史料は文書、記録、編纂物や典籍に分類されます。なかでも一次史料である文書と記録は、意味内容とともに形態・様式・機能・伝来など豊富な歴史情報を持っています。よって、文字(くずし字)と文章(候文)が読めなければ、内容や背景の世界に入っていくことができません。本講義のねらいは、くずし字を判読し、候文(和様漢文)を読み下し、文章の主旨をつかむ訓練をすることにあります。</p>	<p>本学図書館郷土資料室には沖縄県内の市町村史が並んでいます。身近な地域の文献資料集をめぐってみてください。そこには各地域に伝わる文書や記録が収録されています。また、県内の博物館の常設展や企画展でも貴重な史料が展示されます。実際に足を運んで現物の迫りに接することをおすすめします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>くずし字を判読・翻刻し、候文(和様漢文)を読み下すことができるようになる。</li> <li>文書や記録(日記)の文章の主旨を理解できるようになる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、くずし字と候文について	到達目標を理解する
	2	「在勤中日記」の解題、文書と記録の違いと関係について	「在勤中日記」の性格を理解する
	3	尚家文書(那覇市歴史博物館蔵)の記録類	那覇市歴史博物館のHPを開いてみる
	4	「在勤中日記」のくずし字の変体仮名に慣れる	テキストの変体仮名を探す
	5	「在勤中日記」の候文を読み下してみる	テキストを音読する
	6	「在勤中日記」の講読①(翻刻と読み下し)	テキストを音読する
	7	「在勤中日記」の講読②(同上)	テキストを音読する
8	「在勤中日記」の講読③(同上)	テキストを音読する	
9	「在勤中日記」の講読④(同上)	テキストを音読する	
10	「在勤中日記」の講読⑤(同上)	テキストを音読する	
11	「在勤中日記」の講読⑥(同上)	テキストを音読する	
12	「在勤中日記」の講読⑦(同上)	テキストを音読する	
13	「在勤中日記」の講読⑧(同上)	テキストを音読する	
14	「在勤中日記」の講読⑨(同上)	テキストを音読する	
15	期末課題直前対策問題	到達目標を確認する	
16	期末課題の提出	テキストを音読する	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】講読するテキストは、尚家文書343号「在勤中日記」(那覇市歴史博物館蔵)です。1871年、首里王府が鹿児島に派遣した番親方である池城親方の公務日記です。鹿児島での活動の様子を詳しく知ることができます。二回目の講義でコピーを配布します。教科書は使用しません。</p> <p>【参考文献】林英夫・若尾俊平編『増訂 近世古文書解説辞典』(柏書房、1972年)</p>		
	<p>学びの手立て</p> <p>くずし字と候文をはじめからスラスラ読める人はいません。外国語と同じです。慣れ親しむためには、声を出して量を読むことが大切です。少しずつ読めるようになると自信がつかますよ。あきらめないでください。</p>		
	<p>評価</p> <p>テキストの講読に取り組む姿勢(30%)と期末課題の結果(70%)によって総合的に評価します。特に前者では、くずし字と候文を読めるようになりたいという意欲や態度を重視します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「古文書講読Ⅱ」「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」の受講を希望します。</p>
-------	---------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古文書講読Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日 2限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>文献史料は文書、記録、編纂物や典籍に分類されます。なかでも一次史料である文書と記録は、意味内容とともに形態・様式・機能・伝来など豊富な歴史情報を持っています。よって、文字（くずし字）と文章（候文）が読めなければ、内容や背景の世界に入っていきません。本講義のねらいは、くずし字を判読し、候文（和様漢文）を読み下し、文章の主旨をつかむ訓練を積むところにあります。</p>	<p>本学図書館郷土資料室には沖縄県内の市町村史が並んでいます。身近な市町村の文献資料集をめぐってみましょう。そこには各地域に伝わる文書や記録が収録されています。また、県内の博物館の常設展や企画展でも貴重な史料が展示されます。実際に足を運んで現物の迫りに接することをおすすめします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くずし字を判読し、候文（和様漢文）を読み下すことができるようになる。</li> <li>・文書や記録（日記）の文章の主旨を理解できるようになる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) イントロダクション、授業計画の確認など	到達目標を理解する
	2	(対) 「在勤中日記」の解題、担当箇所割り当て	テキストの構成を理解する
	3	(特) 「在勤中日記」を読んでみましょうーくずし字と候文に慣れるー	変体仮名と助動詞を把握する
	4	(対) 「在勤中日記」の講読①（担当者による翻刻と読み下し）	テキストを音読する
	5	(特) 「在勤中日記」の講読②（全員で翻刻と読み下し）	テキストを音読する
	6	(対) 「在勤中日記」の講読③（担当者による翻刻と読み下し）	テキストを音読する
	7	(特) 「在勤中日記」の講読④（②と同様）	テキストを音読する
	8	(対) 「在勤中日記」の講読⑤（担当者による翻刻と読み下し）	テキストを音読する
	9	(特) 「在勤中日記」の講読⑥（②と同様）	テキストを音読する
	10	(対) 「在勤中日記」の講読⑦（担当者による翻刻と読み下し）	テキストを音読する
	11	(特) 「在勤中日記」の講読⑧（②と同様）	テキストを音読する
	12	(対) 「在勤中日記」の講読⑨（担当者による翻刻と読み下し）	テキストを音読する
	13	(特) 「在勤中日記」の講読⑩（②と同様）	テキストを音読する
14	(対) 「在勤中日記」の講読⑪（担当者による翻刻と読み下し）	テキストを音読する	
15	(特) まとめ、期末試験直前対策問題	到達目標を確認する	
16	(対) 期末試験	正答を音読する	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】前期の「古文書講読Ⅰ」に引き続き、尚家文書343号「在勤中日記」（那覇市歴史博物館蔵）を講読します。1871年、首里王府が鹿児島に派遣した在番親方である池城親方の公務日記です。鹿児島での活動の様子を具体的に知ることができます。2回目の講義でコピーを配布します。教科書は使用しません。</p> <p>【参考文献】林英夫・若尾俊平編『増訂 近世古文書解説辞典』（柏書房、1972年）</p>		
学びの手立て	<p>史料は声を出して量を読むことで身体になじんできます。その日読んだテキストの箇所を繰り返し音読することをおすすめします。</p>		
評価	<p>テキストの講読に取り組む姿勢（30%）と期末試験の結果（70%）によって総合的に評価します。特に前者では、担当箇所だけでなく、くずし字と候文を読めるようになりたいという意欲や態度を重視します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「古文書講読Ⅰ」「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」の受講を希望します。</p>
-------	---------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学概論	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代	1年	kayo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、社会学の基本的考え方、ものの見方を学習することからスタートし、現代社会を分析的に読み解く社会的想像力と歴史的想像力を習得、他者の発見・理解を通して、社会の仕組みを解明することをめざします。個人的なことがらを社会全体との関わりの中で捉え、人間社会の様々な問題群とその現代的課題を考えます。	社会学は「人間」と「社会」との関係を様々な角度から検証する学問です。近代社会の様々な問題群とその現代的課題を、実証的・学術的に探究していきましょう。

到達目標
①社会学の基本的な概念を理解する。 ②現代社会を批判的(分析的)に読み解くための社会学の思考枠組み(ものの見方)を習得する。 ③他者の発見・理解を通じて社会の仕組み(構造)を捉える。 ④「あたりまえ」を相対化し、その歴史的・社会的構築性を理解する。 ⑤個人的なことがらと社会的なことがらとの関係を捉える。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会学とはなにか：これから学ぶこと	授業の復習
	2	生活の理解：生活のとらえ方	授業の復習
	3	生活の理解：地域	授業の復習
	4	生活の理解：家族	授業の復習
	5	人と社会の関係：社会的役割	授業の復習
	6	人と社会の関係：社会的行為	授業の復習
	7	人と社会の関係：社会関係資本と社会的連帯(1) 社会的紐帯と近代化	授業の復習
	8	人と社会の関係：社会関係資本と社会的連帯(2) 社会関係資本とは	授業の復習
	9	社会問題の理解：社会問題のとらえ方	授業の復習
	10	社会問題の理解：日本社会と社会問題(1) 貧困、非行	授業の復習
	11	社会問題の理解：日本社会と社会問題(2) ひきこもり、DV	授業の復習
	12	社会問題の理解：共生社会と権利	授業の復習
	13	現代社会の理解：社会のグローバル化と社会問題	授業の復習
	14	現代社会の理解：社会変動(1) 近代化	授業の復習
15	現代社会の理解：社会変動(2) グローバル化、期末レポート提出	授業の復習	
16	期末レポートの返却・講評	レポート作成	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜配布する
-------	--------------------------------

学びの手立て	期末レポートも授業で扱ったテーマに沿って論文作成を行うので、きちんとノートを取っておくこと。高校社会科の復習をしておくと、理解が深まりやすい。
--------	-------------------------------------------------------------------------

評価	期末レポートのほか、コメントカードや授業への参加も加味して評価を行う。(期末レポートの提出がなされない場合は不可)
----	-----------------------------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会学演習」などの理論を活用する科目が関連科目である。 本講義で身につけた知識や考察は、大学全体のポリシーに掲げられた「高度化かつ多様化する国際社会」を生きる上での基礎となるので、ぜひ自らの社会生活を捉えなおす契機としてほしい。
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学理論	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	秋山 道宏	2年	講義終了後の教室およびオフィスアワー	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>私たちは、常識という色眼鏡を通して物事を見つめ、日々の生活を送っている。しかし、現実の物事はみかけどおりではなく、聞こえのいい常識の背後で相互を排除し、暴力をふるうことで社会が成立しているとしたらどうだろう。本講義は、「働くこと」「アイデンティティ」や「愛」などの身近な事柄を入口に、社会的な考え方を修得することで、この色眼鏡を批判的に捉え直す。</p>	<p>日々の生活で生じる小さな疑問や違和感をそのままにせず、みずからの頭で考えることの大変さと面白さを講義を通して感じてほしい。</p>
到達目標	<p>社会学理論の受講を通して、以下の二つを学習成果として得ることができる。</p> <p>①私たちが織りなす社会のあり方についての認識を深めることで、身近な社会関係（家族、男女、地域など）がどのように成り立っているのかを理解できる。</p> <p>②①を通して、相互を排除したり傷つけるような関係性（社会構造）を批判的に捉え直し、受講前とは異なる社会への関わり方を考え、実践することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス。社会学理論では何を扱うか？	シラバスを読んでおくこと。
	2	イントロダクション：社会をみること。社会学の理論とはどのようなものか。	事前課題に取り組むこと。
	3	わたし（個人）を問う①「働くこと」を社会的に捉える。	講義の復習。
	4	わたし（個人）を問う②「自分らしさ」とはなにか（アイデンティティ）。	講義の復習。
	5	わたし（個人）を問う③「われわれ」とはだれか（ナショナリズム、記憶）。	講義の復習。
	6	わたし（個人）を問う④「愛する」とはなにか（家族、性愛、ジェンダー）。	講義の復習。
	7	沖縄を社会学理論で捉える（1）沖縄戦の記憶について考える。	講義の復習。関連する課題を提示。
	8	社会（秩序）を問う①近代とはどのような時代か。	講義の復習。
	9	社会（秩序）を問う②身体と規律権力（監獄、学校、病院、軍隊）。	講義の復習。
	10	社会（秩序）を問う③階級・階層の再生産（教育、労働、貧困）。	講義の復習。
	11	社会（秩序）を問う④オリエンタリズム、ポストコロニアルという視点。	講義の復習。
	12	沖縄を社会学理論で捉える（2）ポストコロニアルとしての沖縄。	講義の復習。関連する課題を提示。
	13	社会学の古典・原典に触れる①近代社会への問い（マルクス、ウェーバー）。	講義の復習。
	14	社会学の古典・原典に触れる②社会学と社会の構造的な理解（デュルケム、ブルデュー）。	講義の復習。
15	授業全体のまとめ。	講義全体の復習。	
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストは指定しない。講義の必要に応じて資料を配布する。</p> <p>講義の理解度を高めるための参考文献として、次の三つを挙げておく。</p> <p>①アンソニー・ギデンズ『社会学（第5版）』（而立書房、2009年）</p> <p>②豊泉周治ほか『＜私＞をひらく社会学：若者のための社会学入門』（大月書店、2014年）</p> <p>③長谷川公一ほか『社会学 Sociology:Modernity,Self and Reflexivity』（有斐閣、2007年）</p>
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や関連課題を提示する回があるので、しっかりと準備して臨むこと。</li> <li>・講義もコミュニケーションの一つである。周囲の受講生や教員との信頼関係で成り立ち、その中で、より良い学習ができることを意識してほしい。受講中の私語や携帯電話・スマートフォンの使用など、講義の進行や周囲への迷惑となる行為は禁止する。</li> </ul> <p>学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活において疑問をもったことを大切にし、言葉にしたり考える時間をつくること。</li> </ul>
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価	<p>授業への参加態度・課題研究（40%）、中間レポート（20%）、学期末レポート（40%）。</p>
----	-----------------------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会・平和領域の専門応用科目。</p>
-------	-------------------------------------------

※ポリシーとの関連性

①専門分野における学問体系の基本を理解するための「基礎科目」です。②社会調査士資格認定「A科目」です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査法 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-玉城 福子	2年	授業後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 社会調査とは、「社会はどうなっているのか」という問いに答えるための一つの方法です。社会調査には、データを収集する段階、データを使って社会について考える段階、その結果を公表する段階と一連のプロセスがあります。本講義では、社会調査の意義と諸類型に関する基本的な事項を学んでいきます。	メッセージ 大学とは、自分自身で問題を発見し探求する場です。社会調査法を学ぶことは、論文を読む力を鍛え、自分で研究を行う際の基礎力をつけることに繋がります。最初は難しいと感じるかもしれませんが、一緒に頑張りましょう！
	到達目標 (1) 社会調査の意義と諸類型、調査倫理について理解する。 (2) 既存資料へアクセスし、情報を収集することができる。 (3) 量的調査と質的調査の違いを説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	なし
	2	社会調査の歴史（社会調査のルーツと発展）	授業後にテキストを読むこと
	3	調査倫理（個人情報の取り扱い、社会調査倫理綱領）	授業後にテキストを読むこと
	4	既存資料へのアクセス方法①（図書館とインターネットの活用）	授業後にテキストを読むこと
	5	既存資料へのアクセス方法②（既存の統計データの活用）	授業後にテキストを読むこと
	6	社会調査の基本ルールと道具①（記述と説明、問いの立て方）	授業後にテキストを読むこと
	7	社会調査の基本ルールと道具②（概念、操作的定義、変数、仮説）	授業後にテキストを読むこと
	8	前半ふりかえりと中間テスト	事前に復習してくること
	9	量的調査の基礎①（種類と特徴）	授業後にテキストを読むこと
	10	量的調査の基礎②（調査票、サンプリング）	授業後にテキストを読むこと
	11	量的調査の基礎③（調査プロセス）	授業後にテキストを読むこと
	12	質的調査の基礎①（種類と特徴）	授業後にテキストを読むこと
	13	質的調査の基礎②（聞き取り調査、フィールドワーク）	授業後にテキストを読むこと
	14	質的調査の基礎③（ドキュメント分析）	授業後にテキストを読むこと
15	まとめ	事前に復習してくること	
16	期末テスト	事前に復習してくること	
実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 大谷信介ほか編、2013『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』ミネルヴァ書房。 【参考資料】 宮本常一・安溪遊地、2008『調査されるという迷惑—フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版。 盛山和夫、2004『社会調査法入門』有斐閣。 ※その他、テーマに合わせて授業中に参考文献を提示、あるいは資料を配布します。		
	学びの手立て ①テキストや配布資料を読む等、しっかりと復習を行ってください。 ②理解の促進のための短いグループディスカッションやワークを取り入れますので、受講生の積極的な参加を期待します。 ③リアクションペーパーは公表不可としない限り、次回の講義のはじめの振り返りの時間に匿名で紹介することがあります。質問が含まれていた場合もこの時間に回答します。		
	評価 平常点、中間テスト、学期末テスト ※平常点はリアクションペーパーと授業態度です。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、演習Ⅰ・実習
-------	--------------------------------------------

※ポリシーとの関連性 「地域理解能力と社会的コミュニケーション能力にたけた、問題解決型の人物の養成」に関わる技能を習得することを目指す。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査法 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代	2年	kayo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、社会調査の基礎について学び、さらに後半では量的調査の方法を学ぶ。この講義を通して、社会人として暮らす上で頻繁に触れることになる社会調査によるデータの読み方を身につけ、さらに地域問題の効果的な解決のために不可欠となる社会調査を自ら実施する能力を身につけることがねらいである。	メッセージ 社会調査の基礎を学習する。本講義は社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心に、調査研究の企画設計、変数と仮説構成などプロトコルの作成から調査実施まで総合的に講義する。
	到達目標 ①社会調査によるデータを読んで、社会的な事象についての考察に活かせるようになること。 ②自らの関心を量的調査によって明らかにする手法を身につけること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会調査とは？—その意義、目的—	授業の復習
	2	社会調査の歴史	授業の復習
	3	社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報の取り扱い—	授業の復習
	4	事前の情報収集の方法	授業の復習
	5	研究テーマの設定法～社会調査の基本的な道具～	授業の復習
	6	調査の企画、設計	授業の復習
	7	概念、変数、仮説の活用	授業の復習
	8	量的調査—調査票作成の事前準備	授業の復習
9	質問文作成の基本ルール	授業の復習	
10	選択肢作成の基本ルール	授業の復習	
11	調査に関する様々な誤差 1 標本誤差	授業の復習	
12	調査に関する様々な誤差 2 その他の誤差	授業の復習	
13	サンプリングの考え方	授業の復習	
14	サンプリングの実際	授業の復習	
15	本講義のまとめ	授業の復習	
16	試験	授業の総合的な復習	
	テキスト・参考文献・資料など 大谷信介、他著『新・社会調査へのアプローチ』2013年、ミネルヴァ書房		
	学びの手立て 新聞・雑誌など身の回りに表れるd統計データの扱われ方をよく見ること。		
	評価 レポート、試験、受講態度、出席状況などを総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は「社会調査法Ⅱ」である。次のステージとして、本講義で学ぶ量的調査に加え、数字では表せない深いデータを得る質的調査の方法にも関心を持ってほしい。
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------

※ポリシーとの関連性

①専門領域における調査・研究能力の基礎を構築するための「基礎科目」です。②社会調査士資格認定「B科目」です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査法Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-玉城 福子	2年	授業後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会調査とは、「社会はどうなっているのか」に答えるための一つの方法です。社会調査には、データを収集する段階、データを使って社会について考える段階、その結果を公表する段階と一連のプロセスがあります。本講義では、資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を学んでいきます。</p>	<p>大学とは、自分自身で問題を発見し探求する場です。社会調査法を学ぶことは、論文を読む力を鍛え、自分で研究を行う際の基礎力をつけることに繋がります。実践的な力を身につけるために、一緒に頑張りましょう！</p>
到達目標	<p>(1) 社会調査によって資料やデータを集取し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を理解する。                  (2) 量的調査のデータ収集から分析しうる形までの基本的な流れを説明できるようになる。                  (3) 質的調査のデータ収集から分析しうる形までの基本的な流れを説明できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	なし
	2	調査目的の明確化（問題意識と調査テーマの具体化）	授業前にテキストを読むこと
	3	調査企画と設計（調査の種類と特徴）	授業前にテキストを読むこと
	4	仮説（仮説の構築、命題と仮説、操作化、反証可能性）	授業前にテキストを読むこと
	5	調査方法の検討（全数調査と標本調査、統計的確率、標本サイズと誤差）	授業前にテキストを読むこと
	6	サンプリングの方法（層化抽出法・多段抽出法）	授業前にテキストを読むこと
	7	質問文、質問票の作成①（作り方、具体例と注意点）	授業前にテキストを読むこと
	8	質問文、質問票の作成②（作り方、具体例と注意点）	授業前にテキストを読むこと
	9	量的調査の実施（調査票の配布および回収法等）	授業前にテキストを読むこと
	10	質的調査の実施（調査対象者へのアプローチ）	授業前にテキストを読むこと
	11	データの整理・集計①（コーディング、エディティング）	授業前にテキストを読むこと
	12	データの整理・集計②（データクリーニング、単純集計とクロス集計）	授業前にテキストを読むこと
	13	データの整理・集計③（誤差、検定、相関、みかけの相関）	授業前にテキストを読むこと
14	調査・分析の公表（報告書作成）	授業前にテキストを読むこと	
15	まとめ	事前に復習してくる	
16	期末テスト	事前に復習してくる	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 大谷信介ほか編、2013『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』ミネルヴァ書房。                  【参考資料】 川端亮、2010『データアーカイブSRDQで学ぶ社会調査の計量分析』ミネルヴァ書房。                  盛山和夫、2004『社会調査法入門』有斐閣。                  ※その他、テーマに合わせて授業中に参考文献を提示、あるいは資料を配布します。</p>		
学びの手立て	<p>①テキストの当該箇所を読む等、しっかりと復習を行ってください。                  ②基本的なパソコン操作（インターネット検索、エクセル等）ができることが望ましいです。                  ③理解の促進のための短いグループディスカッションやワークを取り入れますので、受講生の積極的な参加を期待します。                  ④リアクションペーパーは公表不可としない限り、次回の講義のはじめの振り返りの時間に匿名で紹介することがあります。質問が含まれていた場合もこの時間に回答します。</p>		
評価	<p>平常点、レポート                  ※平常点はリアクションペーパーと授業態度です。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「社会調査法Ⅰ」（関連科目）を履修済みであることが望ましい。次のステージとして、社会統計学Ⅰ・社会統計学Ⅱ・演習Ⅰ・実習。</p>
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査法Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代	2年	kayo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、社会調査の基礎について学び、さらに後半では質的調査の方法を学ぶ。この講義を通して、社会人として暮らす上で頻繁に触れることになる社会調査によるデータの読み方を身につけ、さらに地域問題の効果的な解決のために不可欠となる社会調査を自ら実施する能力を身につけることがねらいである。	メッセージ 社会調査の基礎を学ぶ。「社会調査法Ⅰ」では量的調査を中心に内容を展開したが、本講義では質的調査（とりわけ参与観察法、インタビュー法、ドキュメント分析など）に力点をおいて講義を行う。
	到達目標 ①質的調査によるデータを読んで、社会的な事象についての考察に活かせるようになること。 ②自らの関心を質的調査によって明らかにする手法を身につけること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業の復習
	2	質的調査の考え方	授業の復習
	3	質的調査の種類	授業の復習
	4	質的調査の諸注意	授業の復習
	5	ドキュメント分析	授業の復習
	6	ドキュメント分析の実際	授業の復習
	7	参与観察法	授業の復習
	8	参与観察法の実際	授業の復習
	9	面接とインタビューの技法	授業の復習
	10	インタビュー法の実際	授業の復習
	11	調査実施の際の諸注意	授業の復習
	12	相互インタビュー体験	課題の実施
	13	インタビューの内容をまとめる～スクリプト作成	課題の実施
	14	インタビューの分析レポート	課題の実施
15	本講義のまとめと課題提出	授業の総合的復習	
16	試験	授業の総合的復習	
	テキスト・参考文献・資料など 大谷信介、他著『新・社会調査へのアプローチ』2013年、ミネルヴァ書房		
	学びの手立て 新聞・雑誌など、身の回りで見られる質的調査データに注目する。		
	評価 レポート、試験、受講態度、出席状況などを総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会調査法Ⅰ」「社会調査法Ⅱ」で学んだ知識をもって、「実習（総社）」に積極的に挑戦してほしい。
-------	-----------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会統計学 I	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細川 妃奈子	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、統計的データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識について学び、統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し正確な情報を作る力、など統計を活用する力）を身につけることを目指します。	統計は、私たちが生活している社会の有り様を示す、重要な情報の一つです。しかし、社会には、信頼のおけるものから不確かなものまで、様々な統計・数字があふれています。講義では、事例をできるだけ多く紹介して統計的な考え方のイメージや基礎的な考え方を学ぶとともに、パソコンを使用して実際に統計を作成・分析する作業を通じ、理解を深めて行きます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. PCを利用して、簡易な統計データを作成することができる。</li> <li>2. 統計データを加工して、簡易な分析ができる。</li> <li>3. 統計データの分析を通じて、社会現象について考察できる。</li> <li>4. インターネット・図書館等を利用して、目的に応じた統計データを収集することができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
	2	「統計」とは何か？（ものごとを数字で測るとは？ 統計学的な考え方）	①+②講義使用データの復習
	3	「測る」とはどういうことか？（尺度と変数、度数分布とグラフ）	①+②講義使用データの復習
	4	データの特徴をどう表すか？～基本統計量1（代表値とは何か）	①+②講義使用データの復習
	5	データの特徴をどう表すか？～基本統計量2（散布度とは何か）	①+②講義使用データの復習
	6	データの特徴をどう表すか？～基本統計量3（尖度・歪度、正規分布・標準偏差）	①+②講義使用データの復習
	7	データからどこまで確かなことがいえるか？1（検定・推定の考え方、抽出法の理論）	①+②講義使用データの復習
	8	収集したデータ間に関連性はあるか？ ～量的変数1～（相関係数）	①+②講義使用データの復習
	9	収集したデータから予測はできるか？ ～量的変数2～（回帰分析の基礎1）	①+②講義使用データの復習
	10	収集したデータによる予測をどう読み取るか？～量的変数3～（回帰分析の基礎2）	①+②講義使用データの復習
	11	みせかけの関連性を見抜くにはどうするか？～量的変数4～（変数のコントロール、偏相関係数）	①+②講義使用データの復習
	12	収集したデータ間に関連性はあるか？～質的変数1～（独立性の検定）	①+②講義使用データの復習
	13	データの関連性をどうやって示すか？～質的変数2～	①+②講義使用データの復習
14	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数3～（エラボレーション）	①+②講義使用データの復習	
15	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数4～（エラボレーション2）	①+②講義使用データの復習	
16	講義の振り返り・まとめ（レポート提出）	①+②講義使用データの復習	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 下記のテキストを使用する受講者は各自入手すること。ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する 廣瀬毅士・寺島拓幸編著『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010年		
学びの手立て	①「履修の心構え」 原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。 ②学びを深めるために 本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。		
評価	平常点：70%、期末課題：30% 平常点：毎講義で、課題を配布するので、その課題を加工して提出してください（課題の取り組み方、授業態度等）。 期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会統計学Ⅱ」 社会統計学Ⅰを受講後、より多様な数量データ分析の初歩を学んでほしい。また、社会調査士指定科目等における質的調査・データに関する学習が調査におけるデータの取り扱いについて理解をより深める。
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会統計学Ⅱ	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細川 妃奈子	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、「社会統計学Ⅰ」の内容を踏まえ、社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基礎的な考え方と方法を学びます。講義ではPCで実際にデータを加工します。到達目標として、基礎的統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し生活な情報を作る力など統計を活用する力）を高めること目指します。	社会で起きている現象の多くは、一つの要因で起こることよりも、複数の要因が関係によることもあります。逆に、一つの要因が複数の現象を生み出すこともあります。社会統計学における多変量解析は、社会現象に関わる様々な要因の関係を数学で表そうとするものです。講義では、事例をできるだけ多く紹介し、多変量解析のイメージや基礎的な考え方をお話したいと思います。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多変量解析に関する基本的な知識・技術が身についている</li> <li>2. 多変量解析の学習を通じて、社会現象が多様な要素から成り立っていることを想像できる</li> <li>3. 統計解析など、数量データを活用するメリットを学ぶとともに、そのデメリットと等も学び、多面的に社会現象を理解・想像できる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
	2	「多変量解析」を学ぶ前に（社会統計学Ⅰの復習）	①+②講義使用データの復習
	3	「多変量解析」とは何か？（多変量解析の種類と用途、その方法の概要）	①+②講義使用データの復習
	4	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」1	①+②講義使用データの復習
	5	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」2	①+②講義使用データの復習
	6	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」3	①+②講義使用データの復習
	7	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」4	①+②講義使用データの復習
	8	複数の変数を合成する「主成分分析」1	①+②講義使用データの復習
	9	複数の変数を合成する「主成分分析」2	①+②講義使用データの復習
	10	複数の変数を合成する「主成分分析」3	①+②講義使用データの復習
	11	複数の変数を合成する「主成分分析」4	①+②講義使用データの復習
	12	データの背後を分析する「因子分析」1	①+②講義使用データの復習
	13	データの背後を分析する「因子分析」2	①+②講義使用データの復習
	14	データの背後を分析する「因子分析」3	①+②講義使用データの復習
15	データの背後を分析する「因子分析」4	①+②講義使用データの復習	
16	講義のふりかえり・まとめ（レポート提出）	①+②講義使用データの復習	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>下記のテキストを使用する。受講者は各自入手すること。また、社会統計学Ⅰのテキストを随時参考資料として使用する。</p> <p>ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する。</p> <p>○主テキスト                  浦井良幸、浦井貞美『多変量解析がわかる』技術評論社 2011</p>
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの手立て	<p>①「履修の心構え」                  原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。</p> <p>②学びを深めるために                  本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。</p>
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価	<p>平常点：70%、期末課題：30%</p> <p>平常点：毎講義で、課題を配布するので、その課題を加工して提出してください（課題の取り組み方、授業態度等）。</p> <p>期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。</p>
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目                  「社会統計学Ⅰ」 社会統計学Ⅱは、社会統計学Ⅰで学習した内容を踏まえて行うため、前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ）を連続して受講することが望ましい。                  ただし、社会統計学Ⅱを先に受講することを妨げない。</p>
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名 ジェンダー論	期別 後期	曜日・時限 月 4	単位 2
	担当者 崎濱 佳代	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 〈性別〉によって分割された社会——〈女である/男である〉ことはどのような社会的意味をもち、日本や世界で〈女性〉はどのような社会状況を生きているのでしょうか。皆さんが暮らす社会の〈性別〉をめぐる「あたりまえ」を問い直し、教育、労働、家族、人口、国家・国際社会、移動・グローバル化など、ジェンダーの視点から	メッセージ 女だから／男だから?——家族や教育、市場や国家など社会のあらゆる領域で、人間は性別によって振分けられ、意味づけられているようです。学校・部活動、バイト・就活、恋愛・結婚、出産や育児・介護、遊びや流行の音楽・ドラマなど身近な経験にふれながら、ジェンダー化された社会の仕組みと課題を考えていきましょう。
	到達目標 ①ジェンダーという概念とその分析概念としての深化のあり方を理解する。 ②ジェンダー研究の基礎的な思考枠組みを知る。 ③身近な自分の経験を、講義で学んだことと関連付けて、ジェンダーの視点から考察する。 ④現代社会の様々な問題群と課題について、ジェンダーの視点から分析する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業時に指示する
	2	ジェンダーとは何か——性別の構築性と多様性	授業時に指示する
	3	教育とジェンダー①子どもの社会化	授業時に指示する
	4	教育とジェンダー②学校教育と性差別	授業時に指示する
	5	労働とジェンダー①雇用のジェンダー構造	授業時に指示する
	6	労働とジェンダー②無償労働とケアワーク	授業時に指示する
	7	労働とジェンダー③有償／無償労働とジェンダー平等	授業時に指示する
	8	家族とジェンダー①近代家族と多様化する家族	授業時に指示する
9	家族とジェンダー②少子高齢社会とジェンダー平等政策	授業時に指示する	
10	家族とジェンダー③福祉レジームと生活保障システム	授業時に指示する	
11	家族とジェンダー④世界の人口問題とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ	授業時に指示する	
12	国際社会・国家とジェンダー	授業時に指示する	
13	移動・グローバル化とジェンダー①労働力の女性化と新国際分業	授業時に指示する	
14	移動・グローバル化とジェンダー②ポスト新国際分業と家族のグローバル化	授業時に指示する	
15	全体のまとめ——フェミニズムとジェンダー	授業時に指示する	
16	学期末テスト	授業時に指示する	
	テキスト・参考文献・資料など		
	【参考文献】毎回の講義でテーマに応じた参考文献を紹介します。全体を通じた参考文献は以下のとおりです。 ・伊藤公雄・牟田和恵編, 2015『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社。 ・千田有紀・中西裕子・青山薫, 2013『ジェンダー論をつかむ』有斐閣。 【資料】毎回の授業で必要に応じて配布します。		
	学びの手立て		
	①本講義は、受講生による「主体的学び」を重視する科目です。各回の講義終了後、配布資料と参考文献を読み、理解を深めてください。 ②本講義は、基本的に担当教員による講義形式で授業を進めますが、学生への問いかけを随所に取り入れ、双方向的な授業展開を目指します。受講生数に応じて、随所でグループワーク等も盛り込む予定です。 ③授業終了時に、講義内容に関して学んだこと・考えたことをコメントシートに記入してもらいます。重要な考察・問いかけについては、次回の講義開始時に受講生全員に紹介し共有します。		
	評価		
	平常点(30%)、中間テスト(30%)、学期末テスト(あるいは学期末レポート)(40%)の結果にもとづいて総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (関連科目) 社会学理論、国際社会学、都市社会学、南島社会学、家族社会学、マスコミ論、アジア社会論
-------	------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本実習では、社会調査の基礎を習得したうえで、フィールドワークを中心に、質的調査と量的調査を必要に応じて組合せ、調査企画から報告書作成に至る社会調査の一連のプロセスを実践的に学んでいきます。	多様な他者への想像力を持ち、沖縄で「現場」に学ぶ——この授業のキーワードです。社会調査の方法を実践的に学びながら、人間と社会との関係を多角的にとらえる「複眼的な知性」を育みましょう。

到達目標	①社会調査の基礎とルールをふまえ、調査の企画・設計から報告書の作成に至る社会調査の全過程を実践することができる。 ②「演習Ⅰ」で共有した研究テーマを社会調査に基づいて実証的・論理的に探究することができる。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><b>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</b></p> <p>今年度のテーマは、「多文化社会と沖縄の社会学」です。</p> <p>本授業では、社会調査の基礎を習得したうえで、フィールドワークを中心に、質的調査と量的調査を相互補完的に組合せ、調査の企画・設計から報告書作成に至る社会調査の一連のプロセスを実践的に学んでいきます。</p> <p>本授業のキーワード——多様な他者への想像力を持ち、沖縄で「現場」に学ぶ——を共有し、沖縄をフィールドに、広く「多文化社会と沖縄」にかかわる社会のさまざまな問題群について、社会調査にもとづいて、その現代的課題を検討します。自らの関心にもとづいて研究課題を設定し、その課題についてジェンダー・エスニシティ・社会階層といった観点から、実証的に分析し、構造的な理解と論理的に伝える力をつちかいます。</p> <p>調査の実施に先立ち、「演習Ⅰ」の授業と連動して、「多文化社会と沖縄」に関する社会的なイシュー・概念・考え方をおさえ、テーマに関する先行研究を整理し基礎的知識を身に付けます。その後、社会調査に関する文献輪読を行い、受講生の関心を整理しつつ、サブ・テーマの設定とグループ分け、グループによる調査の企画・設計、問題の構造化（仮説・調査項目の設定）、対象者・訪問先の選定、インタビューガイドや調査票の作成、実査、収集データの集計・分析、報告書の作成まで、社会調査の一連のプロセスを実践します。</p> <p>実査は2020年8月～9月を中心に、必要に応じて年度内に実施します。</p> <p>テーマに応じて、沖縄県内の各種機関（NPO団体、教育機関、博物館・資料館、映画館、イベントなど）を訪問します。</p>
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>授業時に適宜紹介します。</p>
-------	-------------------------------------------

学びの手立て	<p>①実習の研究テーマは、学生と担当教員で相談し最終決定します。</p> <p>②研究テーマに関する知識・情報を増やし理解・思考を深めるために、文献調査や読解、事前調査を授業に合わせて主体的に行ってください。</p> <p>③実習はグループワークを軸とします。受講生は、調査の企画・設計から実査、報告書作成までの社会調査の全過程に主体的・協力的に取り組むこと。他のゼミ生との共同作業であることを自覚し、協同性を磨きましょう。</p> <p>④調査地域や対象者に不快感を与えないよう、調査倫理に則った節度ある行動をとるよう留意してください。</p>
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価	調査の企画設計、調査票の作成、実査、中間報告、調査報告書の作成までの取組み（50%）、調査報告書の内容（50%）で総合的に評価します。
----	---------------------------------------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本実習は、社会文化学科・専門必修科目「演習Ⅰ」との連動科目です。</p>
-------	------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静・宮城 弘樹	3年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	<p>実際に遺跡を発掘する。そのことにより調査の方法を学ぶ。遺跡の調査は一種の破壊行為である。そのことを十分に認識して、調査には周到な計画と細心の注意が必要なことを理解してもらう。そうすることにより、報告書の意義を認識してもらう。</p> <p>時間外には参考文献、配布資料を精読してもらう。</p> <p>到達目標</p> <p>考古学の調査の方法を身につける。 調査が一方では遺跡破壊をしていることを認識する。</p>	<p>専門の考古学研究に不可欠な発掘調査に関する考え方や知識、技法を学ぶための科目です。本実習で、実際の遺跡でしか体験できない、調査方法と整理方法（報告書作成）をしっかりと学んでほしいと思います。</p>		
学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>実習は夏期休暇の前半、2週間実施する。調査地は合宿受け入れ側との調整もあり、凡そ3年周期で遺跡地の変更を行っている。</p> <p>実習内容の内容は、測量、発掘、実測、写真撮影、日誌等の記録、発表報告（ミーティング）等の一連の発掘調査に取り組み、技術を習得する。</p> <p>発掘実習期間で行う作業</p> <p>1日目 遺跡周辺の踏査、発掘予定地の清掃、グリット設定。 発掘道具、器具類の搬入、宿泊施設での諸準備等。</p> <p>2日目 堆積層の検出と確認。並行して地形測量を開始する。</p> <p>3日～10日目 堆積層を掘り下げる。</p> <p>10日目 堆積層の完掘。遺構の実測、埋め戻開始。</p> <p>14日目 宿舎の掃除、発掘道具、器具類の片づけ等、本学へ引き上。</p>			
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>文化庁記念物課『発掘調査の手引き』同成社 2010年          声舎藤本 強『考古学を学ぶ』雄山閣出版 1966年          高宮廣衛『先史古代の沖縄』第一書房 1991年          佐々木憲一他『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ 2011年</p>			
	<p>学びの手立て</p> <p>琉球列島における先史文化、社会の形成過程を深く知る。 調査が一方では遺跡破壊をしていることを認識する。</p>			
	<p>評価</p> <p>① 課題のレポート、試験を行う（90%）。 ② 平常点（遅刻、出席状況、受講姿勢等）（10%）。</p>			
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>遺跡は時代、立地など同じものはない。実に多様である。そのため調査の経験を積むため、積極的に大学以外の調査にも参加すること。</p>			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この実習は、藤波担当の演習Ⅰの受講生を対象としており、歴史研究に不可欠な史料の収集、読解、翻刻などの技能を修得することを目的としている。具体的には、戦後沖縄における学校教育の復興をテーマとし、宜野湾をフィールドとして、当該事象に関する公文書類を収集するとともに、関係者への聞き取りとあわせて、報告書を作成する予定である。	夏季休業期間に史料収集と史料読解の2度に分けて、場合によっては合宿形式で作業を行う予定である。また、受講生をチームに分けて作業を進めていくので、他者との協調と自己責任をともに果たすことが求められる。加えて、後期にはゼミ以外の時間を利用して、翻刻作業を進める予定である。

学びの準備	到達目標
	(1) 史料所蔵機関において、適切な史料を収集することができる。 (2) 収集した史料を整理・分類し、適切に保存することができる。 (3) 史料を正しく読解することができる。 (4) 読解した史料を正確に翻刻することができる。 (5) 他者と協力しながら作業を進めることができる。

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>(1) 調査の準備 ① 調査班の構成 ② 調査史料のリスト化 ③ 史料所蔵機関における事前学習</p> <p>(2) 史料収集実習 (3日間を予定) ① 史料所蔵施設において、史料の探索、複写 ② 収集した史料のリスト作成 ③ 収集した史料の整理、保存</p> <p>(3) 史料読解実習 (3日間を予定) ① 史料所蔵施設での史料の翻刻 ② 注釈を付す項目の抽出</p> <p>(4) 史料翻刻実習 (2日間を予定) ① 読解した史料のデータ化 ② 脚注の作成</p> <p>(5) 報告書の作成</p> <p>以上の作業を実施するが、予定している日数で作業が完了することはあり得ない。したがって、後期には各自の担当分を講義時間外で作業を行うとともに、演習Ⅰの時間に進捗状況を確認する。また、新型コロナウイルスの感染状況によって、日程や方法の変更がありうるので連絡に従うこと。</p>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	必要に応じて紹介する。

学びの実践	学びの手立て
	① 集中講義形式で開講されるので、日程調整には協力すること。 ② 対面形式を基本とするが、状況に応じて個人作業やteams等を利用した遠隔形式で実施する場合がある。 ③ 史料読解に必要な工具類は、できるだけ自分で準備しておくこと。 ④ 史料データの入力のため、各自PCを準備しておくことが望ましい。

学びの実践	評価
	到達目標 (1) の評価：史料の収集状況 (10%) 到達目標 (2) の評価：史料の保存状況 (10%) 到達目標 (3) の評価：史料読解の状況 (20%) 到達目標 (4) の評価：入力データの内容 (20%) 到達目標 (5) の評価：作業中の取り組み姿勢 (40%)

学びの継続	次のステージ・関連科目
	この授業は、演習Ⅰと密接に関連している。また、演習Ⅰと実習で修得した技能をいかして、4年次の演習Ⅱを通じて、個人で卒業論文を作成できるようにつなげてもらいたい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	3年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会文化学科における諸入門科目や概論、そして領域演習および演習Ⅰ（前期）で学んだ知識を基礎としながら、実際にフィールドワークを体験する。現場での経験を通じて、自らの手で情報を得ること、そしてコミュニケーション能力の重要性を学ぶ。</p>	<p>現代は、人類の歴史において最も情報が氾濫している時代である。しかし、マスメディアの発達は逆に私たち個々人が自身の力で身の回りの環境や人々から情報を入手する能力を減退させてきたようである。他者とのコミュニケーションを通じて情報を得ること、そして自身が行動することを通じてこそ「世界」は広がるのだという事実を体験・実感してほしい。</p>
到達目標	<p>演習Ⅰその他の講義・ゼミで学んだフィールドワークの方法を現場で実践し、自らの力で情報を記録・収集して、調査報告書や論文作成の前段階として調査データを整理することができる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>演習Ⅰ（前期）で学んだ内容を踏まえ、夏季休業中に、7泊8日程度のフィールドワークを実施する。具体的には、4～5人程度で組織する「概要」／「経済・観光」／「年中行事」／「人生儀礼」などの班に分かれ、適切なインフォーマントを探してインタビュー調査ならびに参与観察を行う。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献・史料については、演習Ⅰおよびフィールドワークの際に随時紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>各自の身の回りあるいは沖縄各地で行われている祭りや行事などに関心を持ち、その内容を自身で調べてみよう。家族や友人を対象としてインタビュー調査の練習をするのも良いだろう。実際のフィールドワークに際しては、すでにどのような情報が公開されているのか、何をどう調査するのかを考え、調査項目の設定を行わなければならない。多様な他者と臨機応変にコミュニケーションが取れるよう、大学内外で普段から練習しておく必要がある。</p>
	<p>評価</p> <p>フィールドワークに対する各自の取り組みならびに報告書の内容にも基づいて、総合的に判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>領域演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ、沖縄文化入門、民俗学概論、文化人類学概論、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、文化人類学理論、etc.</p>
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	3年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の執筆に向けた訓練として、現地における文化・社会の調査ができるよう実地にてトレーニングを行う。なおこの過程には現地との信頼関係の構築や調査者の倫理教育も含まれる。	メッセージ フィールドワークは民俗学のもっとも基礎となる方法です。ただそれだけではなく、人から話を引き出し、断片的な情報から地域の全体像をつかんでいく技術は、学問に限らず生涯にわたって役立つテクニックになります。
	到達目標 民俗学の専門職として、学芸員としての現地民俗調査、および市町村誌の受託調査が単独で行えるレベルを目標とする。このレベルには報告書の執筆も含まれる。	

学びの準備	到達目標 民俗学の専門職として、学芸員としての現地民俗調査、および市町村誌の受託調査が単独で行えるレベルを目標とする。このレベルには報告書の執筆も含まれる。
-------	-----------------------------------------------------------------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>夏休み期間中に集約的な現地調査を行う。またこの調査に先立ち、前期中に予備調査を目的とした日帰りの巡見を実施する。</p> <p>前期には班に分かれて、現地の民俗誌の読み込みと、調査項目、リサーチクエスションの作成を行う。また同時に調査にあたっての研究倫理の理解やラポールの必要性などについても理解する。これらを踏まえて夏季の調査実習に取り組む。これに関連して前期および夏季休業中には以下の時間外学習を課す。</p> <p>①民俗誌および現地に関連する資料群の収集 ②関連資料群の精読 ③リサーチクエスション、調査項目（案）の作成および授業での議論をふまえたバージョンアップ</p> <p>後期には現地調査の成果を踏まえ、民俗調査報告書の執筆に取り組み、完成を目指す。これに関連して、以下の通り時間外学習を課す。</p> <p>①報告書の執筆とバージョンアップ ②報告書の編集と校正</p> <p>年度内における報告書の刊行と現地協力者への送付をもって、プログラムを完了とする。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>現地の民俗誌、調査報告書、論文を多数読み込む必要がある。適宜指示する。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>現地の民俗誌、調査報告書、論文を多数読み込む必要がある。適宜指示する。</p>
-------	------------------------------------------------------------------

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>実習は学外での学習であり、五感を最大限に働かせて取り組むことが求められる。事前に文献等でよく準備したうえで、よく観察し、見たこと・聞いたことを的確に文章に表現していくことを心掛けてほしい。</p>
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの実践	<p>評価</p> <p>現地調査への取り組みから評価する。評価軸は以下の通りとする。①事前学習、調査項目、リサーチクエスションの作成への取り組み（30%）、②現地における積極的な調査への取り組み（40%）、③詳細かつ明晰な調査報告書の執筆（30%）。</p>
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>演習Ⅱ 卒業論文</p>
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名 実習	期別 集中	曜日・時限 集中	単位 2
	担当者 深澤 秋人	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ 水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄県公文書館岸秋正文庫所蔵の「稽古案文集」の閲覧と調査を通して、史料の収集、読解、翻刻、分析など歴史研究の基礎的能力を身につけることを目的とする。具体的には、近世琉球における首里王府の通達および王府への申請や請願に見える事象・キーワード・地名・職名・物品名およびパターン化したフレーズなどを調査する。	メッセージ 【重要】「実習」を通じて、史料の原本の取り扱いには最善の注意と敬意を払わなければならない歴史を研究する者としての意識を身につけてくれることを強く希望します。皆さんの姿勢や態度が後輩の学習環境にも影響を及ぼすことを自覚してください。
	到達目標 ・「稽古案文集」に収録された案文が王府の通達か王府への申請や請願なのかを判別できるようになる。 ・王府の通達および王府への申請や請願における事象・キーワードなどとパターン化したフレーズを認識できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前学習1) : 「実習」の内容の説明、「稽古案文集」の解題	到達目標を理解する
	2	事前学習2) : 活字化された「稽古案文集」の案文を読む①	案文を音読する
	3	事前学習3) : 活字化された「稽古案文集」の案文を読む②	案文を音読する
	4	事前学習4) : 沖縄県公文書館の見学、フィールドワーク①	問題意識を持って参加する
	5	事前学習5) : 沖縄県公文書館の見学、フィールドワーク②	問題意識を持って参加する
	6	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査①	グループで情報を共有する
	7	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査②	グループで情報を共有する
	8	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査③	グループで情報を共有する
	9	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査④	グループで情報を共有する
	10	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査⑤	グループで情報を共有する
	11	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成①	グループで問題点を共有する
	12	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成②	グループで問題点を共有する
	13	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成③	グループで問題点を共有する
	14	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成④	グループで問題点を共有する
	15	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成⑤	グループで問題点を共有する
16	調査報告書の完成原稿の提出	グループで推敲を重ねる	

テキスト・参考文献・資料など  
 【テキスト】教科書は使用しません。事前学習2)で「稽古案文集」のサンプルとして活字化された史料を配布します。  
 【参考文献】  
 ・那覇市企画部文化振興課編『那覇市史 資料篇第1巻11 琉球資料(下)』(那覇市役所、1991年)  
 ・小野まさ子・漢那敬子・田口恵「岸秋正文庫「稽古案文集」一解説および翻刻」(『史料編集室紀要』第30号、2005年)

学びの手立て  
 ・事前学習では、調査の目的・内容・計画を確認したうえ、3~4人のグループを編成して調査項目を設定します。活字化された「稽古案文集」をサンプルとして読みます。また、沖縄県公文書館の見学も予定しています。  
 ・沖縄県公文書館での調査では、グループのなかで調査項目を割り振るなどして分担して作業を行います。  
 ・調査後は、収集した情報をグループごとに整理・分析し、全体での検討を踏まえて調査報告書の作成につなげます。  
 【重要】「稽古案文集」はくずし字の字体、候文(和様漢文)の文体で記されています。内容を理解するためにはくずし字と候文に慣れ親しむ必要があります。いずれかを判読できないとグループでの作業に積極的に関われず、役割や責任を果たせません。そのためにも「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」を確実に履修してください。

評価  
 調査に取り組む姿勢(30%)、グループへの貢献度合い(40%)、情報の整理の仕方(30%)によって総合的に評価します。

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 【重要】(月)2限の「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」を確実に履修してください。理由は学びの手立ての項目に記した通りです。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	都市社会学	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	都市社会学は「都市(化)」という現象を社会的に解説する学問である。都市の社会構造、空間構造が、私たちの生活、社会関係、心的性向とどのように関係しているのかについて理解する。	社会学の基礎概念「行為」と「構造」の関係を、都市空間や都市社会に応用して、現代社会を解説してみよう。講義では、都市に生きる人々の生活や心的性向を具体的に理解する素材として、映画作品や音楽作品も取り入れます。
到達目標	古典的都市社会学の理論と概念、Black Sociologyの基本的な視点、日本における都市社会学の系譜、テーマ化された都市空間や「ジェントリフィケーション」を捉える視点等の習得。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	都市社会学への招待 ～近代都市と近代国家の関係性	近代都市誕生の歴史を調べる
	2	アメリカ合衆国における資本主義の展開と人種化された都市の様相	身近なグローバル資本の探索
	3	シカゴ学派都市社会学理論 ～形式社会学と人間生態学	ジンメルの基本概念の復習
	4	バージェスの都市空間論とワースのアーバニズム論	身近な都市的生活様式の探索
	5	Black Sociologyの展開とその特徴	学問と差別の構造的な関係の探索
	6	Black Sociologyの可能性と今日的課題	マイノリティの文化論的実践の探索
	7	都市社会を解説するミニ課題について ～古典的都市社会またはBlack Sociologyに関する課題	資料収集への取り組み
	8	日本における都市化の歴史的展開	日本の近代都市誕生の歴史を調べる
	9	日本における都市社会学の展開① ～「結節機関」「正常人口の正常生活」「第三の空間」	古典的概念を応用した課題の探索
	10	日本における都市社会学の展開② ～都市コミュニティ、「世界都市論」、都市エスニシティ	身近な「グローバル化」の探索
	11	日本における都市社会学の展開③ ～新都市社会学と「ジェントリフィケーション」の視点	身近な格差と社会的孤立の探索
	12	テーマ化された都市① ～近代都市の博覧会から現代のテーマパークまで	スペクタクル空間の系譜を考える
	13	テーマ化された都市② ～郊外開発とショッピングモールの社会的側面	ショッピングモールの特徴を調べる
14	テーマ化された都市③ ～「気散じ」「身散じ」、アフオーダンス	テーマ化された空間の心身を考える	
15	都市社会学のまとめと期末課題について	講義プリントのふりかえり	
16	予備日	期末課題の作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。		
	学びの手立て		
	リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学力」(ジェネリック・スキル)を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」(高度かつ適切な情報収集と処理能力)となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。		
	評価		
	平常点(受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など)が20点、「都市社会を解説するミニ課題」が30点、期末レポート課題の内容評価が50点という構成で総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：専門演習、卒業演習 都市社会学で学んだ知識や視点をいかして、社会調査や卒業研究につなげる。

※ポリシーとの関連性 考古学をより深く学ぶための「発展科目」として位置付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島考古学Ⅰ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	一森 達也	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球列島を中心に、台湾、フィリピン、インドネシアなどの島嶼部東アジアや中国、朝鮮半島、日本本土まで範囲を広げて、9世紀以降の当該地域のモノと人の動きを考古学的に探る。また、当該地域と南アジア、西アジア、東アフリカとの海のシルクロードを通じた交流をも概説する。この講義を通じて汎アジア的な視点を持ってもらいたい。	南島を中心に、アジア全体を俯瞰する広範な視点と幅広い好奇心を持つための講義を展開する。
到達目標	本講義を通じて、9世紀以降の南島の考古学研究、特に外部地域との交流を中心とした考古学研究の概要を把握し、さらにアジア全域にわたる交易史の概要を把握することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス、南島と東アジアの地理・自然環境・気候の解説	配布資料の精読
	2	東アジアの中で見た、南島における農耕の誕生とグスク時代	配布資料の精読
	3	南島で発見された9世紀から13世紀の外來遺物	配布資料の精読
	4	グスク時代前期の交易路再検証	配布資料の精読
	5	喜界島の考古学	配布資料の精読
	6	琉球の明への朝貢開始期の考古遺物（14世紀末～15世紀初）	配布資料の精読
	7	古琉球時代の朝貢ルートの検証	配布資料の精読
8	グスクから出土する外來遺物	配布資料の精読	
9	鄭和の航海路と琉球王国の交易地域	配布資料の精読	
10	貿易国家ホルムズ王国と琉球王国の比較	配布資料の精読	
11	朝貢貿易の衰退と近世琉球の地産地消	配布資料の精読	
12	近世琉球の窯業	配布資料の精読	
13	新大陸の発見と南島	配布資料の精読	
14	琉球と海のシルクロードの考古学	配布資料の精読	
15	南島と東アジアの水中考古学	配布資料の精読	
16	レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献：沖縄考古学会編『南島考古入門』ボーダーインク社、2018年。 必要な資料は講義中に適宜配布する。		
	学びの手立て 特別な理由が無い限り5回以上欠席した者、レポート未提出者には単位を与えない。事前に高校レベルの世界史の教科書のアジア部分またはアジア史の概説書に目を通してもらいたい。講義中に配布する資料にしっかりと目を通してもらいたい。		
	評価 平常点20%、最終レポート80%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては「沖縄の考古学」。類似科目としては「南島考古学Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」。受講終了後に、南島を中心にアジア全体に興味の範囲を広げてもらいたい。
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

※ポリシーとの関連性

琉球列島に展開した文化、歴史を学び、様々な問題をにたいする解決の糸口を考えることができる。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島考古学Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	2年	研究室5-417室 sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	考古学におけるモノの捉え方、考え方、調査の方法などを学ぶ。琉球列島に展開したグスク時代、琉球王国時代の文化を学ぶ。	現在沖縄考古会で議論されている最前線の話題もからめて講義します。

到達目標	グスク時代や琉球王国時代における、記録にみられない生活文化の一端を知ることができる。また、その研究方法を認識することができる。
------	-----------------------------------------------------------------

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	グスク時代と南島社会	参考文献を精読してもらう。
	2	夜光貝と南島交易	参考文献を精読してもらう。
	3	琉球王権とグスク	参考文献を精読してもらう。
	4	沖縄諸島の土木遺産（普請）	参考文献を精読してもらう。
	5	沖縄諸島の遺構、遺物からみる建造物（作事）	参考文献を精読してもらう。
	6	琉球王国と鑄銭	参考文献を精読してもらう。
	7	琉球諸島の鑄造技術	参考文献を精読してもらう。
	8	琉球砥石考	参考文献を精読してもらう。
	9	泡盛と考古学	参考文献を精読してもらう。
	10	グスク時代の琉球料理	参考文献を精読してもらう。
	11	考古学からみた沖縄諸島の遊戯史	参考文献を精読してもらう。
	12	首里城の地下に広がる遺産群	参考文献を精読してもらう。
	13	琉球王国時代の窯業	参考文献を精読してもらう。
14	琉球列島の古墓と厨子甕文化	参考文献を精読してもらう。	
15	琉球の庭園文化	参考文献を精読してもらう。	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など		
	『沖縄県史』各論編2 考古学 2003年 『沖縄県史』各論編3 古琉球 2010年		
	学びの手立て	考古学資料を博物館、資料館などで直接みることは講義内容を深く理解することができる。講義内容の主たるは歴史時代にあたるため、隣接学の歴史学、民俗学、社会学研究の成果も積極的に学びましょう。	
	評価	1、課題のリポートか試験（90%）。 2、平常点として遅刻、出席状況、受講姿勢などを対象とする（10%）。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 「考古学特講Ⅰ、Ⅱ」「アジア考古学」「考古学概論2」
-------	-------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島社会学	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石川 朋子	2年	講義終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「南島社会」を論じるには、さまざまな視点から分析することが、可能であるが、本講義では、「戦争」「日本復帰」「米軍基地」「郷友会社会」「出稼ぎ・移民」等のキーワードから、「南島社会」を考える。	「南島社会」の特質を学び理解することで、社会のあり方、問題解決について考え、取り組むきっかけになることを期待したい。
到達目標	沖縄社会の特質、歴史的経緯を学ぶと同時に、現在の課題について理解を深め、問題解決に向けた思考を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 講義ガイダンス	配布資料の精読
	2	(特) 「南島」とは	配布資料、参考文献を精読する
	3	(特) 復帰と南島	配布資料、参考文献を精読する
	4	(特) 復帰と沖縄(1)	配布資料、参考文献を精読する
	5	(特) 「復帰」と沖縄 (2)	配布資料、参考文献を精読する
	6	(特) 「戦争」と沖縄(1)	配布資料、参考文献を精読する
	7	(特) 「戦争」と沖縄(2)	配布資料、参考文献を精読する
	8	(特) 米軍基地と沖縄(1)	配布資料、参考文献を精読する
	9	(特) 米軍基地と沖縄(2)	配布資料、参考文献を精読する
	10	(特) 郷友社会と沖縄(1)	配布資料、参考文献を精読する
	11	(特) 郷友社会と沖縄(2)	配布資料、参考文献を精読する
	12	(特) 死亡広告にみる沖縄(1)	配布資料、参考文献を精読する
	13	(特) 死亡広告にみる沖縄社会(2)	配布資料、参考文献を精読する
14	(特) 出稼ぎ・移民と沖縄(1)	配布資料、参考文献を精読する	
15	(特) 出稼ぎ・移民と沖縄(2)	配布資料、参考文献を精読する	
16	予備・テストまたはレポート		
実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定せず、必要な資料を配付し、関連する文献を紹介する。授業連絡で資料を添付送信するので、各自でプリントアウトして準備すること。		
学びの手立て	講義内容に関連する参考文献を探索し、必要な知見を積極的に吸収していくことが重要である。		
評価	講義でのリアクションペーパー(40%)により、出席・講義理解状況を把握し、レポート、テスト等(60%)で総合的に評価する。講義はオンライン授業と課題研究で行う予定である。講義開始までにWi-Fi環境を整えてください。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会・平和領域の専門科目
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島先史学 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	2年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	先史文化の概要に先立ち、琉球列島の成り立ちについて、地質学上の成果を紹介する。その後、旧石器時代の人々の拡散や島嶼における適応過程に関する研究を紹介する。	【実務経験】行政における発掘調査現場での実務経験を活かし、実際の発掘調査の現場について紹介し、琉球列島誕生と人類誕生の歴史を一緒に考える講義を行う。
到達目標	琉球列島の形成過程を知る。 ヒトの歴史と文化について、地球史の中で考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス	シラバスをよく読むこと
	2	先史学とは何か?	関連資料を配布するので読むこと
	3	琉球列島の地史(1)	文献参照
	4	琉球列島の地史(2)	文献参照
	5	琉球列島の地史(3)	文献参照
	6	琉球列島とサンゴ礁	関連資料を配布するので読むこと
	7	琉球列島の動植物	文献参照
	8	琉球列島の人と自然	文献参照
	9	サルとヒト	文献参照
	10	サルからヒト	文献参照
	11	ヒトの進化の過程(グレートジャーニー)	文献参照
	12	東アジア・日本列島の旧石器時代	文献参照
	13	琉球列島における旧石器文化	関連資料を配布するので読むこと
14	サキタリ洞遺跡と白保竿根田原洞穴遺跡	関連資料を配布するので読むこと	
15	更新世初期の琉球列島	関連資料を配布するので読むこと	
16	レポート	課題提出	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。 参考文献①神谷厚昭2007『琉球列島ものがたり—地層と化石が語る二億年史』ボーダーインク。②渡久地健2017『サンゴ礁の人文地理学:奄美・沖縄、生きられる海と描かれた自然』古今書院。③ジャレド・ダイヤモンド2017『若い読者のための第三のチンパンジー(草思社文庫)』草思社。④沖縄県立博物館・美術館2007『人類の旅—港川人の来た道—』。		
学びの手立て	履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠状況を毎回厳格に行う。 ・提出する課題は期日厳守の上、必ず取り組むこと。		
評価	小テスト(ワーク)50%、期末課題50%。 ※無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 継続的学びとして「南島考古学Ⅱ」を合わせて受講することを推奨する。 関連科目は「沖縄の考古学」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	-------------------------------------------------------------------------------------

※ポリシーとの関連性

沖縄の社会文化を学ぶ上で、特に文字で記録されていない過去について深く学ぶ科目として位置付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島先史学Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	2年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球列島に展開した先史文化を概観する。まず、沖縄諸島の新石器文化について、縄文時代とそれ以降に分けて、沖縄固有の文化がどのような過程で形成されてきたのかを概説する。続けて沖縄諸島と起源を異にする宮古・八重山諸島の先史文化を紹介し、その特質について学ぶ。	【実務経験】行政における発掘調査現場での実務経験を活かし、実際の発掘調査の現場について紹介し、琉球列島誕生と人類誕生の歴史を一緒に考える講義を行う。
到達目標	先史学のモノの見方、考え方を身につける。 琉球列島に展開した先史文化について深く知る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・沖縄の先史時代研究のあゆみ	シラバスをよく読むこと
	2	沖縄の先史土器の編年～考古学ではなぜ土器を分けるのか？～	関連資料を配布するので読むこと
	3	遺跡出土の貝殻を分類してわかる事	各自課題に取り組むこと
	4	集落はどうやって復元されるのか？	各自課題に取り組むこと
	5	先史時代の人口はどうやって推算するのか（1）	関連資料を配布するので読むこと
	6	先史時代の人口はどうやって推算するのか（2）	各自課題に取り組むこと
	7	先史時代の交流①（縄文時代並行期）	関連資料を配布するので読むこと
8	先史時代の交流②（弥生～平安並行期）	関連資料を配布するので読むこと	
9	琉球列島の遺跡調査と年代測定	各自課題に取り組むこと	
10	植物遺体の回収と栽培植物の検出	関連資料を配布するので読むこと	
11	宮古・八重山の先史文化の概説	関連資料を配布するので読むこと	
12	下田原式土器文化を考える	関連資料を配布するので読むこと	
13	無土器文化と貝の斧	関連資料を配布するので読むこと	
14	琉球列島の先史時代社会と文字記録	各自課題に取り組むこと	
15	まとめ	関連資料を配布するので読むこと	
16	レポート	課題提出	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。 参考文献：沖縄県教育委員会2003『沖縄県史』各論編2		
学びの手立て	履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠状況を毎回厳格に行う。 ・提出する課題は期日厳守の上、必ず取り組むこと。		
評価	各回課題（80％）。平常点（20％）。 ※無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 継続的学びとして「南島考古学Ⅰ」をあわせて受講することを推奨する。 関連科目は「沖縄の考古学」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	-------------------------------------------------------------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学史 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	2年	t.oikawa@okiu.ac.jp または5511研究室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	比較民俗学の視点から、主に日本本土（ヤマト）と比較した際の、沖縄民俗文化の特徴について理解を進めていく。特にそれぞれの文化について、本質主義的な理解ではなく、歴史や環境、社会構造などに基づいて捉える視点を育てていく。	沖縄の民俗文化とはどのような特徴・性格を具えているのか、またそれは何故なのか、ということを考えていきます。我々が「当たり前」だと思っている生活文化のそれぞれに、様々な背景があることを感じ取ってほしいと思います。
到達目標	沖縄の民俗文化・社会について理解し、自分の身の回りのことについて自分なりに説明ができるようになることが目標である。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション この講義の目的・進め方・評価方法	課題とそのフィードバック
	2	沖縄の結婚式はなぜ本土と違うのか？	課題とそのフィードバック
	3	昔の沖縄の若者はどう恋愛していたか？	課題とそのフィードバック
	4	沖縄の親戚はなぜ多いのか？	課題とそのフィードバック
	5	なぜ沖縄では清明祭をやるのか？	課題とそのフィードバック
	6	なぜ沖縄にはユイマールやモアイがあるのか？	課題とそのフィードバック
	7	沖縄にはなぜ御神輿（おみこし）があまりないのか？	課題とそのフィードバック
8	ユタとはどんな人たちか？	課題とそのフィードバック	
9	石敢當とは何なのか？	課題とそのフィードバック	
10	仮面神とは何者なのか？	課題とそのフィードバック	
11	エイサーとは何なのか？	課題とそのフィードバック	
12	沖縄人はなぜ豚肉が好きなのか？	課題とそのフィードバック	
13	郷友会とは何なのか？	課題とそのフィードバック	
14	沖縄文化にはどんな特徴があるか？	課題とそのフィードバック	
15	まとめ	課題及び期末レポート	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など ・講義のためのウェブサイトを設置した。対面で講義ができない場合には、そこでシラバスおよび講義の動画を配信する。また配信は原則的に講義所定の時間を用いる。		
学びの手立て	『沖縄民俗辞典』等を活用すること。本講義では「親戚」「婚姻」「位牌」といった我々が当たり前知っているつもりでいる言葉から考察を深め、その一つ一つの意味を丁寧に考えていくことから沖縄社会を理解しようとする。そのために各回において課題を課すとともに、その解説を中心とした復習を実施する。		
評価	各回の講義時間において課題を課す（40%）。これに期末レポートの成績を加えて成績を出す（60%）。課題は共に、①講義内容の理解度 および②理解内容を端的に整理する表現力、2つの観点から評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島の民俗学Ⅱ（南島民俗学Ⅱ）、南島の民俗社会Ⅰ、南島の民俗社会Ⅱ、民俗学Ⅱ、民俗・人類学特殊講義Ⅰ
-------	-------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学史Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-城間 義勝	2年	ptt200@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、沖縄本島南部の一村落を具体的に取り上げ、そこに住む人々の生活様式を民俗学的な視点から紹介します。これをきっかけに南島地域に関する民俗事象に興味を持ち、それに関する基礎知識を身につけることを目的とします。また、それと同時にフィールドワークにおける視点や調査方法、報告書の作成方法についても理解を深めていきたいと思ひます。</p>	<p>この講義では、「戦前」「戦後」「現在」という時間の流れのなかで民俗事象について考えていきたいと思ひます。私たちの生活で「当たり前」だと思ひていることを違う視点から見ることの大切さを知っていただきたいと思ひます。受講する際は、みなさが住んでいる地域や家庭と比較しながらお聞きください。</p>
到達目標	民俗学的な視点をもって一村落を理解し、自らフィールドワークを行い、報告書を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	民俗学とは何か調べる
	2	県内の民俗史発刊状況とその項目	県史・市町村史・字誌を読む
	3	民俗調査と報告書作成について	民俗調査の方法について調べる
	4	村落の地理と歴史の変遷	概要とは何か調べる
	5	社会組織①	自治会組織について調べる
	6	社会組織②	屋号と門中について調べる
	7	生業①	農業・畜産について調べる
	8	生業②	漁業・商業について調べる
9	衣食住①	衣・食について調べる	
10	衣食住②	住について調べる	
11	祭祀と信仰①	聖地と拝所について調べる	
12	祭祀と信仰②	祭祀組織について調べる	
13	祭祀と信仰③	村落/門中/家庭祭祀について調べる	
14	人生儀礼①	誕生・産育儀礼について調べる	
15	人生儀礼②	成人/婚姻/葬送儀礼について調べる	
16	まとめ	全講義内容を復習する	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストはありません。講義でレジュメや資料を送信します。 参考図書は講義毎に随時紹介します。</p>	
	学びの手立て	<p>①履修の心構え Google Classroom (グーグル クラウドルーム) で遠隔講義を行います。 講義開始の5～3分前までには、サイト入室して下さい。 講義終了後に感想や疑問・質問などを送信してもらいます。</p> <p>②学びを深めるために 講義での疑問・質問には、必ずメールで回答します。 受講内容について両親や祖父母に聞いて下さい。</p>	
	評価	<p>評価方法と配分割合 講義参加度 (60%)、期末レポート (40%)</p>	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>①関連科目 沖縄の社会・沖縄の宗教・南島民俗学Ⅲ・南島民俗学Ⅳ</p> <p>②次のステージ 興味・関心があるテーマを1つに絞り、フィールドワークを実施し、分析・考察を行う。</p>

※ポリシーとの関連性

発展科目に位置づけられ、沖縄民俗文化についてのより深い理解を得ることが目指される。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学 I	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 盛晃	2年	ptt705@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の民俗文化研究において重要な役割を果たした研究者を取りあげ、その生涯と学問の展開を時代的な背景を考慮しながら追ひ、その代表的な論文にふれる。そうした作業を通じて、沖縄の民俗文化研究の本質へ接近したい。	メッセージ 先人たちの研究方法と焦点を当てられた沖縄の様々な民俗文化を具体的、かつ幅広く取り上げ、その実態の把握を目指す。それを通して、受講生自身に共通する文化や異質な文化から、自分自身を見つめ直す機会としてもらいたいと思います。
	到達目標 南島民俗学における先行研究の歴史の理解と、現代と未来に残された課題の把握。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄民俗研究史概要(1)	配布資料の予習/復習
	2	〃 (2)	〃
	3	柳田国男(1)	配布資料の予習/復習
	4	〃 (2)	〃
	5	折口信夫	配布資料の予習/復習
	6	伊波普猷(1)	配布資料の予習/復習
	7	〃 (2)	〃
	8	比嘉春潮(1)	配布資料の予習/復習
	9	〃 (2)	〃
	10	金城朝永	配布資料の予習/復習
	11	仲原善忠	配布資料の予習/復習
	12	佐喜真興英	配布資料の予習/復習
	13	小野重朗	配布資料の予習/復習
	14	仲松弥秀	配布資料の予習/復習
	15	上江洲均	配布資料の予習/復習
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 毎回配布するレジュメに沿って、スライド(写真、映像)を用いながら行う。		
	学びの手立て 履修上の心構え ・毎回、出席を確認する。やむを得ず欠席する場合は、欠席届を提出すること。 ・配布した資料を次週も使用する場合は指示するので、持参すること。		
	評価 授業参加度・平常点(40%)、課題(60%)によって総合的に評価する。 ※出席率が3分の2未満の場合は評価の対象外となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島民俗学Ⅱ、南島の民俗社会Ⅰ、南島の民俗社会Ⅱ
-------	-----------------------------------------

※ポリシーとの関連性

発展科目に位置づけられ、沖縄民俗社会およびそれを捉える方法についてのより深い理解を得ることが目指される。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	2年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の民俗文化を考察するにあたり、用いられてきた理論や視点、方法などの全体像を捉える。特にそうした理論を具体的な事例分析とともに取り上げることで、自分の研究に生かせるレベルまで修得することをめざす。	メッセージ この講義では従来の沖縄民俗学、文化人類学が用いてきた理論や方法について解説します。ここで言う理論とは、文化・社会をどう見るか、ということに関わってきます。
	到達目標 沖縄研究に用いられてきた理論的枠組みを消化し、自らそれを使って分析できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) イントロダクション この講義の目的・進め方・評価の仕方	課題とそのフィードバック
	2	(対) 分布と地域1 周圏論	課題とそのフィードバック
	3	(対) 分布と地域2 地域構造論	課題とそのフィードバック
	4	(対) 文化複合論	課題とそのフィードバック
	5	(対) 進化主義とその批判	課題とそのフィードバック
	6	(対) 機能主義1 生存に役立つ文化	課題とそのフィードバック
	7	(対) 機能主義2 説明原理	課題とそのフィードバック
	8	(対) 構造主義	課題とそのフィードバック
	9	(対) 象徴と演劇	課題とそのフィードバック
	10	(対) イデオロギー	課題とそのフィードバック
	11	(対) テキスト	課題とそのフィードバック
	12	(対) ポストコロニアリズム	課題とそのフィードバック
	13	(対) エスニシティとアイデンティティ	課題とそのフィードバック
	14	(対) ミクロ・ポリティクス	課題とそのフィードバック
	15	(対) まとめ	課題及びレポートを提出
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など ・各回においてレジュメを配付する。対面で講義ができなくなった場合には個別に指示する。		
	学びの手立て 民俗学・文化人類学の理論は、あくまで現実の民俗文化と突き合わせた時に効力を発揮する。ただ抽象的な言葉を理解するのではなく、具体的な事象を捉えるための道具として消化してほしい。そのために各回において課題を課すとともに、その解説を中心とした復習を実施する。		
	評価 各回の講義時間において課題を課す(40%)。これに期末レポートの成績を加えて成績を出す(60%)。課題は共に、①講義内容の理解度 および②理解内容を端的に整理する表現力、2つの観点から評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島民俗学史Ⅰ、南島民俗学史Ⅱ、南島民俗学Ⅲ、南島民俗学Ⅳ
-------	----------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学Ⅲ	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高江洲 敦子	2年	ptt202@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、前半で沖縄の村落（シマ）の成り立ちや、シマの展開について概観したのち、シマ人の社会生活（主に近代）について講義する。後半ではユタを取り上げ、その成立や成巫過程、さらに社会的役割の変遷について、民俗学の視点はもとより、歴史学からのユタ研究の成果も紹介しながら、シマ人の信仰習俗についても講義を進める。</p>	<p>民俗学を専攻する学生のみならず、他学科の学生も歓迎します。この講義を通して地域社会の成り立ちや、伝統的な沖縄の文化や信仰習俗などに興味を持ってくれることを願います。</p>
到達目標	<p>・ 沖縄のシマ社会の成り立ちや、地域社会の呼称の変遷については、社会的背景を通じて理解を深める。</p> <p>・ 民俗学や歴史学の研究成果をテキストとして、近世・近代以降のユタの役割の変化について学ぶ。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	シマ社会の成り立ち	翌週との関連論文を精読すること。
	3	シマ社会の展開（呼称の変遷から）	翌週との関連論文を精読すること。
	4	シマの行政組織	翌週との関連論文を精読すること。
	5	シマのクミ組織	翌週との関連論文を精読すること。
	6	シマの労働慣行	前半の講義内容を整理しておく。
	7	中間試験	次週との関連論文を精読すること。
8	女性神役と民間巫女（ユタ）概説	次週との関連論文を精読すること。	
9	ユタの歴史的成立	次週との関連論文を精読すること。	
10	ユタの成巫過程	次週との関連論文を精読すること。	
11	ユタの弾圧	次週との関連論文を精読すること。	
12	ユタの職能（近世 i）	次週との関連論文を精読すること。	
13	ユタの職能（近世 ii）	次週との関連論文を精読すること。	
14	ユタの職能（近代以降 i）	次週との関連論文を精読すること。	
15	ユタの職能（近代以降 ii）	次週との関連論文を精読すること。	
16	学期末試験	後半の講義内容を整理しておく。	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テキストは特に指定しない。</li> <li>・ 参考文献は講義に配付するレジюмеに明記する。</li> </ul>	
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回出席確認を行う。やむを得ず欠席した場合は、翌週に届けを提出すること。</li> </ul>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間試験（40点）</li> <li>・ 学期末試験（40点）</li> <li>・ 提出物や、授業への取り組み姿勢（20点）</li> </ul>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>南島民俗学Ⅳで取り上げる沖縄の祖先祭祀において、現代社会におけるユタの役割がより深く理解できることでしょう。</p>
-------	----------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	南島民俗学Ⅳ	期別	曜日・時限	単位
	担当者	-高江洲 敦子	後期	水 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	ptt202@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	本授業では、南島における祖先崇拜の構成要素を取り上げて授業を行う。受講生に南島の祖先崇拜の特色についてより深く理解してもらうため、日本本土における祖先崇拜のあり様と比較検討しながら授業を進める。	メッセージ	・2年生には、実習に向けての基礎的な知識を得られるような授業にしたい。 ・3年と4年生には実習報告書や卒論の一助となるような授業を行いたい。
	到達目標	・沖縄の人々の死生観について理解を深める。 ・祖先祭祀の態様などを通して、近代以降のユタの役割についても理解を深める。		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス①登録確認・授業内容紹介	
	2	(対) ガイダンス②PC・スマホ等からのGoogleクラスルームへの参加方法	翌週に関連する論文を精読する。
	3	(特) 他界観・靈魂観（沖縄・日本本土）	翌週に関連する論文を精読する。
	4	(特) 葬制①（沖縄）	翌週に関連する論文を精読する。
	5	(特) 葬制②（日本本土）	翌週に関連する論文を精読する。
	6	(特) 墓制①（沖縄）	翌週に関連する論文を精読する。
	7	(特) 墓制②（日本本土の両墓制）	前半の講義内容を整理しておく。
	8	(対) 前半まとめ	翌週に関連する論文を精読する。
	9	(特) 祖先祭祀①（沖縄の位牌と祭祀）	翌週に関連する論文を精読する。
	10	(特) 祖先祭祀②（沖縄の春秋の祖先祭祀）	翌週に関連する論文を精読する。
	11	(特) 祖先祭祀③（沖縄の一門と巡拝祭祀）	翌週に関連する論文を精読する。
	12	(特) 祖先祭祀④（日本本土の仏壇と位牌）	翌週に関連する論文を精読する。
	13	(特) 祖先祭祀⑤（沖縄・日本本土の年忌供養）	翌週に関連する論文を精読する。
14	(特) 祖先祭祀⑥（日本本土の春秋の祖先祭祀 i）	翌週に関連する論文を精読する。	
15	(特) 祖先祭祀⑦（日本本土の春秋の祖先祭祀 ii）	後半の講義内容を整理しておく。	
16	学期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト：授業はレジュメと補足の音声で行う。特別授業の詳細については、総合ポータルシステム10月7日（水）の「授業連絡」にも提示しますので確認して下さい。</li> <li>・参考文献：レジュメに随時明記する。</li> </ul>		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回のリアクションペーパーの提出をもって出席とみなす。</li> <li>・欠席した場合は、メールにて届けを提出すること。</li> </ul>		
	評価		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験（60点）</li> <li>・毎回のリアクションペーパー（40点）</li> </ul>		

学びの継続	次のステージ・関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文などのテーマにつなげてもらいたい。</li> <li>・授業で取り上げた葬制・墓制、位牌祭祀や位牌の継承問題などは、今後の人生の中で少なからず直面することになるでしょうが、授業で学んだことが、その問題を解決する一助になると思います。</li> </ul>
-------	-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本史概論 I	前期	水 2	2
	担当者 市川 智生	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	t. ichikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①最初の5回は前近代の歴史のなかで、重要なテーマを選び概説する。残りの10回は幕末から明治期を扱う。</p> <p>②近代史および現代史の理解が特定の見方に偏ることのないよう、多様な価値観を尊重し、最新の研究成果に基づき説明を行う。</p> <p>③琉球・沖縄史については、各回の内容に関連する事例を紹介し、沖縄社会の位置づけについて考える契機とする。</p>	<p>みなさんが生活する琉球・沖縄の歴史を学ぶ際には、日本の歴史を知っておく必要があります。この講義では近代・現代を中心に、写真、絵画、図表などを多用して、視覚的にわかりやすい内容とします。公文書館、博物館、図書館などで興味を持った事柄を調べてみることで、ここで学習した内容がより豊かになります。</p>
	到達目標	
	<p>①日本の通史を、近代・現代を中心に理解し、現在の政治・経済・社会にどのようにつながっているのかを認識できるようになる。</p> <p>②日本における政治・外交の歴史的展開について、常に国際的視野に基づいて考えることができるようになる。</p> <p>③琉球・沖縄社会の歴史的変遷を、日本および周辺諸国・地域との関係から理解できる。</p> <p>④近代・現代の日本の歴史がどのような史料をもとに語られているのかを理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講ガイダンス1	事前にシラバスを熟読のこと。
	2	開講ガイダンス2	配布資料の読解、参考文献の確認。
	3	江戸の三大改革	配布資料の読解、参考文献の確認。
	4	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
	5	鎖国と「四つの口」	配布資料の読解、参考文献の確認。
	6	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
	7	幕末の政治史1：開国と開港	配布資料の読解、参考文献の確認。
	8	幕末の政治史2：国内政治と外交	配布資料の読解、参考文献の確認。
	9	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
	10	日本史学習の方法	配布資料の読解、参考文献の確認。
	11	明治維新と地域社会	配布資料の読解、参考文献の確認。
	12	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
	13	岩倉使節団は何を見たか？	配布資料の読解、参考文献の確認。
14	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。	
15	まとめと試験	前期分の復習	
16			
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>特定の教科書は使用せずレジメを配布し、図表・絵画・写真・史料などをスライドで紹介する。全体にわたる参考文献は次の通り。（各論については講義で紹介する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石上英一ほか編『日本の時代史』全30巻、吉川弘文館、2002-2004年</li> <li>・金城正篤ほか『沖縄県の百年』山川出版社、2005年</li> <li>・小風秀雅編『大学の日本史』4（近代）山川出版社、2016年</li> <li>・清水唯一朗・瀧井一博・村井良太『日本政治史—現代日本を形作るもの—』有斐閣、2020年</li> </ul>		
	学びの手立て		
	<p>①履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻、私語、居眠り、イヤホン装着など、その場で退室してもらいます。</li> <li>・【重要】講義中はスマートフォンの操作を禁止します。必ずカバンにしまうこと。</li> <li>・高校の日本史未履修者は、どの出版社のものでもよいので日本史Bの教科書を必ず事前に読んでおくこと。</li> </ul> <p>②学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の配布資料で、どこまで学習したのかを必ず確認しておくこと。配布資料への書き込みや自分のノートなど、講義内容をメモする習慣を身に着けること。</li> </ul>		
	評価		
	<p>①講義のなかで、史料もしくは研究文献の読解課題を実施します。これは提出してもらい、出席の確認も兼ねます。遅刻・欠席者の提出は認めないので注意すること。（5点×8回=40点）</p> <p>②理解度を確認するため試験もしくはレポートを実施します。（60点×1回=60点）</p> <p>以上の合計100満点で成績評価します。①の課題提出回数が2/3未満の場合、②の結果に関係なく不可とします。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	可能な限り「日本史概論II」とセットで履修すること。「歴史学概論」、「琉球・沖縄史入門」、「沖縄前近代史」、「沖縄近現代史」など歴史関係の科目と合わせて受講し、自ら比較・検討することが望ましい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本史概論Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	2年	t. ichikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①「日本史概論Ⅰ」に引き続き明治期から戦後までの概説を行う。</p> <p>②近代史および現代史の理解が特定の見方に偏ることのないよう、多様な価値観を尊重し、最新の研究成果に基づく説明を行う。</p> <p>③琉球・沖縄史については、各回の内容に関連する事例を紹介し、沖縄社会の位置づけについて考える契機とする。</p>	<p>みなさんが生活する琉球・沖縄の歴史を学ぶ際には、日本の歴史を知っておく必要があります。この講義では近代・現代を中心に、写真、絵画、図表などを多用して、視覚的にわかりやすい内容とします。公文書館、博物館、図書館などで興味を持った事柄を調べてみることで、ここで学習した内容がより豊かになります。</p>

学びの準備	到達目標
	<p>①日本の通史を、近代・現代を中心に理解し、現在の政治・経済・社会にどのようなつながっているのかを認識できるようになる。</p> <p>②日本における政治・外交の歴史的展開について、常に国際的視野に基づいて考えることができるようになる。</p> <p>③琉球・沖縄社会の歴史的変遷を、日本および周辺諸国・地域との関係から理解できる。④古代から近代・現代にいたる日本の歴史がどのような史料をもとに語られているのかを理解する。</p> <p>④近代・現代の日本の歴史がどのような史料をもとに語られているのかを理解する。</p>

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	
	回	テーマ
	1	(対) 開講ガイダンス
	2	(対) 自由民権運動と憲法構想
	3	(対) 同上
	4	(対) 明治憲法の成立と帝国議会
	5	(対) 同上
	6	(対) 日清戦争と国際社会
	7	(対) 同上
	8	(対) 日露戦争と都市騒擾
	9	(対) 同上
	10	(対) 第一次世界大戦前後の政治・外交
	11	(対) 同上
	12	(対) 対外戦争と国内政治
	13	(対) 敗戦と戦後占領
	14	(対) 同上
15	(対) 高度経済成長と社会変容	
16	(対) 試験もしくはレポート	
時間外学習の内容		
事前にシラバスを熟読のこと。		
配布資料の読解、参考文献の確認。		
配布資料の読解、参考文献の確認。		
配布資料の読解、参考文献の確認。		
配布資料の読解、参考文献の確認。		
配布資料の読解、参考文献の確認。		
配布資料の読解、参考文献の確認。		
配布資料の読解、参考文献の確認。		
配布資料の読解、参考文献の確認。		
配布資料の読解、参考文献の確認。		
配布資料の読解、参考文献の確認。		
後期分の復習		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>全体にわたる参考文献は次の通り。(各論については講義で紹介する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石上英一ほか編『日本の時代史』全30巻、吉川弘文館、2002-2004年</li> <li>・金城正篤ほか『沖縄県の百年』山川出版社、2005年</li> <li>・小風秀雅編『大学の日本史』4(近代)山川出版社、2016年</li> <li>・清水唯一朗・瀧井一博・村井良太『日本政治史—現代日本を形作るもの—』有斐閣、2020年</li> </ul> <p>※高校の日本史未履修者は、どの出版社のものでもよいので日本史Bの教科書を必ず事前に読んでおくこと。</p>
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻、私語、居眠り、イヤホン装着など、その場で退室していただきます。</li> <li>・【重要】講義中はスマートフォンの操作を禁止します。必ずカバンにしまうこと。</li> </ul> <p>②学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・moodleにこの科目を、連絡事項の通知、レジュメの配布、課題の提出などに使用する。随時情報をupするので常に参照のこと。https://bee.okiu.ac.jp/ →[コースカテゴリ] → [総合文化学部] → [社会文化学科]</li> <li>・前回の配布資料で、どこまで学習したのかを必ず確認しておくこと。配布資料への書き込みや自分のノートなど、講義内容をメモする習慣を身に着けること。</li> </ul>
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの実践	<p>評価</p> <p>①講義のなかで、史料もしくは研究文献の読解課題を実施します。これは提出してもらい、出席の確認も兼ねます。遅刻・欠席者の提出は認めないので注意すること。(5点×6回=30点)</p> <p>②理解度を確認するため試験もしくはレポートを実施します。(70点×1回=70点)</p> <p>以上の合計100満点で成績評価します。①の課題提出回数が2/3未満の場合、②の結果に関係なく不可とします。</p>
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>可能な限り「日本史概論Ⅰ」とセットで履修すること。「歴史学概論」、「琉球・沖縄史入門」、「沖縄前近代史」、「沖縄近現代史」など歴史関係の科目と合わせて受講し、自ら比較・検討することが望ましい。</p>
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



※ポリシーとの関連性 多様な民俗事象を理解し、物事を相対化し、自文化や自分自身の置かれた状況を捉えなおす視点を養う。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較民俗学	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城博美8回、神谷智昭(7回)	2年	学内メールにて。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	身近な沖縄、日本の民俗事象も確認しながら、台湾、韓国といった周辺諸地域の民俗事象との比較をします。そこから浮かび上がってくるであろう、それぞれの地域の特性や歴史性についても考えていきます。今、我々が生活している現代社会を観察し、物事の状況を複眼的に捉える視点を獲得することが最終目標です。	「比較民俗学」という名前が示すように、「比較」ということがキーワードになってきます。外国をはじめ、身の回りにいる「他者」と自分自身、自分自身の置かれている状況(社会・文化)について、「比較」という方法を通して相対化し捉えなおすことができるようになります。世の中を眺めた時に、いつもと違う景色が広がってくると思います。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「当たり前」に過ごしている日常生活世界を切り取り、そこにつまんでいるであろう歴史や意味といったものを理解することができるようになる。</li> <li>・「比較」という手法を通して、自己(自文化)の相対化の視点を学ぶことができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション「比較民俗学とは？」 オリエンテーション	前半8回は台湾と沖縄の比較です。
	2	コロナが変えた日常 シーミーに関する沖縄・台湾の変化についてレポート作成	ネットで台湾に関することを調べる
	3	台湾と沖縄の信仰の世界「ユタとタンキ」について課題研究	アンテナを張り、積極的に「台湾」
	4	比較民俗学とは何か？ 沖縄と台湾の比較	を意識してください。
	5	沖縄と台湾の社会組織 女は先祖になれないのか？	普段の生活をより意識してください
	6	社会関係「神縁」について考える	年中行事などを実践・観察しよう！
	7	世界観・身体観・病気観	身近な事象を観察しましょう
	8	お盆にくる霊ーあなたは誰を迎えているの？	あなたの実践を観察してみましょう
	9	現代韓国概況解説	韓国のイメージを挙げてみよう
	10	朝鮮半島の歴史概説	沖縄の歴史を振り返ってみよう
	11	朝鮮半島の家族・親族	貴方にとっての家族・親族とは誰？
	12	朝鮮半島のマウル(村)と生活	沖縄の村を調べてみよう
	13	朝鮮半島の村落祭祀	沖縄の村落祭祀を調べてみよう
	14	朝鮮半島の葬送儀礼	出身地の葬送儀礼を調べてみよう
15	朝鮮半島のシャーマニズム	沖縄のシャーマニズムを調べよう	
16			

テキスト・参考文献・資料など  
 テキストは特に指定しませんが、各回の講義と関連する参考文献などは講義前後に随時紹介していきます。

学びの手立て

①「履修の心構え」

- ・民俗学、人類学などを履修済みであると理解しやすいでしょう。
- ・おしゃべりなどをして他の受講生の妨げとなったり、居眠りやスマホいじりなどは厳禁。
- ・講義開始後20分を過ぎての遅刻は正当な理由がない限りは欠席扱いとします。

②「学びを深めるために」

- ・テレビのドキュメンタリー番組などを見て興味・見識の幅を広げてください。

評価

- ・毎回リアクションペーパーを書いてもらい講義内容の理解度や、視点の多様性を確認すると同時に出席確認する。【30%】
- ・地域毎(台湾、韓国)に、レポートを提出してもらおう。関心のある事象について自分自身で資料を集め、まとめるという作業を通して、理解を深めてもらう。(合計2回) 【70%】

学びの継続

次のステージ・関連科目

隣接科目の「文化人類学」や「社会学」、「歴史学」といった科目を履修することで、複眼的視点獲得の基礎作りがさらに出来ると思います。身の回りの「当たり前」を一度括弧に入れて「当たり前」が当たり前になっただけきさつや、そう感じる自分の感性を注視しながら、社会とのかかわり方を模索していけるような、学問の基礎体力を身につけましょう。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	通年	水3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	1年	r.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目は、社会文化学科1年生を対象としたゼミナール形式の授業である。本科目では大学での学びにおいて必要となる「書く」「読む」「伝える」ことの基本的な能力を習得することを目的とする。	メッセージ 【履修上の注意事項】 本科目は一般講義とは異なり、受講者に対して能動的・意欲的な取り組みを求める。
	到達目標 専門書の文章読解、文献・資料調査およびその報告書やレジュメの作成ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス①	授業時に指示した文献の講読
	2	(特) ガイダンス②	授業時に指示した文献の講読
	3	(特) 文章読解のトレーニング①	授業時に指示した文献の講読
	4	(特) 文章読解のトレーニング②	授業時に指示した文献の講読
	5	(特) 文章読解のトレーニング③	授業時に指示した文献の講読
	6	(特) 文章読解のトレーニング④	授業時に指示した文献の講読
	7	(特) レジュメ作成と報告①	レジュメ作成に関する文献の講読
	8	(対) レジュメ作成と報告②	レジュメ作成に関する文献の講読
	9	(対) レジュメ作成と報告③	レジュメ作成に関する文献の講読
	10	(対) レジュメ作成と報告④	レジュメ作成に関する文献の講読
	11	(対) 学外フィールドワーク	フィールドワークのデータ整理
	12	(対) 報告書の作成①	報告書作成に関する文献の講読
	13	(対) 報告書の作成②	報告書作成に関する文献の講読
	14	(対) 報告書の作成③	報告書作成に関する文献の講読
	15	(対) 前期のふり返り	前期の総合的な復習
	16	(対) 後期のガイダンス・グループ編成	授業時に指示した文献の講読
	17	(対) テーマ設定と役割分担	授業時に指示した文献の講読
	18	(対) 文献・資料調査のトレーニング①	調査に関する文献の講読
	19	(対) 文献・資料調査のトレーニング②	調査に関する文献の講読
	20	(対) グループ調査の準備①	調査の具体的計画の考案と実施
	21	(対) グループ調査の準備②	調査の具体的計画の考案と実施
	22	(対) グループ調査の準備③	調査の具体的計画の考案と実施
	23	(対) 中間発表①	調査報告書の作成
	24	(対) 中間発表②	調査報告書の作成
	25	(対) グループ調査のまとめ①	調査報告書の修正と発表準備
	26	(対) グループ調査のまとめ②	調査報告書の修正と発表準備
	27	(対) グループ調査のまとめ③	調査報告書の修正と発表準備
	28	(対) 最終発表①	最終報告書の作成
	29	(対) 最終発表②	最終報告書の作成
30	(対) 最終発表③	最終報告書の作成	
31	(対) 後期のふり返り	後期の総合的な復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定しない。適宜、資料を配布する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 与えられた課題に取り組むだけでなく、自ら積極的に学術書を読むようにする。</p>
	<p>評価 原則として、授業参加度（40%）、発表・調査報告・課題（60%）を総合し評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 演習 I、演習 II</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	通年	水3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本セミナーでは、共同学習を通じて、学生ひとりひとりが大学で学ぶための基礎的な知識や技能を習得し、4年間の学生生活を軌道に乗せることを目的とします。	メッセージ 新入生の皆さんに、学生間、教員とのコミュニケーションの場を提供します。一緒に、学生としての意識、方法、目的を明確にしていきたいと思います。
	到達目標 ・大学生活の基盤（規則的生活・友人関係・自学自習の習慣）を作る。 ・大学で学ぶための基本的スキル（読む、書く、聴く、伝える、対話する力）を習得する。 ・他者とのコミュニケーションや協働を通じて、自分自身の興味関心や学習目的を研ぎ澄ませる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期ガイダンス、自己紹介	シラバスの熟読
	2	仲間とともに学ぶ・自己紹介・他者紹介	各自配布課題に取り組むこと
	3	大学での学びと自己管理	各自配布課題に取り組むこと
	4	講義を傾聴しメモをとる、リアクションペーパーを利用する	各自配布課題に取り組むこと
	5	PCスキルを確認する	各自配布課題に取り組むこと
	6	レポートの作成①文章構成	各自配布課題に取り組むこと
	7	レポートの作成②出題意図	各自配布課題に取り組むこと
	8	レポートの作成③参考文献	各自配布課題に取り組むこと
	9	図書館を活用する	各自配布課題に取り組むこと
	10	レポートの作成④要約と縮約	各自配布課題に取り組むこと
	11	レポートの作成⑤校正	各自配布課題に取り組むこと
	12	レジュメの発表①	各自配布課題に取り組むこと
	13	レジュメの発表②	各自配布課題に取り組むこと
	14	レジュメの発表③	各自配布課題に取り組むこと
	15	大学生活と自分の将来	各自配布課題に取り組むこと
	16	まとめ	各自配布課題に取り組むこと
	17	後期ガイダンス、グループ編成	
	18	話し合いと仮テーマの設定	各自、事前にテーマ案を探す
	19	グループ調査①	グループで協力して調査を行う
	20	グループ調査②	グループで協力して調査を行う
	21	中間発表①	グループで課題に取り組む
	22	中間発表②	グループで課題に取り組む
	23	アウトラインの作成と提出	グループで課題に取り組む
	24	グループ調査③	グループで協力して調査を行う
	25	グループ調査④	グループで協力して調査を行う
	26	グループ調査のまとめ①	グループで課題に取り組む
	27	グループ調査のまとめ②	グループで課題に取り組む
	28	最終プレゼンテーション①	グループで課題に取り組む
	29	最終プレゼンテーション②	グループで課題に取り組む
30	最終プレゼンテーション③	グループで課題に取り組む	
31	まとめ	各自配布課題に取り組むこと	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 授業内容に応じて、プリントを配布します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 本セミナーは、大学4年間の学びの基盤となる授業です。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回出席をとります。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前に必ず連絡してください。</li> <li>・入学から卒業までをともにする仲間たちを尊重し、一緒に学ぶ姿勢を持ちましょう。</li> <li>・日常的に新聞を読み、沖縄、日本、世界の動向に関心を持ちましょう。</li> <li>・毎回授業では課題を課します。</li> <li>・自分自身の学びや興味関心を確かめ、継続的に本を読んで学びを深めていきましょう。</li> </ul> </p>
	<p>評価 平常点50%（出席状況、授業への参加、課題への取り組み）、期末課題50%（レポート）をあわせて総合的に評価します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 2年次配当科目の「領域演習」が上位科目になります。フレッシュマンセミナーで会得した学びの基礎や習慣を      抛りどころに、専門的な方法論を修得し、自分自身の言葉を育てていきましょう。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	通年	水3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	秋山 道宏	1年	オフィスアワーおよび学内メールで随時対応する。	

学びの準備	ねらい 大学生活における基本的な態度を身につけつつ、社会文化学科の学びにおいて必要とされる基礎的な技能と考え方を習得する。そのために、実践的な課題を設定して取り組む。	メッセージ 身近な疑問や問いを大切にしつつ、技能習得だけでなく、大学での学びに必要な姿勢と知的好奇心も培ってほしい。
	到達目標 到達目標は以下の3つとなる。 (1) 専門的な文章を理解する能力を身につける。 (2) 伝達力をもった報告を作成する能力を身につける。 (3) テーマに対応したグループ調査を行う能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期の課題と進め方についてのガイダンス（社会文化学科での学びと基本的な姿勢について）。	配布資料の精読と理解
	2	自己紹介をしてみよう（自分史と大学での学びを結び付けて考える）	事前課題への取り組みと資料の精読
	3	「大学生になる」とはどういうことか？	事前課題への取り組みと資料の精読
	4	大学のことを知ろう①	事前課題への取り組みと資料の精読
	5	大学のことを知ろう②	事前課題への取り組みと資料の精読
	6	調べ物をするには？①図書館活用術	事前課題への取り組みと資料の精読
	7	調べ物をするには？①インターネット活用術	事前課題への取り組みと資料の精読
	8	文章読解のトレーニング①	事前課題への取り組みと資料の精読
	9	文章読解のトレーニング②	事前課題への取り組みと資料の精読
	10	レジュメ作成と報告のトレーニング①	事前課題への取り組みと資料の精読
	11	レジュメ作成と報告のトレーニング②	事前課題への取り組みと資料の精読
	12	レポートってどう書くの？①	事前課題への取り組みと資料の精読
	13	レポートってどう書くの？②	事前課題への取り組みと資料の精読
	14	レポートってどう書くの？③	事前課題への取り組みと資料の精読
	15	前期課題の提出と振り返り	達成点と課題の確認
	16	後期の課題と進め方についてのガイダンス（前期の振り返り）（対）	配布資料の精読と理解
	17	調査テーマの設定と役割分担（対）	グループによる検討と資料作成
	18	関連文献・資料調査のトレーニング①（対）	グループによる検討と資料作成
	19	関連文献・資料調査のトレーニング②（対）	グループによる検討と資料作成
	20	グループ調査の準備状況の報告①（対）	グループによる検討と資料作成
	21	グループ調査の準備状況の報告②（対）	グループによる検討と資料作成
	22	調査の中間報告①（対）	報告資料の作成
	23	調査の中間報告②（対）	報告資料の作成
	24	調査の中間報告③（対）	報告資料の作成
	25	調査内容のまとめと報告資料の作成①（対）	グループによる検討と資料作成
	26	調査内容のまとめと報告資料の作成②（対）	グループによる検討と資料作成
	27	調査内容のまとめと報告資料の作成③（対）	グループによる検討と資料作成
	28	調査の最終報告①（対）	報告資料の作成
	29	調査の最終報告②（対）	報告資料の作成
30	調査の最終報告③（対）	報告資料の作成	
31	後期の振り返り（対）	達成点と課題の確認	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など テキスト等は指定せず、課題に応じて必要な資料を配布する。</p>
	<p>学びの手立て 課題に取り組む中での「気づき」や調査による「発見」をメモ等に残し、必要に応じて再確認しながら取り組むことが重要となる。また、セミナーは、集団での学習の場であるため、他のセミナー参加者による報告や参加しているグループ以外の報告についても、質問やコメントをすることで理解を深め、自身の課題への取り組みにも生かしてほしい。</p>
	<p>評価 参加姿勢30%、課題の取り組みと報告内容70%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 各自が選択する2年次の領域演習につながる</p>

科目基本情報	科目名 フレッシュマンセミナー	期別	曜日・時限	単位
		通年	水3	4
	担当者 市川 智生	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	t. ichikawa@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、大学で学び、自ら調べ考えたことを発信（文章作成、プレゼンテーション）するための基礎訓練を行う。文章を読む、書く、調べた内容を伝える、討論するといった事柄について、準備の過程からその実践までを扱う。	メッセージ 本ゼミで習得したことは、大学で学ぶ基礎となります。ゼミでの討論やグループワークを通して積極的な姿勢を身につけてください。
	到達目標 ①講義や討論の内容をノートにまとめ、理解した点と疑問点を明確にすることができる。 ②新聞の社説、新書レベルの文章を正確に読解し、要約を作成することができる。 ③興味を持ったことについて、テーマを具体化し、調査を実践することができる。 ④上記の内容について、他人に口頭で説明し（プレゼンテーション）、論理的な文章を書くことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講ガイダンス：みなさんは自己紹介できますか？	事前にシラバスを熟読のこと。
	2	大学で学ぶとは？：社会文化学科での4年間と学問領域	資料の復習、学習内容の実践。
	3	ノートの取り方：映画を見てノートを取れますか？	資料の復習、学習内容の実践。
	4	大学でのコミュニケーション：知らない人にメール出したことありますか？	資料の復習、学習内容の実践。
	5	文章の読解と要約の作成①	資料の復習、学習内容の実践。
	6	文章の読解と要約の作成②	資料の復習、学習内容の実践。
	7	図書館オリエンテーション（予定）	資料の復習、学習内容の実践。
	8	ゲスト講師による講演（予定）	事前情報を自分で収集する。
	9	論理的な文章を書く①	資料の復習、学習内容の実践。
	10	論理的な文章を書く②	資料の復習、学習内容の実践。
	11	論理的な文章を書く③	資料の復習、学習内容の実践。
	12	発表の準備をする①：レジメの作成	資料の復習、学習内容の実践。
	13	発表の準備をする②：レジメの作成	資料の復習、学習内容の実践。
	14	予備日（講義またはフィールドワーク）	資料の復習、学習内容の実践。
	15	前期のまとめ	資料の復習、学習内容の実践。
	16	(対) 前期課題の発表と講評	資料の復習、学習内容の実践。
	17	(対) 発表の準備をする①：レジメの作成	資料の復習、学習内容の実践。
	18	(対) 発表の準備をする②：レジメの作成	資料の復習、学習内容の実践。
	19	(対) フィールド・ワーク入門編①：フィールド・ワークとは何か。	資料の復習、学習内容の実践。
	20	(対) フィールド・ワーク入門編②：研究倫理と調査被害。	資料の復習、学習内容の実践。
	21	(対) フィールド・ワーク入門編③：テーマを決め、計画を立てる。	資料の復習、学習内容の実践。
	22	(対) フィールド・ワーク入門編④：計画の発表と修正。	資料の復習、学習内容の実践。
	23	(対) フィールド・ワークの準備編①：グループごとに計画に沿って下調べをする。	資料の復習、学習内容の実践。
	24	(対) フィールド・ワークの準備編②：グループごとに計画に沿って下調べをする。	資料の復習、学習内容の実践。
	25	(対) 発表の準備をする③：パワーポイントによるスライド作成（その1）	学習内容の実践。
	26	(対) 発表の準備をする④：パワーポイントによるスライド作成（その2）	資料の復習、学習内容の実践。
	27	(対) フィールド・ワーク中間報告	資料の復習、学習内容の実践。
	28	(対) 予備日（キャリアガイダンスあるいはフィールドワークの準備）	発表の準備、事後の復習。
29	(対) フィールド・ワーク実践編：プレゼンテーション①	発表の準備、事後の復習。	
30	(対) フィールド・ワーク実践編：プレゼンテーション②	発表の準備、事後の復習。	
31	(対) まとめ：1年間で学んだ内容を振り返り、2年次以上にどうつなげるか？	学習内容の実践。	



学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは指定せず、毎週資料を配布する。なお、アカデミック・スキルズについては、以下の参考文献を頻繁に参照する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石黒圭『論文・レポートの基本』（日本実業出版社、2012年、ISBN-13: 978-4534049278）</li> <li>・佐藤望ほか編『アカデミック・スキルズ(第3版)：大学生のための知的技法入門』（慶應義塾大学出版会、2020年、ISBN: 978-4766426564）</li> </ul>
学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①履修の心構え <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の読解や作成などで頻繁に課題を出すので、必ず提出すること。</li> <li>・ゼミでは積極的に発言すること。（県外や海外からの講師による講演の際は特に。）</li> <li>・遅刻、欠席をしないこと。（特に自分の発表の無断欠席は厳禁。）</li> <li>・【重要】講義時間中はスマートフォンの使用を禁止します。必ずカバンの中にしてしまうこと。</li> </ul> </li> <li>②学びを深めるために <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で学習する内容を、常に自分の生活との関連で考えてみること。</li> <li>・新聞、ニュース、ほかの講義なども、自らの文章の作成やプレゼンテーション能力向上の材料とすること。</li> </ul> </li> </ul>
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①講義中の小課題への取り組み（要約作成、レジюме作成、文章作成など）（5点×10回=50点）</li> <li>②前期レポート（25点）</li> <li>③年度末レポート（25点）</li> </ul> <p>以上の計100点満点で評価する。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義は、2年次の「領域演習」、3,4年次の「演習」でのゼミ活動の基礎となる。</p>

科目基本情報	科目名 フレッシュマンセミナー	期別 通年	曜日・時限 水3	単位 4
	担当者 及川 高	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ t.oikawa@okiu.ac.jp アポを取って研究室(5511)に相談しに来てよい	

学びの準備	ねらい 大学で学ぶための基本的知識・技術を身につけることが目的である。ここで言う技術とは、「論文や専門書を探し、読むこと」「情報を整理すること」「生産的な議論をすること」「成果をまとめること」「書くこと」「発表すること」等を指している。具体的な課題研究に取り組み、それらの習得を目指す。またインターネット上の情報の扱いや、研究者倫理の考え方も解説する	メッセージ 大学の学びを豊かなものにするためには、自ら問いを立て、それに主体的に取り組んでいく姿勢が求められます。初年次のペースメーカー的なゼミでもあるので欠かさず出席し、大学での学びのリズムを作ってください。
	到達目標 自分で必要な資料や文献を探し出せること。またその内容を適切につかみ、文章への表現ができるようになること。加えて写真や図表による表現も使いこなせるようになることが望ましい	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期ガイダンス 自己紹介とアイスブレイク このゼミの進め方と評価の仕方	メールアカウントの確認
	2	メールの書き方	実際にメールを書いてみる
	3	インターネットで文献を探す リストを作る	文献リストを作成し、添付して送る
	4	レポートの書き方① レポートとは 出題者の要求を捉える 客観的に書く	レポートを書く
	5	レポートの書き方② 見解と根拠	小論文を読み、要約してくる
	6	主張・見解を要約する①	小論文を読み、要約してくる
	7	主張・見解を要約する②	小論文を読み、要約してくる
	8	主張・見解を要約する③	小論文を読み、要約してくる
	9	主張・見解を要約する④	2つの小論文を読み、要約してくる
	10	対立する見解を1つの文章に整理する①	2つの小論文を読み、要約してくる
	11	対立する見解を1つの文章に整理する②	2つの小論文を読み、要約してくる
	12	対立する見解を1つの文章に整理する③	複数の小論文を読み、要約してくる
	13	複数の見解を1つの文章にまとめる①	複数の小論文を読み、要約してくる
	14	複数の見解を1つの文章にまとめる②	複数の小論文を読み、要約してくる
	15	複数の見解を1つの文章にまとめる③	夏休みの課題に取り組む
	16	予備日	
	17	(対) 後期ガイダンス 後期の進め方 レビュー論文とは何か?	配付の論文を読んで、批判を作る
	18	(対) 論文を批判する①	配付の論文を読んで、批判を作る
	19	(対) 論文を批判する②	配付の論文を読んで、批判を作る
	20	(対) 論文を批判する③	配付の論文を読んで、批判を作る
	21	(対) 論文を批判する④	レビューを書く論文を決めてくる
	22	(対) レビューする論文の振り分け	プレゼンを作ってくる
	23	(対) 論文の要約と批判①	プレゼンを作ってくる
	24	(対) 論文の要約と批判②	プレゼンを作ってくる
	25	(対) 論文の要約と批判③	プレゼンを作ってくる
	26	(対) 論文の要約と批判④	レビュー論文の初稿を書いてくる
	27	(対) レビュー論文中間報告①	論文の執筆
	28	(対) レビュー論文中間報告②	論文の執筆
	29	(対) レビュー論文最終報告	論文の執筆
30	(対) 論集の作成と校正	校正を行い、完成させる	
31	(対) 通年のまとめ		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 適宜コピーを配付する。なお一部の回において、ゼミ生に論文の選択やレジユメの作成を指示する。期日に遅れると配付できないので注意すること。</p>
	<p>学びの手立て 「読むこと」と「書くこと」を徹底的に訓練する。まずはまとまった分量の文章を読む習慣をつけること。ゼミの中では継続的に文章を書かせる課題を課し、相互に批判しながら技術の向上を図る。課題には必ず期日通りに取り組むこと。</p>
	<p>評価 前期は論文の要約を軸に、複数の異なる見解を整理する訓練を行う。後期は前期の経験を踏まえ、論文を1本選び、それを批判するレビュー論文を書く。これを以下の4点から評価する。①期日通りかつ継続的な課題の提出(20%)、②課題およびプレゼンの内容の丁寧さと適切さ(30%)、③グループワークへの積極的参加と貢献(30%)、④指摘のフィードバックによる成長(20%)</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 領域演習</p>

※ポリシーとの関連性 グローバル化時代において「他者」理解もまた必須である。本講義の目的は、異文化理解の基礎を提供することにある。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学概論	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	1年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「文化人類学」とは、「文化」というキーワードをもとに、世界各地の諸社会と総体としての人類社会について、その多様性と共通点を明らかにしようとする学問分野である。本稿講義では、「人間と文化」という視点から、人類社会に関わる様々なトピックを取り上げて、人類とは何か、人類社会とは何かについて、考えていく。</p>	<p>日本の人口は世界の1/60である。140万人の沖縄県に至っては1/5200に過ぎない。「自文化」理解は大切だが、沖縄・日本だけが世界ではない。世界の諸社会・文化を知ることが、沖縄・日本の社会・文化的特徴を「再発見」することにつながる。本講義を通じて人類社会・文化の多様性と共通性を認識し、「アジア・世界のなかの沖縄・日本」を考えることのできる人材を目指して欲しい。</p>
到達目標	世界各地の諸社会・文化に関する基礎的な知識を身に付け、比較という観点から人類社会・文化の多様性と共通点を考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	文化人類学について調べよう。
	2	「文化」とは何か？——人類学と「異文化」理解	「文化」概念について考えよう。
	3	文化人類学の方法論——「社会・文化」を読み解くために	文化人類学の独自性とは何か。
	4	映像鑑賞	「文化」を扱った作品を探そう。
	5	家族と親族（1）——親族研究の基礎と人類学	親族関係の多様性を知ろう。
	6	家族と親族（2）——キンドレッド／出自／婚姻	親族の役割について考えよう。
	7	贈物のヒミツ——贈与・交換の原理と「社会」	身の回りの贈物を考えよう。
	8	認識／コミュニケーション／儀礼	儀礼の意味について考えよう。
	9	「死」の扱い方と宗教——究極問題へのアプローチ 映	宗教の多様性を考えよう。
	10	映像鑑賞	身近な「儀礼」を探してみよう。
	11	政治と権力——人類社会における諸政治形態と権力	身近な「政治」を探してみよう。
	12	身体とジェンダー——オトコ（△）であること、オンナ（○）になること	ジェンダーの構築性を知ろう。
	13	自然／環境／資源化——人類と自然・環境との関係	自然・環境と人類を考えよう。
14	アイデンティティ／民族／ナショナリズム	「自己／我々」の成立を考えよう。	
15	まとめ——「人類社会理解」への果敢な挑戦	人類学を学ぶ意義を考えよう。	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは特になし。（毎回の講義でレジュメおよび資料を配布する）</li> <li>・主要参考文献は次の通り。 石川栄吉ほか(編)1995『文化人類学事典』弘文堂 米山俊直(編)1995『現代人類学を学ぶ人のために』世界思想社 綾部恒雄／桑山敬己2010『よくわかる文化人類学』（第2版）ミネルバ書房</li> </ul>		
	学びの手立て		
	<p>「他者」を知ることは、より深い「自己」理解のための必須条件である。世界各地の社会・文化に関するニュース報道などの関心をもち、欧米だけでなくアジア／アフリカ／太平洋／中南米地域の社会・文化と沖縄・日本のそれとを比較する視点を養ってほしい。「他者」に関心をもつ者には、「自己」しか知らない者よりも、より多くの「発見」を得られるはずである。</p>		
	評価		
	<p>平常点（30％）、筆記試験（70％） 毎回の授業時に、出席および授業参加姿勢を確認するため、レスポンス・ペーパー（感想、コメント、質問）の提出をもとめる。また、学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	文化人類学理論、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、多民族論、etc.

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学理論	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	2年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義の目的は、文化人類学の諸理論について基礎的な理解を得ることにある。本講義に先立つ「文化人類学概論」では、生活に関連した諸トピックを例に、人類社会・文化の多様性と共通点を論じた。それを踏まえて本講義では、これまでに提出されてきた様々な理論(≒「メガネ」)をレビューすることで、世界の諸社会・文化の理解が「自文化理解の深化」につながることを学ぶ。</p>	<p>人文・社会科学における「理論」とは、事象をより説得的に説明するための「メガネ」である。社会・文化人類学が用いてきた様々な「理論≒メガネ」の存在を知る者は、より多くの「世界(人類社会・文化)の秘密」を発見することができる。人類学理論によって発見された「秘密」は、あなたが限りある人生を生きていく上で、極めて有用なものとなるだろう。</p>
到達目標	<p>社会・文化人類学の諸理論(≒メガネ)に関する基礎的な知識を身に付け、人々が普段の生活では意識することが少ない「自文化」を含む世界各地の諸社会・文化の構造やメカニズム、すなわち「世界の秘密」を理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	文化人類学について調べよう。
	2	「文化人類学」とは何か?—人類学と「異文化」理解	「文化」概念について考えよう。
	3	人類進化の歴史—地球/生物/人類の歴史	人類の歴史を調べよう。
	4	社会進化論・伝播論・新進化論—人類史の一般化	人類学最初の理論を学ぼう。
	5	文化とパーソナリティ論・心理人類学—「文化の型」・民族性	国民・民族性について考えよう。
	6	映像鑑賞—人類学者の仕事、『南太平洋の人々』	フィールドワークを学ぼう。
	7	機能主義(1)—「社会の仕組み」を考える	自文化社会の仕組みを考えよう。
	8	機能主義(2)—「社会関係の基礎」としての「親族」	身近な「親族」を調べよう。
	9	構造主義(1)—発想の由来とエッセンス	構造主義の特徴を調べよう。
	10	構造主義(2)—構造分析とその影響力	構造主義の議論を調べよう。
	11	映像鑑賞—構造主義の復習&応用編 『音楽の正体』	構造分析にトライしてみよう。
	12	認識・象徴人類学と解釈人類学—「文化」の捉え方	「文化」の可変性を考えよう。
	13	構造と実践—構造/歴史/主体性	無意識の「文化」を考えよう。
	14	日本の人類学—歴史と現在	日本の人類学について調べよう。
15	まとめ—人類学理論と人類社会・文化の理解	文化人類学の意義を考えよう。	
16	期末テスト		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは特になし。(毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する)</li> <li>・主要参考文献は次のとおりである。</li> </ul> <p>綾部恒雄(編)2006『文化人類学20の理論』弘文堂。          石川栄吉ほか(編)1995『文化人類学事典』弘文堂。          バーナード、A.2005『人類学の歴史と理論』明石書店</p>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの手立て	<p>「他者」を知ることは、より深い「自己」理解のための必須条件である。世界各地の社会・文化に関するニュース報道などに興味をもち、欧米だけでなくアジア/アフリカ/太平洋/中南米地域の社会・文化と沖縄・日本のそれとを比較する視点を養ってほしい。「他者」に関心をもつ者には、「自己」しか知らない者よりも、より多くの「発見」を得られるはずである。</p>
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価	<p>毎週の小課題(40%)、期末課題(60%)</p>
----	------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、多民族論、etc.</p>
-------	-----------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名 平和運動史	期別	曜日・時限	単位
	担当者 秋山 道宏	前期	火 3	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	講義終了後の教室およびオフィスアワー	

学びの準備	ねらい 現在、軍事化が進む中、戦後日本が掲げてきた「平和主義」や「平和国家」とはどのようなものであったのかを改めて検討する必要がある。この講義では、憲法が掲げる理念の実現をなにかが阻んできたのか、また、その障害のなかでも平和の実現のために展開された数々の運動の歴史について学ぶ（沖縄での平和運動の歴史も含め）。映像資料も活用する。	メッセージ 「平和とはなにか、平和の実現にはなにかが必要か」といった素朴だがとても重要な問いについて、歴史に学びながら真剣に考え、議論できる学生の参加を期待する。
	到達目標 平和運動史の受講を通して、以下の二つを学習成果として得ることができる。 ①戦後の日本と沖縄における平和運動の歴史を学ぶことで、憲法において提示された「平和主義」について理解を深めることができる。 ②①を前提としながら、これからの「平和とはなにか、平和の実現にはなにかが必要か」を考え、議論し、実践することができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス。平和運動史ではなにかを扱うか。
	2	イントロダクション 日本・沖縄の「いま」から平和運動を考える。（課題研究）
	3	戦争をさせないたたかい①反基地闘争の歴史（1）沖縄における島ぐるみ闘争。（課題研究）
	4	戦争をさせないたたかい②反基地闘争の歴史（2）日本本土の反基地闘争。
	5	戦争をさせないたたかい③原水爆禁止運動（反核運動）のたかまり。
	6	企業・国家・公害とのたたかい①朝日訴訟、「人間裁判」と呼ばれたたたかい。
	7	企業・国家・公害とのたたかい②水俣病と公害訴訟のひろがり。
	8	企業・国家・公害とのたたかい③ハンセン病差別と権利回復運動の歴史。
	9	ゲスト講義（沖縄における平和運動に関連して）
	10	現代におけるたたかい①9.11とイラク反戦運動。
	11	現代におけるたたかい②3.11以降の反原発運動。
	12	現代におけるたたかい③安保法制（戦争法）制定後の対抗運動を考える。
	13	まとめ①日本・沖縄の「いま」と世界の変化。
	14	まとめ②日本・沖縄の「いま」と世界の変化。
	15	全体のまとめとレポート提出
16		
	時間外学習の内容	
	シラバスを事前に読んでおくこと。	
	講義の復習。	
	講義の復習。	
	講義の復習。	
	講義の復習。	
	講義の復習。	
	講義の復習。	
	講義の復習。	
	講義の復習。	
	講義の復習。	
	講義の復習。	
	講義全体の復習。	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。 参考文献として、以下の本を挙げておく。授業でも随時紹介する。 ・梶原渉・城秀孝・布施祐仁・真嶋麻子編著『18歳からわかる 平和と安全保障のえらび方』（大月書店、2016年） ・広川禎秀・山田敬男編著『戦後社会運動史論1〜3』（大月書店、2006年・2012年・2018年）
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え ・講義もコミュニケーションの一つである。周囲の受講生や教員との信頼関係で成り立ち、その中で、より良い学習ができることを意識してほしい。受講中の私語や携帯電話・スマートフォンの使用など、講義の進行や周囲への迷惑となる行為は禁止する。 学びを深めるために ・新聞に日常的に目を通すこと。講義で取り上げた内容をより深く理解することが可能となる。
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの実践	評価 (1) 参加態度 (30%) (2) 課題研究 (20%) …課題を示し、回答を提出してもらう。 (3) 学期末レポート (50%) …授業全体の内容に関連し、自ら問いを設定し、レポートを作成してもらう。 詳細については、初回のガイダンスにてお知らせする。
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会・平和領域のその他の専門応用科目。実習（演習Ⅰ）および演習Ⅱ。
-------	--------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和学概論	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	秋山 道宏	1年	講義終了後の教室およびオフィスアワー	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	いま沖縄で問われ続けていることを出発点としつつ、いくつかの具体的な問題に焦点を当てながら、平和学の入口を紹介していく。そのために、「戦争と国家」という問題設定から世界史的な動向にも視野を広げ、身近な暴力性を含めて問い直すために構造的暴力の視点を重視し、平和学の広がり理解できるように講義を展開する。	「平和」という言葉を聞いたとき、どのような状態を想像するであろうか。この講義での学びを通して、身近な問題と結びつけて「平和」を捉える視点と、戦争や暴力を批判的、構造的に捉える思考力を養ってほしい。
到達目標	人びとの権利や尊厳、それを脅かす問題に目を向け、地域の視点と世界的な視点の双方を用いて思考する力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容と課題についてのガイダンス (対)	配布資料の精読
	2	沖縄から考える① 基地問題の起源 (対)	配布資料の精読と文献の参照
	3	沖縄から考える② 基地集中と固定化 (対)	配布資料の精読と文献の参照
	4	沖縄から考える③ 戦争体験の記憶と記録 (対)	配布資料の精読と文献の参照
	5	沖縄から考える④ アジアのなかでの沖縄 (熱戦と冷戦) (対)	配布資料の精読と文献の参照
	6	沖縄から考える⑤ 核兵器・大量破壊兵器と沖縄 (対)	配布資料の精読と文献の参照
	7	戦争と国家① 総力戦の世紀 (対)	配布資料の精読と文献の参照
	8	戦争と国家② メディアと戦意 (対)	配布資料の精読と文献の参照
	9	戦争と国家③ 軍産複合体 (対)	配布資料の精読と文献の参照
	10	戦争と国家④ 核の“平和利用” (対)	配布資料の精読と文献の参照
	11	構造的暴力① 平和学とガルトゥングの視点 (対)	配布資料の精読と文献の参照
	12	構造的暴力② 貧者の徴兵制 (経済的徴兵制) (対)	配布資料の精読と文献の参照
	13	構造的暴力③ 軍隊と性暴力 (対)	配布資料の精読と文献の参照
14	構造的暴力④ 国策と地域 (対)	配布資料の精読と文献の参照	
15	構造的暴力⑤ 沖縄の経験を読み解くおよび全体のまとめ (対)	配布資料の精読と文献の参照	
16		講義内容の復習と要約	
実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用せず、必要な資料は教室で配布する。参考文献としては次の四点を挙げておく。 石原昌家ほか編『沖縄を平和学する！』（法律文化社、2005年） 岡本三夫ほか編『新・平和学の現在』（法律文化社、2009年） 星野英一ほか著『沖縄平和論のアジェンダ：怒りを力にする視座と方法』（法律文化社、2018年） 最上敏樹『いま平和とは』（岩波新書、2006年）		
	学びの手立て 各テーマに関する配布資料や文献を精読するとともに、関連図書や新聞を調査して問題を発見する。		
	評価 授業への参加態度と理解度30%、中間レポート30%、学期末レポート40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会・平和領域の専門基礎科目
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和教育学	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-北上田 源	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄ではさかんに平和教育が行われているものの、それがどのような社会的背景や学問的研究の成果に基づいて変遷してきたのかは知られていない。本講義では、これまで行われてきた特徴的な平和教育実践に着目し、模擬授業およびその実践の背景に関しての解説を通して、今後の平和教育のあるべき姿について考える。</p>	<p>みなさんがこれまで受けてきた平和学習はどのようなものでしたか？それは沖縄・日本・世界の平和教育の変遷の中でどのように位置づけられるものなのでしょうか？本講義では、平和教育の授業実践に焦点を当て、時代や地域・国によって変化する平和教育の多様性/多層性について学び、今後の平和教育のあり方を考えていきます。特に、教員を目指す方にはぜひ受講してほしいと思います。</p>
到達目標	<p>①それぞれの時代・地域・国によって多様な平和教育があることを理解できる。                  ②沖縄戦や沖縄の基地問題についてこれまでどのような平和教育実践が行われてきたかを、社会的背景や学術研究の成果との関連で理解できる。                  ③国内や海外でこれまでどのような平和教育実践が行われてきたかを、社会的背景や学術研究の成果との関連で理解できる。                  ④これまでの平和教育の発展・成果を踏まえて、今後のあるべき平和教育の創造に寄与できる力をつける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	自分たちが経験してきた平和学習を振り返ろう①	記憶にある平和学習を振り返る
	3	自分たちが経験してきた平和学習を振り返ろう②	記憶にある平和学習を振り返る
	4	基地問題を取り上げた平和教育実践-沖国大ヘリ墜落事故を取り上げた授業実践	沖国大ヘリ墜落事故について調べる
	5	基地問題を取り上げた平和教育実践の背景-基地問題の何をどう教えるか？	沖縄の基地問題について調べる
	6	戦争体験の継承を意図した平和教育実践-身近な人の体験を聞き取る授業実践	身近な人の戦争体験について調べる
	7	戦争体験の継承を意図した平和教育実践の背景-なぜ身近な人を取り上げるか？その意味と課題は？	身近な人の戦争体験について調べる
	8	加害の側面に着目した平和教育実践-アジアでの加害の実態について調べる授業実践	日本のアジア侵略について調べる
	9	加害の側面に着目した平和教育実践の背景-日本はアジアで何をしたか？その責任をどう考えるか？	日本のアジア侵略について調べる
	10	加担・抵抗の側面に着目した平和教育実践-朝日新聞連載「女も戦争を担った」を用いた授業実践	参考資料(授業時に提示)を読む
	11	加担・抵抗の側面に着目した平和教育実践の背景-誰が戦争を推し進めたのか？	参考資料(授業時に提示)を読む
	12	積極的平和について考える平和教育実践-「大切な経験を共有する」平和教育実践	参考資料(授業時に提示)を読む
	13	積極的平和について考える平和教育実践の背景-消極的平和と積極的平和・直接的暴力と構造的暴力	参考資料(授業時に提示)を読む
	14	身近な問題から平和について考える授業実践-人権・平和・環境について考える平和教育実践	参考資料(授業時に提示)を読む
15	身近な問題から平和について考える授業実践の背景-平和とは何か？	参考資料(授業時に提示)を読む	
16	レポート提出		

テキスト・参考文献・資料など	特になし：授業時にプリント配布
----------------	-----------------

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の人数、出身地、関心などに応じて授業内容および順序を変更することがあります。</li> <li>・授業では適宜沖縄戦および基地問題など、平和教育に関する時事問題を取り上げます。新聞等を意識して見ておくことで学習内容についての理解が深まります。</li> <li>・講義中に意見交流や議論の場を頻りに設けるため、積極的な授業参加の姿勢が求められます。</li> </ul>
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点…20点(出欠状況に基づく。授業への積極的な参加が見られる場合には適宜加点する)</li> <li>・小レポート…30点(毎回の講義でA4半分程度の用紙にて小レポートの提出を課す)上記到達目標①②③を評価</li> <li>・最終レポート…50点 上記到達目標④を評価</li> </ul>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会・平和領域の選択科目</p>
-------	----------------------------------------



※ポリシーとの関連性 国際社会で起きていることを事例から各立場の「平和思想」を考え  
る。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和思想	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 尚子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄の平和思想と世界の著名な平和思想者との相違点を考える。また、「平和思想」の運動の中で蔑ろにされた人々の権利回復要求運動を知る。加えて、権力者が使用する「平和」という概念と非戦・非暴力の違いを考える。	メッセージ 沖縄はもとより、世界の代表的な平和思想を知り、様々な考えを取り入れることができるようになる。
	到達目標 目標① 基本の理論を用いて国際問題を分析できる。 目標② 国家の外政策と国内政策の概要を説明できる。 目標③ 安全保障問題と平和の争議を説明できる。 目標④ インターネットや新聞等で平和問題に関わる事柄の情報収集をすることができる。 目標⑤ 時事問題に関して授業中発言することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション	講義内で提示
	2	(特) 平和思想とは何か	講義内で提示
	3	(特) 沖縄の平和思想①ー沖縄の平和思想とは	講義内で提示
	4	(特) 沖縄の平和思想②ー沖縄戦、米軍基地問題を記録する	沖縄県史、市史、字誌
	5	(特) 沖縄の平和思想③ー沖縄戦、米軍基地問題の記録に向き合う	沖縄県史、市史、字誌
	6	(特) 沖縄の平和思想④ー被害者を弔うとは何か	講義内で提示
	7	(対) 公民権運動とBlack Lives Matter①	講義内で提示
	8	(対) 公民権運動とBlack Lives Matter②	講義内で提示
9	(特) 公民権運動とBlack Lives Matter③	講義内で提示	
10	(特) マハトマ・ガンジーとインドの独立運動	『ガンジー自伝』	
11	(特) 7～10回目の講義と沖縄の平和思想との違いを考える	講義内で提示	
12	(特) 先住民族と帰還権	『「先住民」とはだれか』	
13	(特) 米軍基地と帰還権①ーチャゴス諸島	講義内で提示	
14	(特) 米軍基地と帰還権②ーハワイ諸島	講義内で提示	
15	(特) 米軍基地と帰還権③ー沖縄	復習	
16	(特) 期末レポート		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。Webでプリントを配布します。 参考文献：小菅信子編『原点でよむ 20世紀の平和思想』岩波書店、2015年、油井大三郎『好戦の共和国アメリカ』岩波新書、2008年、石原昌家・仲地博編『オキナワを平和学する』法律文化社、2005年、木戸衛一編『平和研究入門』大阪大学出版会、2014年、窪田幸子他『「先住民」とはだれか』世界思想社、2009年、小坂田裕子『先住民族と国際法』信山社、2017年など。		
	学びの手立て 新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など）。講義内では理解度確認のため、受講生へ意見や発言を促すことがある。		
	評価 平常点60%、期末試験40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「平和学」、「国際平和学I」など
-------	---------------------------------

※ポリシーとの関連性

自立した社会人となるために、マスコミによるニュース発信の構造を知り、批判的に読み解く力を身に着ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マスコミ論	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-謝花 直美	2年	授業終了後の教室と、メールで受け付けます。メールは配布物に掲載します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>世論を形成するマスコミの誕生と発展の歴史、機能、課題を、現在社会と結びつけながら、理解する。また、沖縄戦で一度消滅した沖縄のジャーナリズムに関して、戦前から米軍占領期から現在までを、「沖縄ジャーナリズム」として位置づけ、具体的な報道を通して分析する。マスコミの送り出す情報を読み解き、考える作法を身に着ける。</p> <p>到達目標</p> <p>近代社会とともに発展したマスコミの役割と機能、またジャーナリズムとは何かを理解した上で、ふだん接するニュースの背景、読みとく方法、自分に引き寄せて考える方法を身に着ける。</p>	<p>沖縄タイムスの記者として長年取材した経験から、現場に即した、実践的なジャーナリズムの在り方を伝える。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業内容の復習と課題
	2	マスコミの誕生と変遷	同上
	3	マスコミとジャーナリズム	同上
	4	日本のジャーナリズム史①	同上
	5	日本のジャーナリズム史②	同上
	6	取材と報道の自由一法と倫理の観点から	同上
	7	ジャーナリズムの現場① 取材と報道	同上
8	ジャーナリズムの現場② 客観報道の課題	同上	
9	沖縄のジャーナリズム史①	同上	
10	沖縄のジャーナリズム史②	同上	
11	沖縄ジャーナリズムの現場①沖縄戦報道	同上	
12	沖縄ジャーナリズムの現場②基地報道	同上	
13	沖縄ジャーナリズムの現場③女性と子どもの視点から	同上	
14	メディアリテラシーを身に着ける - フェイクニュースの時代に	同上	
15	ネット社会とジャーナリズム	同上	
16	総括・課題提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは特に指定しない。毎回資料を配布する。		
	学びの手立て		
	講義内容をより深く理解するために、新聞を読む習慣を身に着ける。沖縄ジャーナリズムを考える上で、沖縄の県紙（沖縄タイムス、琉球新報）を読む。		
	評価		
	1. レポート・課題 70%、2. 平常点30%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目「沖縄タイムス寄付講座・ジャーナリズム論」

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	民俗学概論	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	1年	t.oikawa@okiu.ac.jp または5511研究室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本民俗学の知見に即して、民俗学的なものの方・考え方について解説する。なお本講義では沖縄県に限らず、日本各地や一部東アジア諸国の事例にも幅広く言及する。テーマごとに1回完結の内容で講義を進めていくが、適宜以前の講義内容にも言及し、生産技術と社会組織、精神文化の複合について理解を深めていく。なお最後に講義内容に則ったレポートを課す。</p>	<p>民俗学の知見を広く浅く扱います。高校までの日本史の知識を前提に、民衆の生活から見たらそれらがどのように捉えられているのか、その一端に触れてもらえればと思います。</p>
到達目標	民俗学の基本的な知識と考え方を身につける。特にその用語や概念について端的に説明できるようになるとともに、それを現実に応用した思考ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス／民俗学の成立と発達	課題およびそのフィードバック
	2	(対) 日本民俗学の先達たち	課題およびそのフィードバック
	3	(対) 常民と常民性	課題およびそのフィードバック
	4	(対) ハレとケそしてケガレ	課題およびそのフィードバック
	5	(対) ムラとイエ	課題およびそのフィードバック
	6	(対) 稲作と畑作	課題およびそのフィードバック
	7	(対) 山民と海民	課題およびそのフィードバック
8	(対) 女性と子供	課題およびそのフィードバック	
9	(対) 老人の文化	課題およびそのフィードバック	
10	(対) 交際と贈答	課題およびそのフィードバック	
11	(対) 盆と正月	課題およびそのフィードバック	
12	(対) カミとヒト	課題およびそのフィードバック	
13	(対) 妖怪と幽霊	課題およびそのフィードバック	
14	(対) 仏教と民俗	課題およびそのフィードバック	
15	(対) 都市の民俗	レポート課題	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回プリントを配付する。綴じるためのファイルを用意しておくことが望ましい。テキストとしては宮田登『民俗学』（講談社学術文庫、2019年）に準拠している。自習したい者、学びを深めたい者は購入することを推奨する。</p>		
学びの手立て	<p>配布資料は過密に作成されている。読み返すことで知識が深まる面もあるため利用すること。また各回において短い課題を課し、その解説を中心とした復習を実施する。</p>		
評価	<p>各回において短い課題を出題する（40％）。また期末にレポートを課す（60％）。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>南島民俗学Ⅰ、南島民俗学Ⅱ、南島民俗学史Ⅰ、南島民俗学史Ⅱ</p>
-------	---------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	民俗・人類学特殊講義Ⅰ	前期	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-磯野 真穂	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 本講義では、食と身体をめぐる日々の現象を文化人類学の視点で理解できるようになることを目指す。	メッセージ ダイエット、脱毛、筋トレ、美容形成など、社会は日々私たちに身体を気遣うよう呼びかけてきます。それだけでなく、何をどう食べたらいいかの情報も日常生活に溢れます。私たちはなぜここまで自分の身体や食に注意を向けさせられるのでしょうか。本講義では、食と身体を医学や栄養学の観点からではなく、他者ととも生きる私たち、という観点から探ります。
	到達目標 具体的な到達目標は、食と身体に関する事象を、文化人類学の理論的枠組みを用いながら、①自身が生きる社会の中に埋め込んで解釈することができ、②かつそれを自分の言葉で表現することができるようになることである。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	文化とは何か？1：食べられるもの、食べられないものを手掛かりに	特になし
	2	文化とは何か？2：お笑いを真剣に考える	講義内容と自身の日常を結びつける
	3	文化とは何か？3：身の回りにある文化的事象を分析する	講義内容と自身の日常を結びつける
	4	「適切な食べ方」と社会1	講義内容と自身の日常を結びつける
	5	「適切な食べ方」と社会2	講義内容と自身の日常を結びつける
	6	「適切な食べ方」と社会3	講義内容と自身の日常を結びつける
	7	「適切な食べ方」と社会4	講義内容と自身の日常を結びつける
	8	身体と生きる：理想体型と社会をめぐる1	講義内容と自身の日常を結びつける
	9	身体と生きる：理想体型と社会をめぐる2	講義内容と自身の日常を結びつける
	10	身体と生きる：理想体型と社会をめぐる3	講義内容と自身の日常を結びつける
	11	身体と生きる：理想体型と社会をめぐる4	講義内容と自身の日常を結びつける
	12	他者ととも生きる1	講義内容と自身の日常を結びつける
	13	他者ととも生きる2	講義内容と自身の日常を結びつける
	14	他者ととも生きる3	講義内容と自身の日常を結びつける
15	他者ととも生きる4	講義内容と自身の日常を結びつける	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など 磯野真穂『なぜふつうに食べられないのか-拒食と過食の文化人類学』（春秋社） 磯野真穂『ダイエット幻想-愛されること、やせること』（ちくまプリマー新書） メリー・ダグラス『汚穢と禁忌』（ちくま学芸文庫） マーヴィン・ハリス『食と文化の謎』（岩波文庫） 浜本満・浜本まり子（編）『人類学のコンセンサス』（弘文社） 比嘉理麻『沖縄の人とバター産業社会における人と動物の民族誌』（京都大学学術出版会）		
	学びの手立て 学習した事柄を自分の日常生活に当てはめ、食と身体についての考察を深めるよう心がけること。		
	評価 講義中に課されるコメントシート50%、期末レポート50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 文化人類学Ⅰ、文化人類学Ⅱ
-------	------------------------------

※ポリシーとの関連性

本科目は、「沖縄」・「フィールドワーク」・「比較文化的観点」を強調する本学科の教育目標の実現において不可欠なものである。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球アジア文化論	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	2年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

本講義では、「アジア」（特に東アジア）のなかの沖縄の文化を、比較文化的あるいは文化人類学的な視点から学ぶ。1年次に学ぶ「民俗学概論」・「文化人類学概論」をはじめ、民俗・人類学関連の講義・ゼミでの学習を踏まえ、「琉球・沖縄文化」を広く「東アジアの諸文化」のなかに位置づけることを目指す。

琉球弧の島々の歴史や文化を学ぶことはとても大切である。しかし、その特徴は周辺諸地域との比較を通じてこそより一層明らかになる。公務員・教員としてこの社会を支えるにしても、あるいは観光業その他の民間企業で働くとしても、この島々で育まれてきた文化の特徴を理解することは極めて重要である。「沖縄を知り、さらにその先に進もう！」とする学生の志に期待したい

本講義を履修するのにあたっては、その前段階として、沖縄文化入門、民俗学概論、文化人類学概論、アジア文化概論などの科目を履修している必要がある。また、沖縄文化はもとよりアジア諸地域の文化に関する基礎的理解も重要であるため、南島民俗学史Ⅰ・Ⅱや南島民俗学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳあるいはアジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれか複数の科目を合わせて履修することが望ましい。学生は、本講義の履修によって、沖縄文化を広く「（東）アジア」の諸文化のなかの一つとして位置づけることができるようになる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス——アジアの中の琉球・沖縄	東亜の歴史・文化を調べる。
	2	東アジアの中の琉球・沖縄史	東亜史との関係を調べる。
	3	神話の世界——周辺地域との比較	琉球・沖縄の神話を調べる。
	4	映像鑑賞（1）	関連映像を鑑賞してみよう。
	5	イエと父系制度——東アジア的比較	親族制度を比較する。
	6	葬墓制——風葬／埋葬、洗骨改葬、火葬	葬墓制を比較する。
	7	映像鑑賞（2）	関連映像を鑑賞してみよう。
8	東アジアの中の琉球・沖縄の年中行事	地域の年中行事を調べる。	
9	世界観・神観念——土着信仰と神道、仏教、道教、風水	祭祀の中の諸要素を分析する。	
10	東アジアの中の琉球・沖縄の成長儀礼	成長儀礼の構造を理解する。	
11	映像鑑賞（3）	関連映像を鑑賞してみよう。	
12	久米村と琉球・沖縄文化	久米村の歴史・文化を調べる。	
13	中国的祭礼の受容——王府、久米村、士族、庶民	中国的祭礼様式を調べる。	
14	東アジアの新宗教と琉球・沖縄	各新宗教について調べる。	
15	まとめ	全体の講義内容を復習する。	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など		
	特定のテキストはない。 具体的な参考文献については、毎回の授業で配布するレジюме中で提示する。		
	学びの手立て		
	・周辺アジア地域、特に東アジアの諸社会・文化について関心を払い、沖縄の社会・文化をそれらとの比較において考えることを心掛けてほしい。 ・毎回講義の際に出席確認をかねて受講生にレスポンス・ペーパーの提出を求めるので、毎回の講義の要点を自分なりに整理する癖をつけること。 ・他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意すること。		
	評価		
	毎週の小課題（40％）、期末課題（60％）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本講義で学んだ内容を、各自がレポートや卒業論文を作成する際に活用してほしい。

科目基本情報	科目名 琉球・沖縄史入門	期別 前期	曜日・時限 水 4	単位 2
	担当者 宮城弘樹 4回・深澤秋人 4回・市川智生 3回・藤波潔 4回	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			科目全体について藤波、個別の講義内容については各担当者へ。	

学びの準備	ねらい 本講義は、先史古代から現代に至るまでの南島地域の歴史を、具体的な事象やトピックを通じて学ぶことを通じて、学科のカリキュラム・ポリシーに掲げる「南島地域における基本的な知識の習得」を目指すための科目です。4名の学科専任教員がオムニバス形式で担当します。	メッセージ 導入科目の3科目はいずれも、これから社会文化学科で学ぶために不可欠な基本的知識を学ぶための科目です。本講義では遠隔授業での実施となりますが、高校までの歴史の授業では学べなかった琉球・沖縄史の広がりや固有性をしっかりと学んでほしいと思います。
	到達目標 ① 琉球・沖縄史の具体的なできごとを、理解することができる。 ② 琉球・沖縄史の具体的なできごとについて、自ら調べることができる。 ③ 琉球・沖縄史の具体的なできごとについて、根拠に基づいて、論理的に説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	考古学への招待 (4/8: 宮城)	参考文献の読み込み
	2	沖縄の先史時代 (前半) (4/15: 宮城)	参考文献の読み込み
	3	沖縄の先史時代 (後半) (4/22: 宮城)	参考文献の読み込み
	4	グスク時代 (5/13: 宮城)	参考文献の読み込み
	5	古琉球と近世琉球 (5/20: 深澤)	レジュメの参考文献にあたる
	6	近世の琉球社会①ー地方行政・身分・階層ー (5/27: 深澤)	レジュメの参考文献にあたる
	7	近世の琉球社会②ー割り振られた特産物ー (6/3: 深澤)	レジュメの参考文献にあたる
	8	琉球王国と琉球社会ー「琉球処分」をめぐってー (6/10: 深澤)	レジュメの参考文献にあたる
	9	初期沖縄県政と旧慣温存政策 (6/17: 市川)	第1週から第8週分の復習
	10	日清・日露戦争と沖縄社会 (6/24: 市川)	前回の復習
	11	沖縄と海外移民 (7/1: 市川)	前回の復習
	12	戦世の足音 (7/8: 藤波)	事前配布資料の精読
	13	悲劇の沖縄戦 (7/15: 藤波)	事前配布資料の精読
	14	アメリカ世での復興 (7/22: 藤波)	事前配布資料の精読
	15	ヤマト世への復帰を願って (7/29: 藤波)	事前配布資料の精読
16	まとめ (8/5: 藤波)		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ① テキスト 本講義を受講するためのテキストは使用せず、担当者が講義資料を配信する。 ② 参考文献 各回の内容に関する参考文献は、講義の中で紹介する。
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの実践	学びの手立て ① 履修の心構え 社会文化学科では2年次から始まる領域を、1年次の学年末に選択することとしている。本講義は、そうした領域選択の参考にもなることを意識して受講してもらいたい。 ② 学びを深めるために 講義で学んだ具体的な歴史の事実や関連事項については、講義中に紹介された文献を読んだり、博物館・資料館を訪ねたりして自ら確認するとともに、そうした事実の概要や意義について、自分なりの説明を考える習慣を身につけてほしい。
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの実践	評価 4人の担当者が100点満点で評価した結果を合計し、100点に換算したものを最終成績とする。 なお、担当者ごとの評価方法と割合は下記の通りとする。 宮城：レポート (100%)                      深澤：レポート (100%) 市川：レポート (100%)                      藤波：レポート (100%)
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 1年次後期の考古学概論、歴史学概論、2年次以降の考古先史領域や歴史領域の関連科目。 (2) 次のステージ 本科目で学んだ具体的な知識を、後期開設の概論科目で理論化、体系化できるようにしてください。
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉中交流史	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球王国と中国の明清両朝は、14世紀後半から19世紀後半にいたるまで、国家間の関係を成立させていました。しかし、常に安定した関係ではなく、アジアの歴史の変動を背景とする変化や危機がありました。本講義では、琉中交流史の変遷、琉球の王権や政権にとって琉中交流史が持つ意味を日本を意識しながら考えます。</p>	<p>沖縄県内の博物館の常設展では、琉球・中国交流史に関わる資料が展示されています。また、企画展やシンポジウムが開催されることもあります。博物館やシンポジウムに足を運んでモノや議論に接することをおすすめします。</p>
	到達目標	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・14世紀から19世紀にいたる琉中交流史の変遷をアジアの歴史と関連づけて理解できるようになる。</li> <li>・琉球の王権や政権にとって時期によって異なる琉中交流史が持つ意味を理解できるようになる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) イントロダクション、琉中交流史を始める前に	到達目標を理解する
	2	(対) 琉中交流史の研究の歴史—空白の40年間—	レジュメの参考文献にあたる
	3	(特) 琉球の国家形成と明朝の朝貢システム	レジュメの参考文献にあたる
	4	(対) 琉球の中継貿易①—東南アジア産品と中国商品—	レジュメの参考文献にあたる
	5	(特) 琉球の中継貿易②—16世紀の海域アジア世界—	レジュメの参考文献にあたる
	6	(対) 琉明関係の危機—朝鮮出兵と琉球侵攻の波紋—	レジュメの参考文献にあたる
	7	(特) 明清交替と琉球—南明政権・清朝・抗清復明運動—	レジュメの参考文献にあたる
	8	(対) 講義の折り返し地点で	到達目標を確認する
	9	(特) 近世の琉球王権と冊封—幕藩体制のなかの「異国」—	レジュメの参考文献にあたる
	10	(対) 清代の北京と琉球使節	レジュメの参考文献にあたる
	11	(特) 琉清関係の危機—開港と太平天国運動の影響—	レジュメの参考文献にあたる
	12	(対) 台湾出兵と北京議定書—日清修好条規の批准と前後して—	レジュメの参考文献にあたる
	13	(特) 琉中関係の分断—東アジア国際秩序の再編の一環として—	レジュメの参考文献にあたる
14	(対) 琉中交流史をまとめる前に	到達目標を再確認する	
15	(特) まとめ	関心を持ったテーマを設定する	
16	(対) 期末試験(レポートの場合あり)	到達目標を意識して解答する	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>【テキスト】教科書は使用しません。毎回レジュメと図表などの参考資料を配布します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・荒野泰典ほか「時期区分論」(『アジアのなかの日本史 I アジアと日本』東京大学出版会、1992年)</li> <li>・入間田宜夫／豊見山和行『〈日本の中世5〉北の平泉、南の琉球』(中央公論新社、2002年)</li> <li>・豊見山和行編『日本の時代史18 琉球・沖縄史の世界』(吉川弘文館、2003年)</li> <li>・西里喜行『清末中琉日関係史の研究』(京都大学学術出版会、2005年)</li> </ul>		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画であげたテーマのなかで関心を持ったもの、関心を持ってそうなものを事前にピックアップしておきましょう。</li> <li>・講義を受けながら、中国の歴代王朝のなかでも明朝と清朝の共通点および相違点を考えてみましょう。</li> </ul>		
	評価		
	期末試験もしくはレポート(80%)、授業参加度(20%)によって総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	「アジア史」「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」を受講することを希望します。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	領域演習	通年	木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：崎濱 佳代 後期：秋山 道宏	2年	講義時間およびオフィスアワーに対応する	

学びの準備	ねらい 社会文化学科2年次の「社会・平和領域」の学生を対象として、ゼミナール形式の授業を行う。社会文化学科で取り組む調査・研究の基礎を構築するために、専門用語・概念の理解および専門的な調査の方法を身につけることを目的とする。	メッセージ 専門的な学びの基礎をしっかりと身につけること。
	到達目標 専門的な調査・研究方法の基礎を修得し、3年次の演習と実習に対応できる能力を身につける	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会学とはなにか：これから学ぶこと	授業で指示した課題に取り組む
	2	自己紹介	授業で指示した課題に取り組む
	3	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（家族）	授業で指示した課題に取り組む
	4	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（地域）	授業で指示した課題に取り組む
	5	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（生活）	授業で指示した課題に取り組む
	6	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（社会的役割）	授業で指示した課題に取り組む
	7	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（社会関係資本と連帯）	授業で指示した課題に取り組む
	8	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（社会問題）	授業で指示した課題に取り組む
	9	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（グローバル化と現代①）	授業で指示した課題に取り組む
	10	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（グローバル化と現代②）	授業で指示した課題に取り組む
	11	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（グローバル化と現代③）	授業で指示した課題に取り組む
	12	ビブリオ・バトル①	授業で指示した課題に取り組む
	13	ビブリオ・バトル②	授業で指示した課題に取り組む
	14	ビブリオ・バトル③	授業で指示した課題に取り組む
	15	ビブリオ・バトル④	授業で指示した課題に取り組む
	16	後期の課題と進め方について	配布資料の精読と確認
	17	平和学の入門的文献に関する報告とディスカッション①	文献の精読と報告の準備
	18	平和学の入門的文献に関する報告とディスカッション②	文献の精読と報告の準備
	19	平和学の入門的文献に関する報告とディスカッション③	文献の精読と報告の準備
	20	平和学の入門的文献に関する報告とディスカッション④	文献の精読と報告の準備
	21	新聞記事に関する報告とディスカッション①	新聞記事の調査と報告の準備
	22	新聞記事に関する報告とディスカッション②	新聞記事の調査と報告の準備
	23	新聞記事に関する報告とディスカッション③	新聞記事の調査と報告の準備
	24	新聞記事に関する報告とディスカッション④	新聞記事の調査と報告の準備
	25	フィールドワークの課題と選択肢の説明①課題・目的、参加態度	配布資料の精読と確認
	26	フィールドワークの課題と選択肢の説明②選択肢についての説明	配布資料の精読と確認
	27	調査の対象と目的に関する報告	関連情報の収集と報告の準備
	28	調査報告とディスカッション①	調査内容のまとめと報告の準備
29	調査報告とディスカッション②	調査内容のまとめと報告の準備	
30	調査報告とディスカッション③	調査内容のまとめと報告の準備	
31			



学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【前期】</p> <p>①輪読する社会学の入門的文献については、授業で配布する。</p> <p>②ビブリオ・バトルについては、テーマに関する本を各自選定・準備して対応する。</p> <p>【後期】</p> <p>各回に必要な文献・資料については講義内で提示する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>課題に取り組む熱意とチームワークが不可欠である。</p>
	<p>評価</p> <p>【前期】 参加姿勢20%、各種課題への取り組み40%、報告内容および提出状況40%</p> <p>【後期】 参加姿勢30%、課題への取り組みと報告内容70%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>3年次の演習 I および実習につながる</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	領域演習	通年	木 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：石垣 直 後期：及川 高	2年	石垣 (nishigaki@oku.ac.jp) 及川 (t.oikawa@oku.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の目的は、民俗学ならびに人類学（社会・文化人類学の根幹をなす調査・研究手法である「フィールドワーク」（現地調査）を通じて、対象社会・文化の諸テーマ／トピックに対する理解を深め、その調査成果を整理・分析し、報告書・論文としてまとめる作法の基礎を学ぶことにある。</p> <p>到達目標</p> <p>民俗学および人類学分野における研究の手法を理解し、フィールドワークを実践することで得た調査成果を整理・分析し、報告書あるいは論文としてまとめる。</p>	<p>①テーマ設定→②関連情報の収集・検討→③フィールドワーク→④調査データの整理・分析・発表（他者への説明・説得）。このプロセスを大学時代に経験することは、学生たちが本学卒業後の分野に進もうとも、必ず役に立つはずである。社会文化学科の真骨頂であるフィールドワークから、ぜひ多くのことを学んで欲しい。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	本ゼミで学びたいことを整理する
	2	大学とライフ・プランニング——「自分らしい人生」とは？	大学での学びと人生設計を考える
	3	文献検索の作法	実際に文献を検索してみる
	4	文献要約（1）	記事・論文を要約してみる
	5	文献要約（2）	記事・論文を要約してみる
	6	基本文献の輪読（1）	課題文献を読解する
	7	基本文献の輪読（2）	課題文献を読解する
	8	基本文献の輪読（3）	課題文献を読解する
	9	基本文献の輪読（4）	課題文献を読解する
	10	基本文献の輪読（5）	課題文献を読解する
	11	基本文献の輪読（6）	課題文献を読解する
	12	基本文献の輪読（7）	課題文献を読解する
	13	フィールドワーク（FW）の作法	身の回りでFWに挑戦する
	14	班課題発表（1）	各班で発表の準備をする
	15	班課題発表（2）	各班で発表の準備をする
	16	予備日	予備日
	17	ガイダンス 後期のゼミの進め方・評価の仕方	発表準備&課題の発見
	18	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	19	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	20	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	21	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	22	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	23	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	24	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	25	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	26	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	27	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	28	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	29	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
30	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる	
31	後期まとめ	民族誌を読んでくる	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>石垣：日本文化人類学会（監修）2011『フィールドワーカーズ・ハンドブック』世界思想社          及川：上野和男・高桑守史・福田アジオ・宮田登（編）1987『新版 民俗調査ハンドブック』吉川弘文館</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>各自の身の回りあるいは沖縄各地で行われている祭りや行事などに関心を持ち、その内容を自身で調べてみよう。まずは現場（フィールド）に足を運んでみる。そして、現場で見聞きしたことを（ノート、ICレコーダー、カメラ、ビデオなどを用いて）記録する。その際、重要な情報を持っている人物に接触できるか、どのようにして必要な情報を聞き出すのがポイントになる。文献なども踏まえながら、こうして得られた記録・資料を何度も読み返してさらなる調査を進めるうちに、あなたはあなたが対象とした社会・文化的事象の構造・メカニズムを徐々に理解するだろう。</p>
学 び の 実 践	<p>評価</p> <p>出席および演習への参加姿勢を重視し、総合的に評価する。教員によっては、期末試験あるいは課題レポート（調査報告）を課す場合がある。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>沖縄文化入門、民俗学概論、文化人類学概論、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、文化人類学理論、etc.</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	領域演習	通年	木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：藤波 潔 後期：深澤 秋人	2年	藤波：fujinami@okiu.ac.jp 深澤：a.fukazawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会文化学科では、領域演習を「専門領域における調査・研究の基礎を構築する」科目として位置づけている。したがって、本演習では、歴史学の専門的な研究方法の基礎を修得させることを目的とする。具体的には、歴史研究に不可欠な工具類の活用法、専門文献の収集法、基礎的な歴史概念やフィールドワークを踏まえた歴史事象の理解を目的とする。</p>	<p>歴史領域の受講生は、3年次の演習Ⅰで前近代史と近現代史の2つのゼミに分かれることになる。そのため、演習Ⅰを担当する2人の教員で領域演習を担当するので、3年次以降の演習選択の参考にしてもらいたい。</p>
到達目標	<p>(1) 琉球・沖縄史に関する基本的な歴史概念や歴史事象を理解することができる。                  (2) 歴史研究に必要な研究書や専門論文を収集し、概要を読解することができる。                  (3) 歴史研究に不可欠な工具類やデータベースを利用することができる。                  (4) 歴史史料読解の基本的能力を習得できる。                  (5) フィールドワークに積極的に参加し、五感を活用して歴史理解を深めようとする姿勢を持つことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス (担当：藤波 1～15回)	シラバス内容の理解
	2	歴史研究の全体像を知る	ワークシートの作成・提出
	3	フィールドワーク実習① (不屈館の訪問)	ワークシートの作成・提出
	4	フィールドワーク実習② (波之上地区)	ワークシートの作成・提出
	5	基本的な事実を知る① (基本文献の理解)	ワークシートの作成・提出
	6	基本的な事実を知る② (研究工具の理解)	ワークシートの作成・提出
	7	基本的な事実を知る③ (博物館・資料館の理解)	ワークシートの作成・提出
	8	ガイダンス②	ワークシートの作成・提出
	9	先行研究を調べる① (紀要、専門雑誌を知る)	ワークシートの作成・提出
	10	先行研究を調べる② (史学雑誌を利用する)	ワークシートの作成・提出
	11	史料を集める① (歴史史料の多様性を知る)	ワークシートの作成・提出
	12	史料を集める② (歴史資料の所在を知る)	ワークシートの作成・提出
	13	フィールドワーク実習③ (史料を集める)	ワークシートの作成・提出
	14	史料を読む①	ワークシートの作成・提出
	15	史料を読む②	ワークシートの作成・提出
	16	(対) イントロダクション、後期の授業計画の確認 (担当：深澤16～31回)	到達目標の確認
	17	(対) 『沖縄県史』と県内市町村史の刊行状況	レジュメの参考文献にあたる
	18	(対) 県内市町村史の資料編—文献資料集に接する—	課題の作成と提出
	19	(対) 近世琉球の地域社会—宜野湾間切我如古村の世界—	レジュメの参考文献にあたる
	20	(対) 我如古旧集落のフィールドワーク	字我如古の小字を確認する
	21	(対) 「日記総目録」の解題を読む	『琉球王国評定所文書』にあたる
	22	(対) 「日記総目録」を読む①	史料を音読する
	23	(対) 「日記総目録」を読む②	史料を音読する
	24	(対) 「日記総目録」を読む③	史料を音読する
	25	(対) 「日記総目録」を読む④	史料を音読する
	26	(対) 「日記総目録」を読む⑤	課題の作成と提出
	27	(対) 琉球・沖縄史研究と比嘉春潮	『比嘉春潮全集』全5巻にあたる
	28	(対) 「ある筆算人の一生」を読む①	課題の作成
	29	(対) 「ある筆算人の一生」を読む②	課題の作成
30	(対) 「ある筆算人の一生」を読む③	課題の作成	
31	(対) まとめ、3年次の取り組みについて	課題の提出、到達目標の再確認	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など          特定のテキストは使用せず、レジュメ・プリントを配付する。          参考文献は、適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>① 社会文化学科 2 年次を対象とした学科専門必修科目である。          ② 1 年次の学年末に提出した領域演習希望届に基づき、歴史領域に配属された者だけが履修できる。          ③ ゼミは、学生の主体的な学びによって成り立つので、積極的な参加が求められる。          ④ 前期、後期の詳細な内容は、それぞれの担当者が 1 回目の授業の際に説明する。</p>
	<p>評価</p> <p>上記の到達目標の達成を指標として、前期、後期それぞれ100点で評価し、合算して総合成績とする。なお、担当者ごとの評価方法と割合は、下記の通りとする。          藤波：事実確認（25%）、先行研究調査（25%）、史料読解（25%）、フィールドワーク（20%）、遠隔授業関連（5%）の各課題          深澤：課題（80%）、授業参加度（20%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>歴史領域の 2 年次は、領域演習の他に「社会調査法 I・II」「外国語資料講読演習 I・II」が必修科目となっている。それぞれクラス指定があるので、指定されたクラスで受講すること。          また、異文化理解科目のうち 1 科目以上が選択必修科目となっているが「アジア史」は必ず履修すること。          歴史研究にとって史料読解は不可欠の能力なので、「古文書講読 I・II」は早めに修得することを勧める。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	領域演習	通年	木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：上原 静 後期：宮城 弘樹	2年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	考古学はモノを通して学ぶ学問である。したがって実際に発掘することによって、まず調査の方法（測量、層位の識別、遺物の検出、データの整理法、図版作成など）について学ぶ。しかし、遺跡の発掘は、一種の遺跡破壊行為でもある。一度発掘してしまうと、遺跡は再び元には戻らない。このことを十分認識し、発掘に際しては周到な計画と、細心の注意が必要なることを理解してもらう。そうす	考古学領域は他のコースと異なり、前期、後期を一環して行うため、コース選択の際に注意すること。

到達目標	考古学の専門用語を学ぶ。 考古学におけるモノの捉え方、考え方、調査方法を学ぶ。 発掘調査報告書や論文が読め、内容の発表ができる。
------	------------------------------------------------------------------------

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1～5週 考古学の考え方を把握してもらう。 第6～10週 沖繩の先史文化について概説する。 第11～15週 土器、石器、骨器、貝器、陶磁器などの人工遺物について紹介する。 第16～18週 遺物の洗浄、註記、分類、集計を行う。 第19～25週 遺物の観察、実測、トレースを行う。 第26～30週 図版の作成とともに記述を行い、発掘調査報告書を仕上げる。</p> <p>時間外は参考文献、配布資料を精読してもらう。</p>

テキスト・参考文献・資料など	藤本 強『考古学を学ぶ』雄山閣出版 1966年 高宮廣衛『先史古代の沖繩』第一書房 1991年 佐々木憲一他『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ 2011年 他多数、講義において随時紹介する。
----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの手立て	考古学領域は卒業後にはすぐ専門職に就けるような修学の組み立てをしています。コース選択の際に注意すること。考古学はモノを対象に研究することから、積極的に屋外にでて、遺跡や貝塚を訪れ、また、資料館、博物館で実際のモノをみましよう。
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価	1、レポート、随時試験を課す（90%）。 2、遅刻、欠席は減点の対象とする（10%）。
----	------------------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「南島先史学」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「考古学特講Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」「考古学概論2」 。先史古代の環境と社会文化の関わりについて、多様な視点でみる必要から社会文化学科提供科目を広く受講する。
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名 歴史学概論	期別 後期	曜日・時限 火 2	単位 2
	担当者 藤波 潔	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、歴史を学ぶ目的を確認した上で、人間が過去の出来事をもとにどのように認識してきたのかについて考察する。また、歴史認識をめぐる摩擦という現代的課題について、その問題の所在を幾つかの事例に基づいて把握する。これにより、歴史を学ぶことにおける人間と社会の関係を理解し、その前提に立って歴史を学ぶことの意味を考えられるようにすることを目的とする。	メッセージ ① この科目は、社会文化学科1年時を対象とした、学科専門の必修科目です。原則として、対面形式で実施します。 ② また、「学問体系の基本を理解する」ことを目的とした「基礎科目」として位置づけられているので、「学問としての歴史学」を学びます（日本史や世界史のような通史をまなぶものではありません）。
	到達目標 (1) 特定の歴史理論について、その理論が登場した当時の時代や社会との関わりから説明することができる。 (2) 現代社会の状況を踏まえつつ、「歴史問題」の実態を理解し、その問題の所在を自らの言葉で論理的に表現することができる。 (3) 歴史認識の歴史に関わる人物や基本的な歴史理論を修得し、特定の歴史理論について論理的に説明できる。 (4) 歴史認識に関する資料を読解し、その結果を表現できる。 (5) 時間外学習に主体的に取り組み、「学問としての歴史」を学ぼうとする姿勢を有することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1 対) 09/29	ガイダンス：講義に関するルールは何か？
	2 対) 10/06	イントロダクション：なぜ、どのように歴史を学ぶのか？
	3 対) 10/13	社会と歴史認識の関係①（ギリシア・ローマ①）
	4 対) 10/20	社会と歴史認識の関係②（ギリシア・ローマ②）
	5 対) 10/27	社会と歴史認識の関係③（ヨーロッパ中世社会の特徴）
	6 対) 11/10	社会と歴史認識の関係④（中世社会と普遍史の成立）
	7 対) 11/17	社会と歴史認識の関係⑤（ルネサンス的歴史認識）
	8 対) 11/24	社会と歴史認識の関係⑥（啓蒙主義の時代と進歩史観）
	9 対) 12/01	社会と歴史認識の関係⑦（19世紀ヨーロッパ世界とロマン主義）
	10 対) 12/08	社会と歴史認識の関係⑧（ランケと近代歴史学の成立）
	11 対) 12/15	社会と歴史認識の関係⑨（唯物史観とアナール派）
	12 対) 12/22	現代の「歴史問題」①（独仏間の事例）
	13 対) 01/05	現代の「歴史問題」②（日韓間の事例①）
	14 対) 01/12	現代の「歴史問題」③（日韓間の事例②）
	15 対) 01/19	現代の「歴史問題」④（問題の所在と克服へ向けて）
16	レポート型学期末試験	
時間外学習の内容		
シラバス記載内容の理解		
ワークシートの作成・提出		
ワークシートの作成・提出		
ワークシートの作成・提出		
ワークシートの作成・提出		
ワークシートの作成・提出		
ワークシートの作成・提出		
ワークシートの作成・提出		
ワークシートの作成・提出		
ワークシートの作成・提出		
ワークシートの作成・提出		
ワークシートの作成・提出		
ワークシートの作成・提出		

実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。 主な参考文献は、下記の通り。 ①山本博文『歴史をつかむ技法』（新潮社、2013年）、②弓削達『歴史学入門』（東京大学出版会、1986年）、③E. H. カー『歴史とは何か』（岩波書店、1962年）、④南塚信吾『世界史なんていらない？』（岩波書店、2007年）、他
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの手立て	① 履修の心構え 単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。講義をしっかりと聴き、重要な点はメモを作成した上で、ノートの作成に取り組んで、ワークシートを作成・提出するようにしてください。 ② 学びを深めるために 講義内容を振り返ることができる、自分独自の「ノート作成術」を確立してください。ノートは、講義中に作成する「メモ」、講義資料、板書内容等に基づいて、講義の後に復習を兼ねて作成するものです。
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価	到達目標 (1) の評価 : レポート (30%)      到達目標 (2) の評価 : レポート型学期末試験 (30%) 到達目標 (3) (4) の評価 : ワークシートの内容 (25%) 到達目標 (5) の評価 : ワークシートの提出 (15%) による総合評価とする。なお、それぞれの評価基準については、最初の講義の時に説明する。なお、出席が講義回数分の3分の2に満たない者は、レポートと試験の評価の対象外です。
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会文化学科専門科目の1年次対象の基礎教育科目は、他に5科目あります。これらの科目を履修して、それぞれの専門分野の学問体系の基礎を学んだ上で、2年次の領域演習や、3年次以降の演習Ⅰ・Ⅱを選択するようにしてください。
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	歴史学特殊講義Ⅱ	前期	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-近藤 健一郎	2年	kkondo@edu.hokudai.ac.jp	

学びの準備	ねらい 近代沖縄における政治的な流れをふまえて、その時代に沖縄の人々の生活の変化について主に「教育」の側面から考えたい。 この授業を通じて、現在の沖縄について考える視点として、歴史的な時間軸のなかで現在をとらえるという見方・考え方を伝えられたらと考えています。	メッセージ 近代沖縄史で取り上げるべき事項はたくさんあります。必ずしも応えられるとは限りませんが、集中講義で取り上げてほしいトピックがあれば、上記のメールアドレスまでお知らせください。 授業担当者は、近代沖縄教育史、とくに標準語励行や方言札など、ことばの教育の歴史を中心に、いわゆる「同化」教育の歴史的な研究をしています。
	到達目標 この授業を通じて、近代沖縄史に関する基礎知識、歴史的に現在を見ようとする考え方、史料によって歴史的な事象をとらえる学習方法を修得できるようになることが到達目標です。具体的にすれば、 ①1870年代から1945年の近代沖縄がいくつかの時期に分けられることを理解でき、それぞれの特徴を概観できるようになる。 ②近代沖縄のできごとが昔のお話ではなく、現在に連なるものとしてとらえられるようになる。 ③近代沖縄に書かれた史料を読んで、それが意味することを読み取れるようになる。 これらのことを到達目標にして、授業を展開します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（授業のねらいや進め方） 1日目午前	受講の目標を考える
	2	「琉球処分」から「旧慣存続」（1870年代～1890年代半ば） 1日目午前	配布資料を読み直し、理解する
	3	琉球処分直後の学校設置と『沖縄対話』 1日目午後	配布史料を再読し考える
	4	「旧慣改革」（1890年代後半～1920年） 2日目午前	配布資料を読み直し、理解する
	5	沖縄における徴兵令施行 2日目午前	配布資料を読み直し、理解する
	6	方言札の始まり 2日目午後	配布史料を再読し考える
	7	「ソテツ地獄」（1920年代） 3日目午前	配布資料を読み直し、理解する
	8	沖縄からの移民・出稼ぎ 3日目午前	配布資料を読み直し、理解する
	9	移民・出稼ぎの奨励と教育 3日目午後	配布史料を再読し考える
	10	総力戦体制から沖縄戦（1930年代後半～1945年） 4日目午前	配布資料を読み直し、理解する
	11	学徒隊 4日目午前	配布資料を読み直し、理解する
	12	「学童疎開」 4日目午後	配布史料を再読し考える
	13	ことばの教育史1－「普通語ノ励行方法答申書」（1915年） 5日目午前	配布史料を再読し考える
	14	ことばの教育史2－「人気者」（1935年） 5日目午前	配布史料を再読し考える
	15	まとめ 5日目午後	これまでの授業を振り返る
16	レポート作成 5日目午後	これまでの授業での理解を整理する	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しません。 基本的に1～4日目午前1限は、新城俊昭『高等学校 琉球・沖縄史』を用いて、概説的な知見を整理します（必ずしも高等学校、大学において、沖縄近代史を学習しているとは限らないという前提に立っています。前提に当てはまらない学生は、既習事項の復習とってください）。 1～4日目午前2限は、新旧の『沖縄県史』などの基本文献を用いて（文献は授業で紹介し）、ある事象をもう少し詳しく学習します。
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの実践	学びの手立て 授業で配布・紹介する文献を通じて、近代沖縄が時期によってどのように変わっていたかを理解できるよう、歴史的知見を獲得するよう努めてほしい。そして、授業で配布する史料を自ら読み、歴史的知見を豊かなものにしてほしい。
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの実践	評価 平常点は、以下のように評価する。1限については配布資料を見ながらの確認テスト。2限と3限については授業直後に提出するコメント用紙の記述内容。あわせて60%。 レポートについては、授業で興味をもった史料（自ら探すことも可）をどのように読み、とらえたかを記すもの。40%。
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 琉球・沖縄史はもちろん、沖縄に関するあらゆる事項と関連する。各自の関心ある領域を深める一助にしてほしい。 (2) 史資料をどのように読むかに留意して、各自の関心ある領域を深めてほしい。
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------